

BladeSymphony

BS2000 用 リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド

(リモートコンソールアプリケーション Version 05-02 対応)

第 10 版 2013 年 6 月

HITACHI

マニュアルはよく読み、保管してください。
操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

重要なお知らせ

本書の内容の一部、または全部を無断で転載、複写することは固くお断りします。
本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
本書の内容については万全を期しておりますが、万一不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらお問い合わせ先へご一報くださいますようお願いいたします。
本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

登録商標・商標について

Microsoft, Windows, Windows Server, Hyper-V は米国 Microsoft Corp.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat Inc.の商標または登録商標です。
その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

技術情報、アップデートプログラムについて

最新のドライバやユーティリティ、アップデートプログラムなどを「BladeSymphony ホームページ」で提供しております。

ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/index.html>

各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にご使用していただくためにも、ホームページの[ダウンロード]は定期的にアクセスして最新のドライバやユーティリティへ更新していただくことをお勧めします。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権に保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2009, 2013. All rights reserved.

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。
なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

はじめに

このたびは日立 BladeSymphony をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
このマニュアルは、サーバブレードに搭載されたリモートコンソールを使用するための
リモートコンソールアプリケーションに関する使用方法、取り扱いの注意などについて
記載しています。

BS2000 用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド第 10 版は、
リモートコンソールアプリケーション Version 05-02 に対応しています。

マニュアルの表記

マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。



人身の安全や装置の重大な損害と直接関係しない注意書きを示します。



装置を活用するためのアドバイスを示します。

オペレーティングシステム (OS) の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
(以下、Windows Server 2012 Standard または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版
(以下、Windows Server 2012 Datacenter または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版 32-bit
(以下 Windows Server 2008 Standard 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版 32-bit
(以下 Windows Server 2008 Enterprise 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版 32-bit
(以下 Windows Server 2008 Datacenter 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V 日本語版 32-bit 版
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V 日本語版 32-bit 版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V 日本語版 32-bit 版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard 64bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise 64bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter 64bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 64bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 64bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V 日本語版
(以下 Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 64bit または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
(以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition 日本語版
以下 Windows Server 2003, Standard Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition 日本語版
以下 Windows Server 2003, Enterprise Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition 日本語版
以下 Windows Server 2003, Standard x64 Edition または Windows)

Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版
以下 Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition または Windows)

Microsoft® Windows® 8 64bit 日本語版
(以下、Windows 8 64bit または Windows)

Microsoft® Windows® 8 Professional 64bit 日本語版
(以下、Windows 8 Professional 64bit または Windows)

Microsoft® Windows® 8 32bit 日本語版
(以下、Windows 8 32bit または Windows)

Microsoft® Windows® 8 Professional 32bit 日本語版
(以下、Windows 8 Professional 32bit または Windows)

Microsoft® Windows® 7 Professional 64bit 日本語版
(以下 Windows 7 Professional 64bit または Windows)

Microsoft® Windows® 7 Professional 32bit 日本語版
(以下 Windows 7 Professional 32bit または Windows)

Microsoft® Windows Vista® Business 日本語版
 (以下 Windows Vista Business または Windows)

Microsoft® Windows® XP Professional Operating System 日本語版
 (以下 Windows XP Professional または Windows)

Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System 日本語版
 (以下 Windows XP Home または Windows)

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに
 用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012	Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter
Windows Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise
Windows Server 2008	Windows Server 2008 Standard 64-bit Windows Server 2008 Enterprise 64-bit Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 64-bit Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 64-bit Windows Server 2008 Standard 32-bit Windows Server 2008 Enterprise 32-bit Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32-bit Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32-bit
Windows Server 2008 64bit	Windows Server 2008 Standard 64bit Windows Server 2008 Enterprise 64bit Windows Server 2008 Datacenter 64bit Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 64bit Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 64bit Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 64bit
Windows Server 2008 32bit	Windows Server 2008 Standard 32bit Windows Server 2008 Enterprise 32bit Windows Server 2008 Datacenter 32bit Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32bit Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32bit Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V 32bit
Windows Server 2003	Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003, Standard x64 Edition Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows Server 2003, Standard Edition Windows Server 2003, Enterprise Edition
Windows Server 2003 R2 (32 ビット)	Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
Windows Server 2003 (x64)	Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003, Standard x64 Edition Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003 (32 ビット)	Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows Server 2003, Standard Edition Windows Server 2003, Enterprise Edition

Windows 8	Windows 8 64bit 日本語版 Windows 8 Professional 64bit 日本語版 Windows 8 32bit 日本語版 Windows 8 Professional 32bit 日本語版
Windows 7 Professional	Windows 7 Professional 64bit 日本語版 Windows 7 Professional 32bit 日本語版
Windows XP	Windows XP Professional 日本語版 Windows XP Home 日本語版

お問い合わせ先とお願い

お問い合わせ先

日立ソリューションサポートセンタ

■ BladeSymphony サポートサービス

フリーダイヤル：契約締結後、別途ご連絡いたします。

受付時間：8：00～19：00

（土・日・祝日・年末年始を除く）

お願い

質問内容をFAXでお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
BladeSymphony サポートサービスでお答えできるのは、製品のハードウェアの機能や操作方法などです。OS や各言語によるユーザプログラムの技術支援は除きます。
明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

サーバブレードに添付されている「ソフトウェアガイド」「ユーザーズガイド」をご参照ください。

目次

重要なお知らせ	2
登録商標・商標について	2
技術情報、アップデートプログラムについて	2
著作権について	2
はじめに.....	3
マニュアルの表記	3
お問い合わせ先とお願い	7
1 お使いになる前に	10
1.1 事前に準備いただくこと	10
1.2 システム装置の接続.....	10
1.3 アプリケーションCDについて	11
2 リモートコンソールの概要.....	12
2.1 特徴	12
2.2 動作環境・制限事項.....	13
3 インストールおよびセットアップ方法.....	19
3.1 インストール方法	19
3.2 アンインストール方法	25
3.3 IPアドレス設定方法	27
3.4 リモートコンソール設定.....	28
4 使用方法	29
4.1 アプリケーション起動方法	29
4.2 リモートコンソール起動方法.....	33
4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法	37
4.4 リモートFD使用方法.....	54
4.5 リモートCD/DVD使用方法.....	64
4.6 サーバブレード識別ランプ操作方法.....	74
4.7 ビデオデータ圧縮使用方法	76

4.8	サーバブレード情報表示方法.....	77
4.9	マウスモード設定方法	79
4.10	画面表示範囲の変更方法.....	80
5	詳細設定方法	82
5.1	設定ユーティリティ起動方法.....	82
5.2	サーバ情報表示	84
5.3	ツールバー	87
5.4	セッション数制限.....	88
5.5	ログアウト時間	89
5.6	初期値一覧	90
6	ご注意	91
6.1	キーボード入力制限に関して	91
6.2	ショートカットキー	93
6.3	メッセージについて	94
7	Q&A	95
7.1	リモートコンソールに接続できない場合の手順.....	99
7.2	アプリケーションのバージョン確認方法.....	100
7.3	リモートコンソールのファームウェアバージョン確認方法.....	102
7.4	Red HatオリジナルCDを使用する際のインストール	103
7.5	リモートFD、リモートCD/DVDが使用できない場合の復旧方法	104

1

お使いになる前に

この章では、サーバブレードの概要およびリモートコンソールアプリケーションをインストールする前に知っておいていただきたい内容について説明します。

1.1 事前に準備いただくこと

リモートコンソールをお使いになる前に、お客様に以下の周辺機器をご用意いただく必要があります。

- ・ コンソール端末用 PC（以下コンソール端末）
- ・ LAN ケーブル（ストレートまたはクロス）
- ・ リモートコンソールアプリケーション CD



コンソール端末の推奨条件およびLANケーブルについての必要条件は「2.2 動作環境・制限事項」をご参照ください。

1.2 システム装置の接続

ご用意頂いたコンソール端末とシステム装置のマネジメントモジュールを LAN 接続してご使用ください。LAN 接続には、サーバブレード背面の管理ネットワーク用ポートを使用してください。詳細は「ユーザズガイド」の「システム装置の接続」を参照ください。

1.3 アプリケーションCDについて

リモートコンソールをご使用になる前に次の点をご確認ください。
もし不具合がある時は、サポートサービスにご連絡ください。

- ・形式が注文通りの物であるか？
- ・破損したところはないか？
- ・アプリケーションCDの内容が、以下の「アプリケーション一覧」通りであるか？

リモートコンソールアプリケーション CD



アプリケーション一覧

アプリケーション名称	対象装置	収容ディレクトリ
リモートFDドライバ	サーバブレード	[CD/DVD ドライブ]:%inf
リモートコンソール アプリケーション インストーラ	コンソール端末	[CD/DVD ドライブ]:%reclient_JP
リリースノート		[CD/DVD ドライブ]:
BS320 用リモートコンソール ユーザーズガイド		[CD/DVD ドライブ]:
BS2000 用リモートコンソール ユーザーズガイド		[CD/DVD ドライブ]:

…
補足 リモートコンソールアプリケーション CD はお買い上げいただきました
サーバブレードに添付のものをお使いください。

…
補足 BS2000 では、リモートFDドライバのインストールは必要ありません。

2

リモートコンソールの概要

この章ではリモートコンソールの概要について説明します。

2.1 特徴

リモートコンソール

BladeSymphony BS2000 では、各サーバブレードのコンソールとしてリモートコンソールを使用します。
リモートコンソールは以下の機能を備えます。

電源操作機能

サーバブレードの電源 ON/OFF、リセット、NMI 発行を行うことができます。

リモート KVM 機能

サーバブレードの EFI (BIOS)画面/OS 画面を、遠隔地にあるコンソール端末上に LAN を経由して表示します。またキーボード、マウスの遠隔操作を可能とします。

リモート FD 機能、リモート CD/DVD 機能

リモート FD 機能とは、コンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブをサーバブレードから参照する機能です。コンソール端末上の FD イメージを参照することもできます。

リモート CD/DVD 機能とは、コンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブをサーバブレードから参照する機能です。コンソール端末上の CD/DVD イメージを参照することもできます。

リモート FD 機能、リモート CD/DVD 機能を使用してサーバブレードの OS を起動することも可能です。

2.2 動作環境・制限事項

コンソール端末の動作条件

コンソール端末の動作条件として、以下の項目を満たしてください。

コンソール端末	動作条件
OS	Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2008 Standard 32bit Windows Server 2008 Enterprise 32bit Windows Server 2008 Standard without Hyper-V 32bit Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V 32bit Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows 8 64bit Windows 8 Professional 64bit Windows 8 32bit Windows 8 professional 32bit Windows 7 Professional 32bit Windows 7 Professional 64bit Windows Vista Business Windows XP Professional Windows XP Home
CPU	動作クロック 1GHz 以上
メモリ	512MB 以上
表示解像度	1,024 x 768 ドット以上
LAN	100Base-TX 以上
CD/DVD ドライブ	コンソール端末内蔵の CD/DVD ドライブ または、USB 接続の CD/DVD ドライブ USB 接続の CD/DVD ドライブは USB2.0 準拠のドライブ を推奨
FD ドライブ	コンソール端末内蔵の FD ドライブ または、USB 接続の FD ドライブ



より快適にお使いになるために動作条件以上の性能を満たすコンソール端末の使用を推奨します。

LAN ケーブルの必要条件

カテゴリ-5 以上の規格に対応したケーブルをご使用ください。

リモートコンソールアプリケーション使用の制限

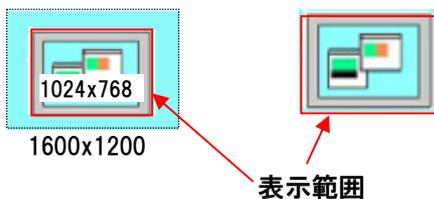
他のリモート機能プログラム（例：JP1/ServerConductor のリモート機能）からリモートコンソールアプリケーションを起動した場合、カーソルが2重に表示されるなど、操作が自然に行われれないという現象が発生します。リモートコンソールアプリケーションは他のリモート機能プログラムと組み合わせて使用しないでください。

リモートコンソールの表示解像度

コンソール端末側の表示解像度はサーバブレード側の解像度にかかわらず1024×768になります。サーバブレード側の解像度を1024×768以上に選択した場合は、選択した解像度画面の中の1024×768分だけ表示されます。サーバブレード側の解像度を1024×768以上に選択した場合、画面右および画面下にスクロールバーが表示され、スクロールバーの操作によりサーバブレード側画面の表示範囲を変更することができます。（詳細は、「4.10 画面表示範囲の変更方法」をご参照ください。）

サーバブレード側

コンソール端末側



コンソール端末には1024x768分だけ表示されます。画面は画面右および画面下のスクロールバーの操作によりスクロールします。「[Alt]+[F]」キーによりスクロールバーの操作が可能となります。

サーバディスプレイ条件

リモートコンソールを使用するときは、サーバブレード側のディスプレイ設定を変更する必要があります。正しく設定されていないと画面が乱れる場合があります。設定方法は「4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法」をご参照ください。

複数のコンソール端末からの接続（N:1通信）

複数のコンソール端末から1台のサーバブレードに対して、同時ログインを行うことはできません。

テンキー

コンソール端末に接続されるキーボードのテンキーは、コンソール端末上の「NumLock」の状態に関わらず、サーバブレードに接続されたキーボードの「NumLock」の状態に依存します。

マウスモード

サーバブレードのOSに応じ、マウスモードを設定する必要があります。詳細は「4.9マウスモード設定方法」をご参照ください。

メモリダンプについて

リモートコンソール使用時は、Windows Server 2003 OSでの「右[Ctrl]キー+[Scroll Lock]キー2回」押下によるメモリダンプファイルの作成はできません。

メモリダンプファイルを作成する必要がある場合は、リモートコンソールのツールバー[電源]のプルダウンより[NMI]をクリックするか、マネジメントモジュールからメモリダンプ操作を実行してください。

マネジメントモジュールからのメモリダンプ操作手順につきましては、「ユーザーズガイド」の「マネジメントモジュールの設定」をご参照ください。

リモートCD/DVD使用時のコンソール端末側の設定について

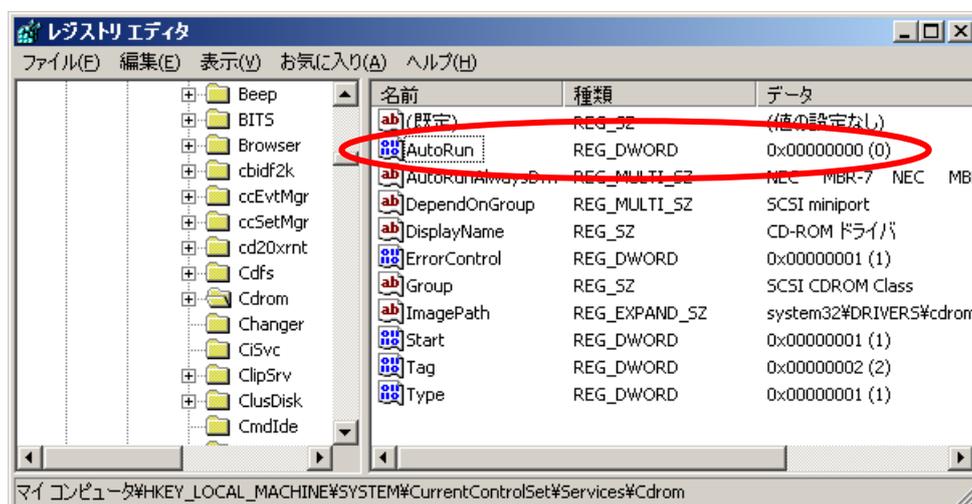
リモートCD/DVDをご使用になる際は、コンソール端末側のWindowsのCD/DVD自動再生機能（Auto Run機能）を無効にしてください。

CD/DVD自動再生機能（Auto Run機能）の設定は下記手順で行ってください。

CD/DVD自動再生機能（Auto Run機能）を無効にする方法

コンソール端末のOSが Windows Server 2003 R2 (32ビット) または Windows XP の場合

1. [スタート]—[ファイル名を指定して実行]から regedit を起動します。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Cdromを展開します。
3. AutoRun値のデータを 0 に設定し、regedit を終了します。
4. コンソール端末を再起動します。



CD/DVD自動再生機能を有効にしたい時は、AutoRun値を 1 に設定してください。

コンソール端末のOSが Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2008 32bit, Windows 7 Professional, Windows Vista Business 日本語版 のいずれかの場合

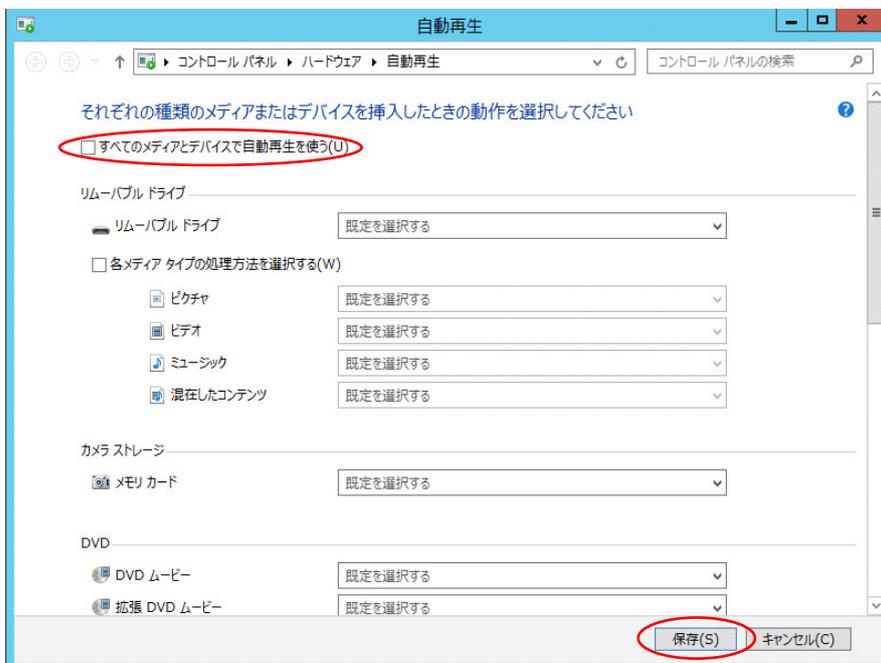
1. [スタート]—[コントロール パネル]の順にクリックします。
カテゴリ別の表示の場合は、[ハードウェア] または [ハードウェアとサウンド] をクリックします。
2. [自動再生] をクリックします。
3. [すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う]のチェックボックスをオフにして、[保存]をクリックします。



CD/DVD自動再生機能を有効にしたい時は、上記の1.～2.を行った後に3.でチェックボックスをオンにして[保存]をクリックしてください。

コンソール端末のOSが Windows Server 2012 または Windows 8 の場合

1. マウスイカーソルを右上の隅に移動した後、下に移動して[検索]をクリックします。
2. 検索ボックスに「自動再生」と入力して[設定] をクリックし、[自動再生] をクリックします。
3. [すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う]のチェックボックスをオフにして、[保存]をクリックします。



CD/DVD自動再生機能を有効にしたい時は、上記の1.～2.を行った後に3.でチェックボックスをオンにして[保存]をクリックしてください。

HVMモードでの電源操作について

リモートコンソールによる電源操作はサーバブレードに対して行われます。HVMが動作するサーバブレードに対する電源操作は、そのHVMが管理するすべてのLPARに対して影響が及びます。そのため、サーバブレードのOSモードがHVMモードの場合はリモートコンソールによる電源操作を無効にしており、下記の操作を実施することはできません。

電源オン、強制電源オフ、リセット、NMI

これらの操作は無効となります。また、無効である旨のメッセージは表示されません。

OSモードがHVMモードの場合、サーバブレードの電源操作はサーバブレードのWebコンソールにより実施して下さい。詳細は「ユーザズガイド」の「サーバブレード設定の詳細」をご参照下さい。

3

インストールおよびセットアップ方法

この章では、コンソール端末にリモートコンソールをインストール、アンインストールする方法、および IP アドレスの設定、サーバブレードのリモートコンソールセキュリティについて説明します。

3.1 インストール方法

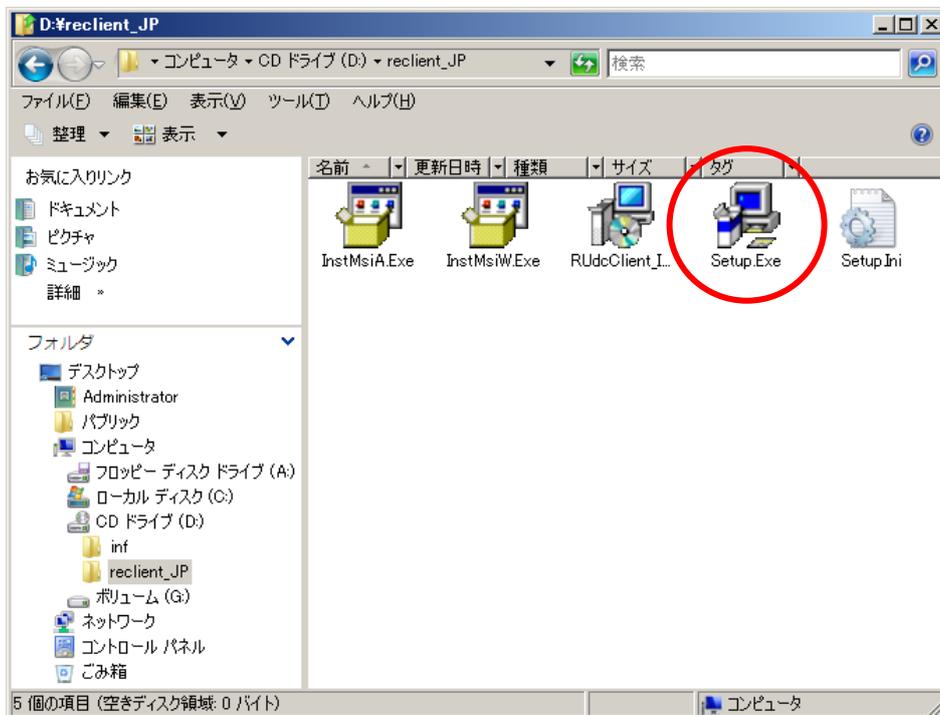
インストールを行う前に必ず旧バージョンのアンインストールを実施してください。
アンインストールの手順は「3.2 アンインストール方法」を参照ください。

リモートコンソールのインストールは、必ず管理者権限のあるユーザで行ってください。

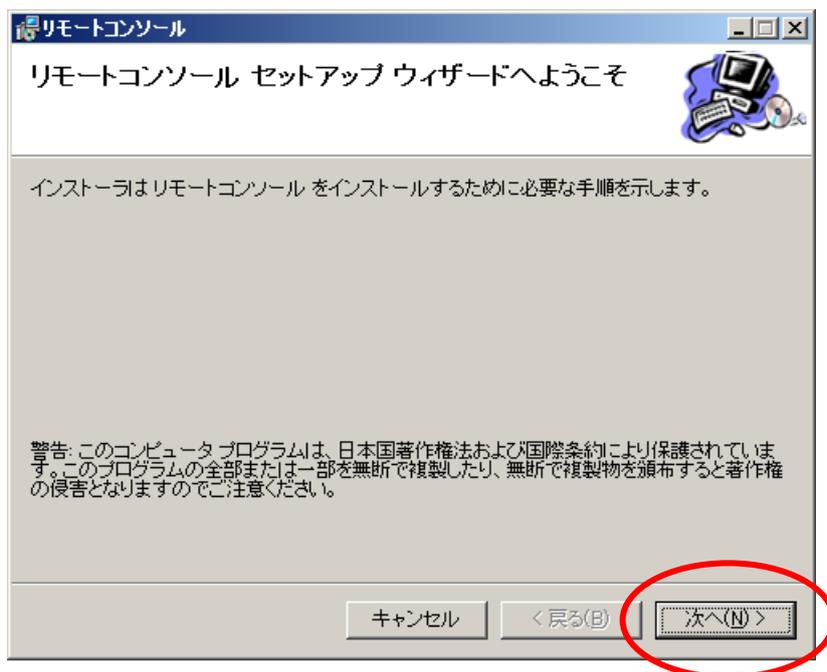
インストール手順

コンソール端末の Windows を起動し、リモートコンソールアプリケーション CD を CD ドライブに入れます。

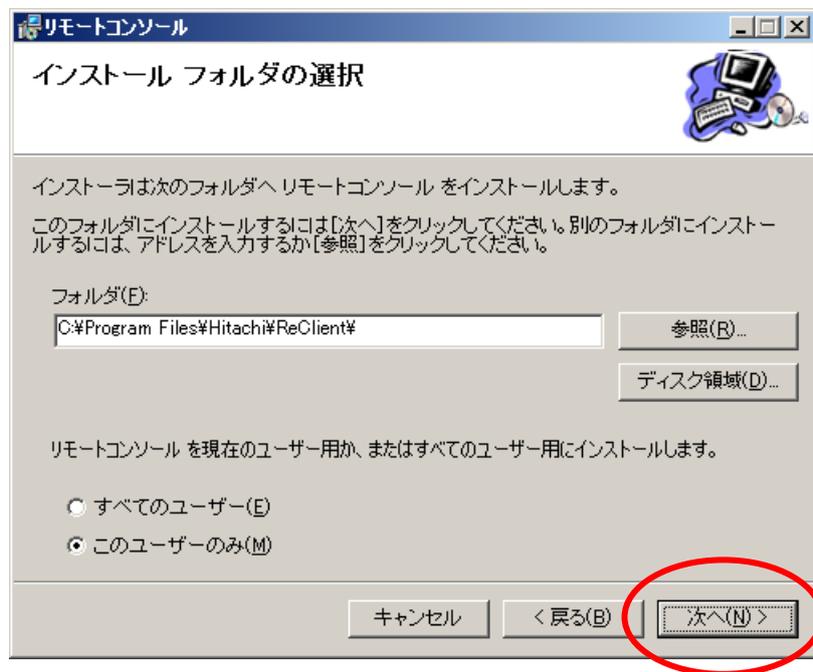
リモートコンソールアプリケーション CD 内の「reclient_JP」フォルダを開き、「Setup.exe」をダブルクリックしてインストーラを起動します。



リモートコンソールのインストーラが起動し、以下の画面が表示されますので、[次へ]をクリックします。
[キャンセル]をクリックした場合は「インストールを中止する場合」をご覧ください。

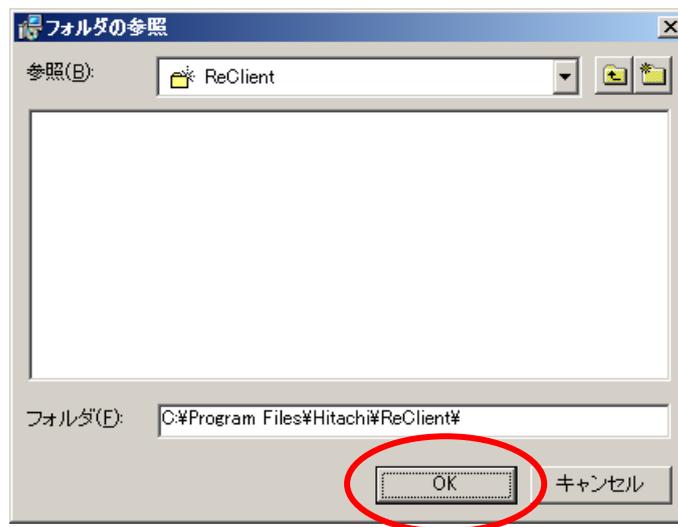


以下の画面が表示されますので、インストール先フォルダ、使用ユーザを選択し[次へ]をクリックします。
[キャンセル]をクリックした場合は「インストールを中止する場合」をご覧ください。

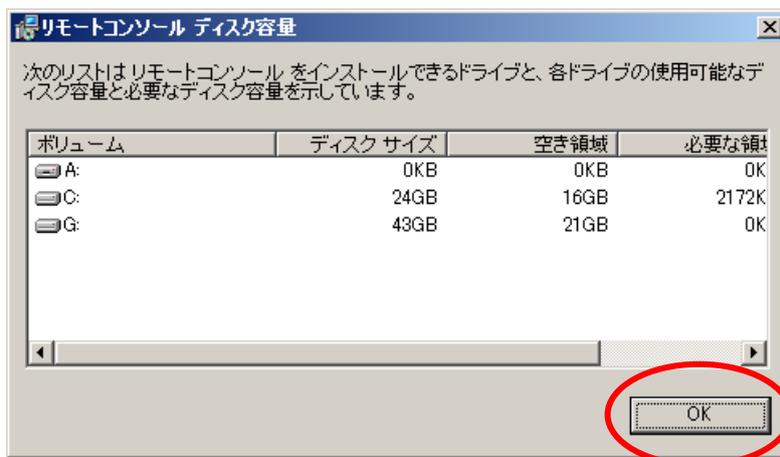


- すべてのユーザ：すべてのユーザがリモートコンソールを使用できます。
ただし、リモートコンソールを使用するユーザは管理者権限が必要となります。
- このユーザのみ：インストールしたユーザのみリモートコンソールを使用できます。

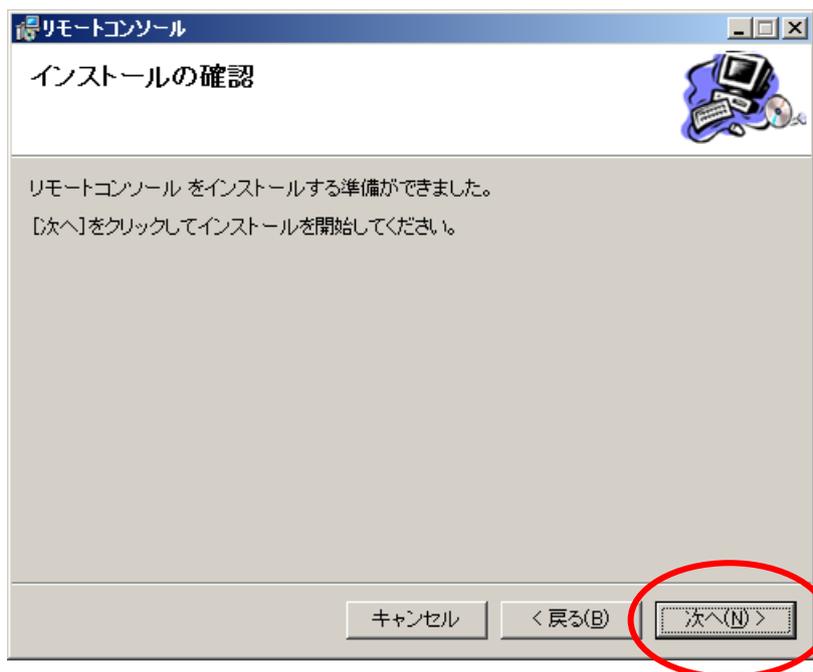
インストールフォルダを選択するには、選択フォルダ欄に直接入力、または[参照]をクリックします。[参照]をクリックすると以下の画面が表示されます。インストール先フォルダを選択し[OK]をクリックします。



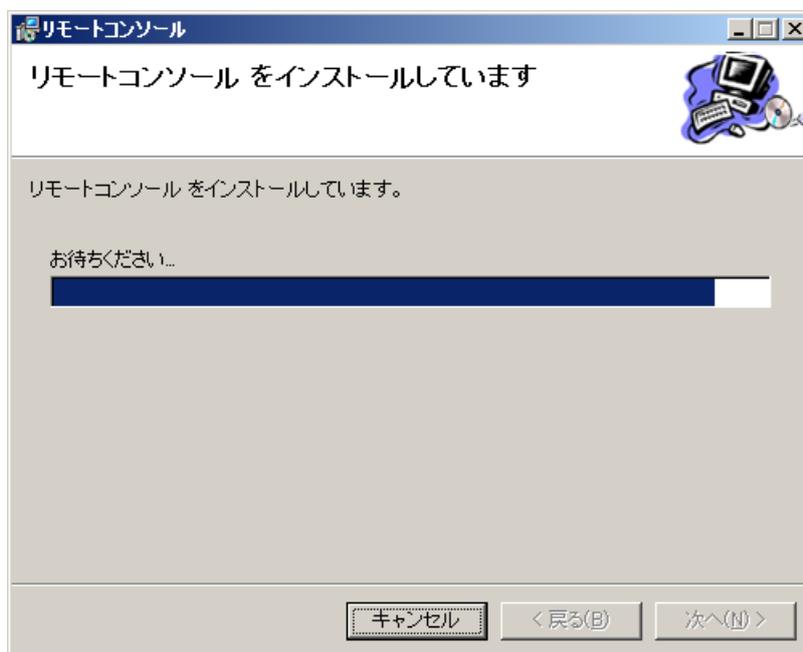
ディスクの容量を確認するには[ディスク領域]をクリックします。[ディスク領域]をクリックすると以下の画面が表示されます。確認できたら[OK]をクリックして画面を閉じます。



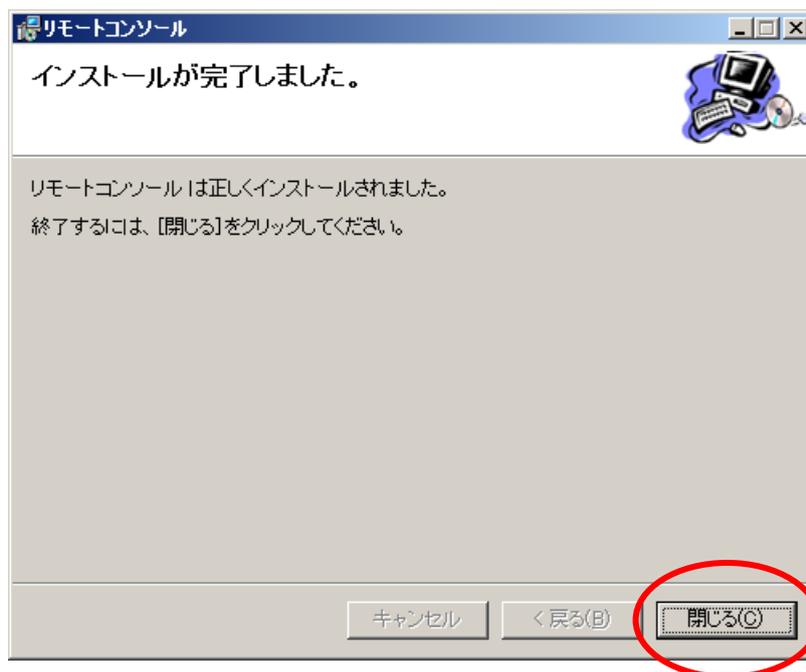
以下の画面が表示されますので、インストールを開始する場合は[次へ]をクリックし、インストールを開始してください。
[キャンセル]をクリックした場合は「インストールを中止する場合」をご覧ください。



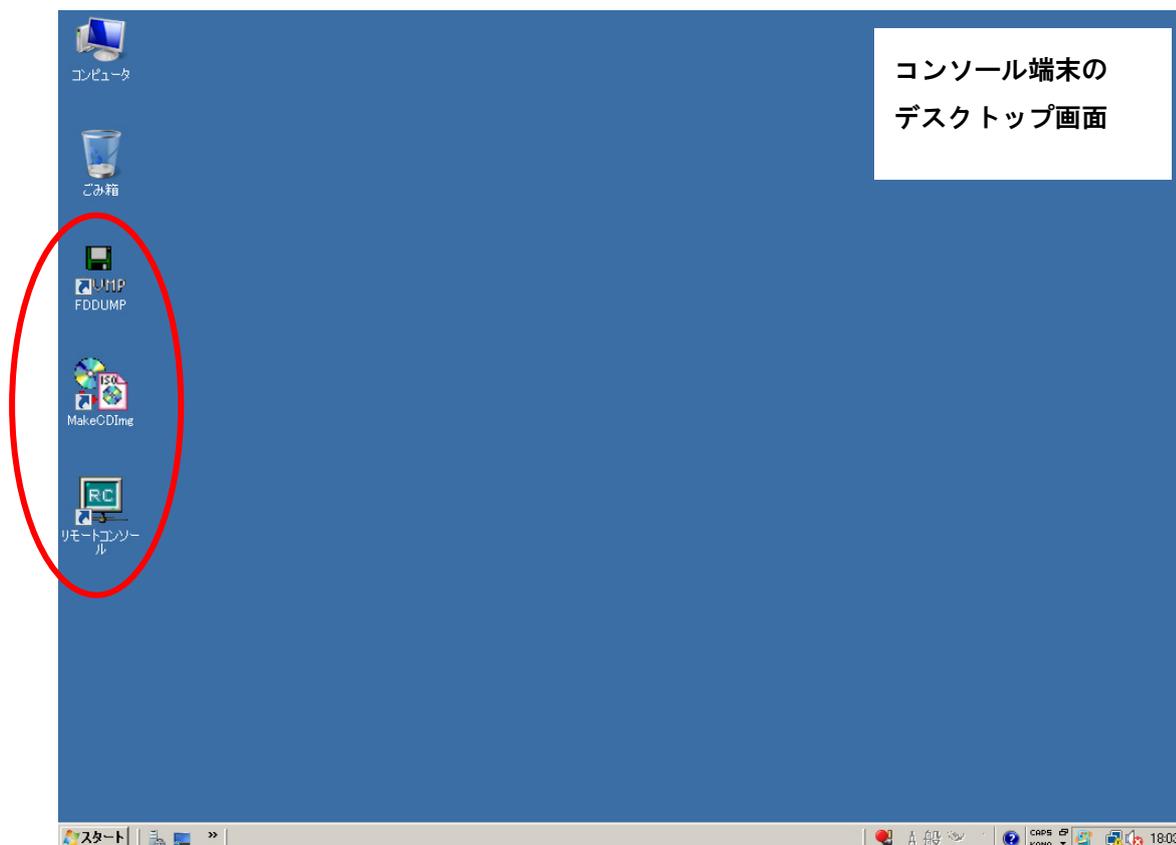
以下の画面が表示され、インストールが開始されます。
[キャンセル]をクリックした場合は「インストールを中止する場合」をご覧ください。



以下の画面が表示されましたらインストールは終了です。[閉じる]をクリックしてインストールを終了してください。

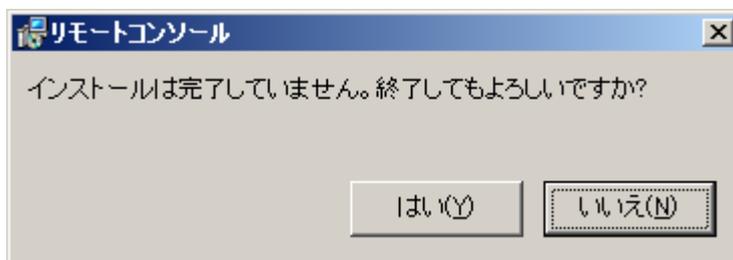


インストール終了後、コンソール端末のデスクトップに「リモートコンソール」、「FDDUMP」、「MakeCDImg」のショートカットが作成されます。

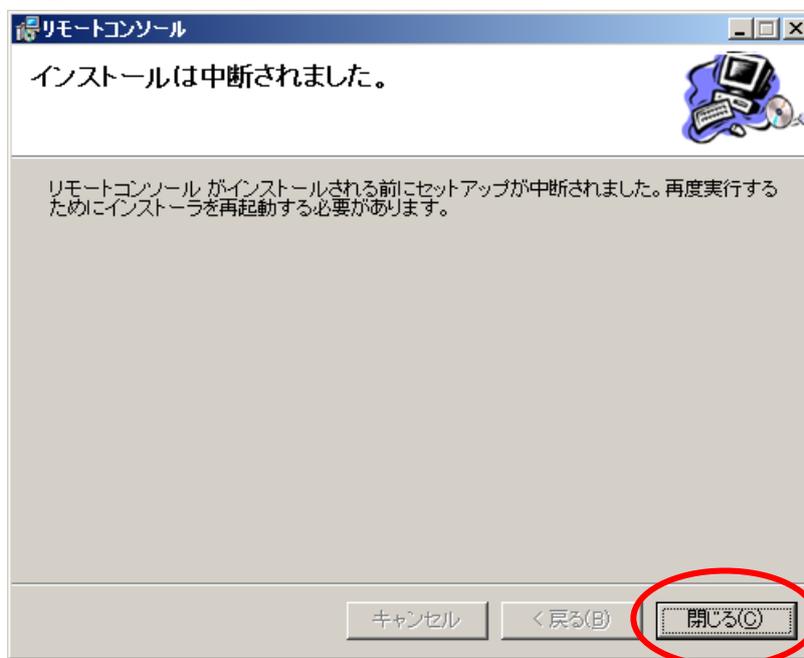


インストールを中止する場合

インストールを中止する場合は、[キャンセル]または[×]をクリックします。
[キャンセル]または[×]をクリックすると以下のメッセージが表示されます。
インストールを中止する場合は[はい]、インストールを続行する場合は[いいえ]をクリックします。



[はい]をクリックすると以下の画面が表示されます。[閉じる]または[×]をクリックしてインストーラを終了してください。

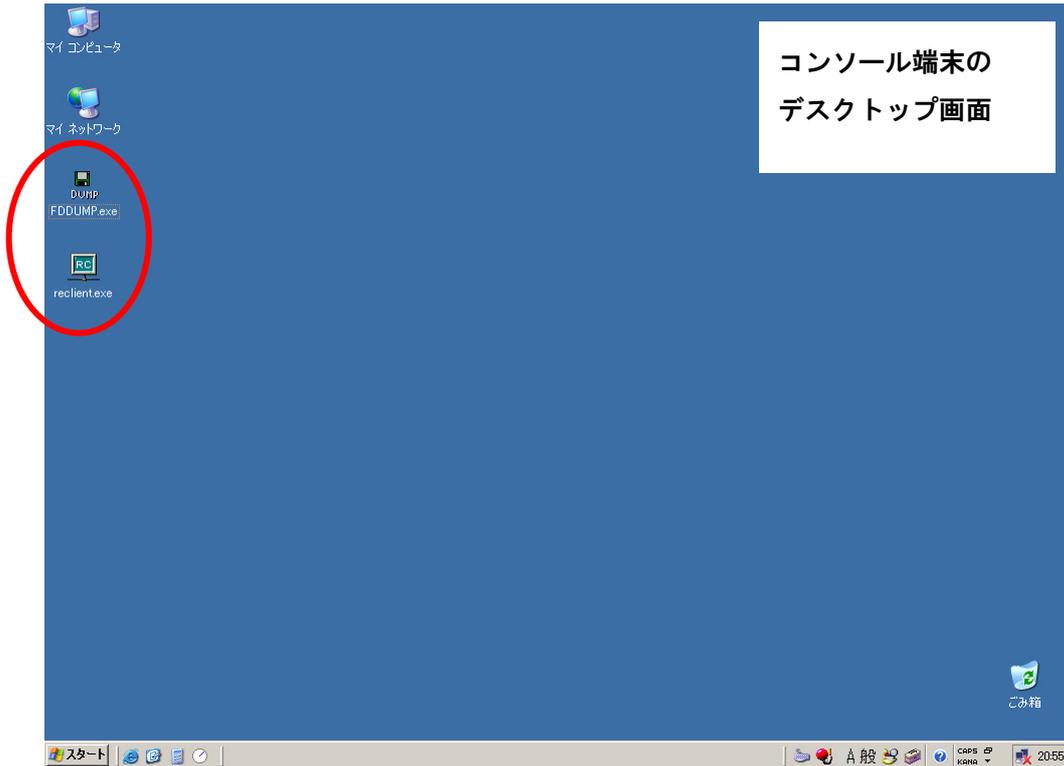


3.2 アンインストール方法

旧バージョンが (01-XX) の場合

リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)および FDDUMP(FDDUMP.exe)が起動している場合は終了してください。

デスクトップ上の「リモートコンソールアプリケーション」(reclient.exe)と「FDDUMP」(FDDUMP.exe)を削除してください。



以上でアンインストールは終了です。

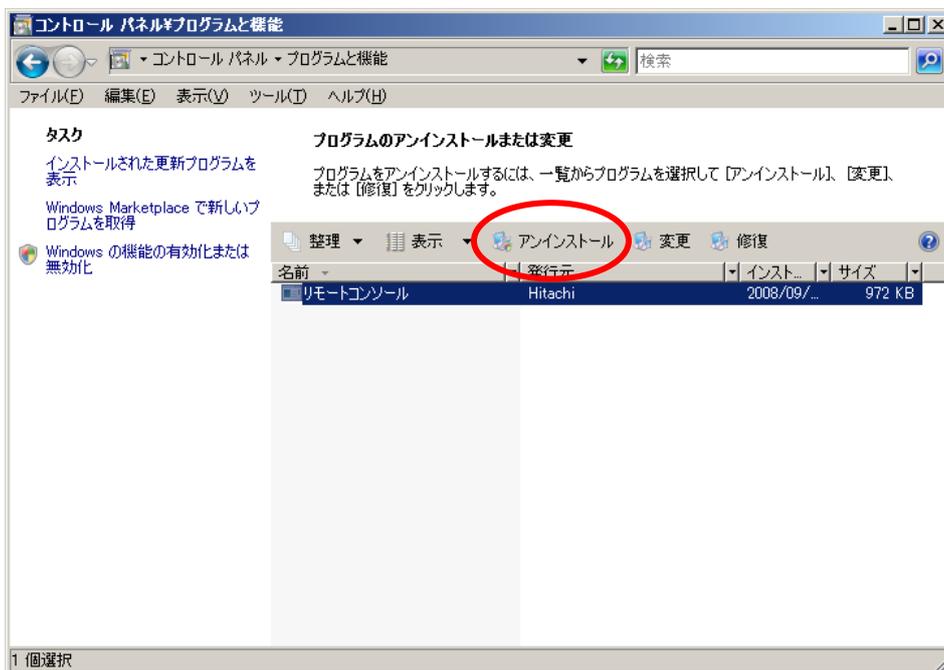
旧バージョンが（02-XX）以降の場合

制限 アンインストールを行うと、リモートコンソールアプリケーションの設定情報が消去されます。アンインストール前に設定を控えていただくをお願いします。

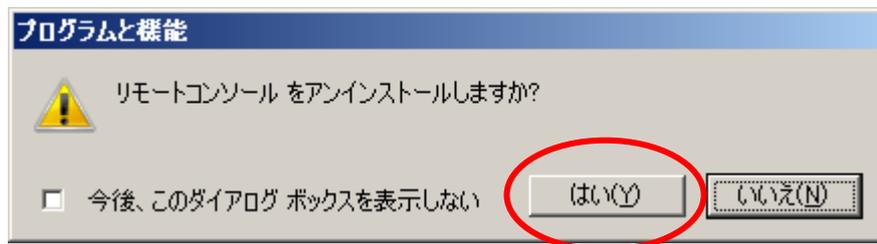
リモートコンソールのアンインストールは、必ずインストールを実施したユーザ（管理者権限のあるユーザ）が実施してください。

リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)、FDDUMP(FDDUMP.exe)、MakeCDImg(MakeCDImg.exe)および設定ユーティリティ(reutil.exe)が起動している場合は終了してください。

コンソール端末の Windows の「コントロールパネル」を開き、「プログラムと機能」または「プログラムの追加と削除」から「リモートコンソール」を選択し、[アンインストール]または[削除]をクリックしてアンインストールを開始します。



「リモートコンソール」のアンインストールを確認するメッセージが表示されます。アンインストールを行う場合は[はい]をクリックしてアンインストールを開始します。[いいえ]をクリックした場合は、アンインストールを中止して画面が閉じます。



アンインストールが終了すると画面は自動的に閉じます。画面が閉じた時点でアンインストールは終了です。アンインストールをキャンセルする場合は、[キャンセル]をクリックしてください。アンインストールを中止して画面が閉じます。

制限 アンインストールを中止した場合、各アプリケーションが起動できたとしても正常に動作しない場合があります。

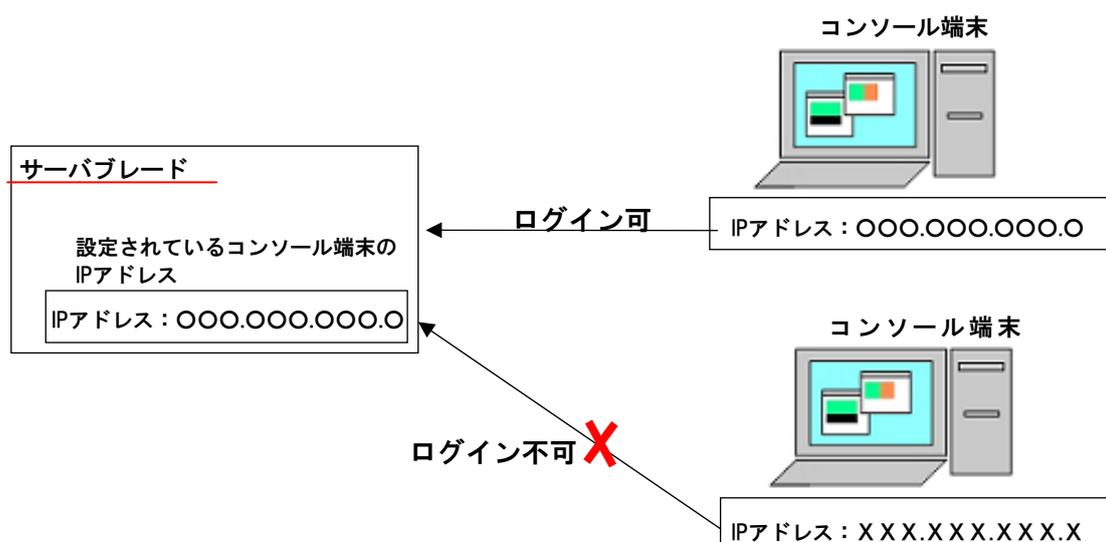
3.3 IPアドレス設定方法

リモートコンソールのログイン画面から接続先として指定する IP アドレスは、マネジメントモジュールで設定します。設定方法は、「ユーザズガイド」の「システムの運用と管理」を参照ください。

3.4 リモートコンソール設定

リモートコンソールでは不正なユーザの使用を防ぐため、以下のセキュリティを設けています。

- ・ ユーザ ID、パスワードによるログイン時の認証
- ・ ロールによるリモートコンソールを使用できるユーザの制限
- ・ IP アドレスチェックによる接続コンソール端末の制限



このため、リモートコンソール端末から該当のサーバブレードに接続するためのユーザ ID、パスワード、ロール、接続コンソール端末の制限、接続ポート番号の設定が必要となります。設定方法については、「ユーザズガイド」の「サーバブレード設定の詳細」を参照ください。

各設定のデフォルト値は以下の通りです。

項目	デフォルト
リモート KVM を使用可能なユーザ	ID: user01 password: pass01
接続ポート番号	5001
IP アドレス制限	制限しない
接続許可 IP アドレス 1	設定なし
接続許可 IP アドレス 2	設定なし
接続許可 IP アドレス 3	設定なし
接続許可 IP アドレス 4	設定なし

4

使用方法

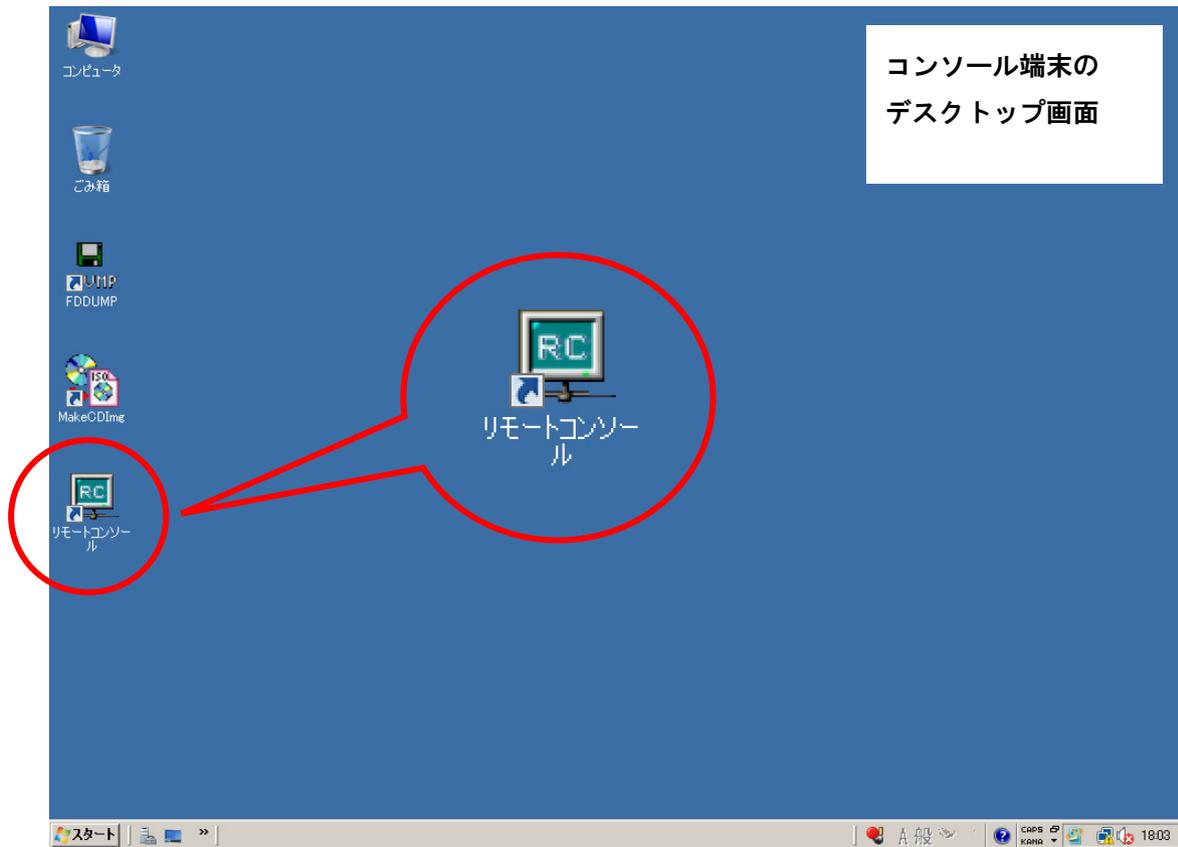
この章では、リモートコンソールアプリケーションの使用方法について説明します。

4.1 アプリケーション起動方法

リモートコンソールを使用するユーザは管理者権限が必要となります。コンソール端末に管理者権限のあるユーザでログインしてください。

コンソール端末とシステム装置を LAN により接続します。このとき、サーバブレード背面の管理ネットワーク用ポートを使用してください。詳細は、「ユーザーズガイド」の「システム装置の接続」を参照ください。

デスクトップ上にあるリモートコンソール (reclient.exe へのショートカットアイコン) をダブルクリックします。



アイコンをダブルクリックするとログイン画面が表示されます。リモートコンソール接続先の情報を入力し[接続]ボタンをクリックします。

※の項目は入力必須です。

各項目の設定

IP アドレス (入力必須)

IP アドレス欄には初期値「192.168.0.3」が入力されています。接続したいサーバブレードの IP アドレスを入力してください。

2 回目以降の接続の場合、IP アドレス欄には前回接続したときのニックネーム/IP アドレスが表示されます。また、IP アドレスのプルダウンには過去に接続したサーバブレードのニックネーム/IP アドレスが表示されます。プルダウン内の IP アドレスを選択すると、選択した IP アドレスが前回接続した時の情報がログイン画面に表示されます。

IP アドレス情報を削除したい場合、IP アドレス欄に削除したい IP アドレスを入力するか、プルダウンリストから削除したい IP アドレスを選択し、IP アドレス欄の右にある[削除]ボタンをクリックしてください。不要な IP アドレス情報は削除されます。

ニックネーム

接続先サーバに任意のニックネームを登録することができます。IP アドレス入力後、ニックネーム欄に任意のニックネームを入力してください。ニックネームは入力しなくても問題ありません。全角 10 文字/半角 20 文字まで入力可能です。

ユーザ ID (入力必須)

ユーザ ID の初期値は「user01」に設定されています。設定を変更した場合は、変更した値を入力してください。

パスワード (入力必須)

パスワードの初期値は「pass01」に設定されています。設定を変更した場合は、変更した値を入力してください。

ポート番号 (入力必須)

ポート番号の初期値は「5001」に設定されています。設定を変更した場合は、変更した値を入力してください。

パスワードを記憶する

パスワードを記憶するチェックボックスの機能は以下の通りです。必要に応じて使い分けてください。

チェック有り：パスワードを記憶します。同一 IP アドレスへの次回接続時にパスワードの入力が不要になります。

チェック無し：パスワードを記憶しません。同一 IP アドレスへの次回接続時にパスワードの入力が必要になります。

現在の接続を切断する

この項目は、リモートコンソールを 2 つ以上接続する時に選択可能となります。「4.2 リモートコンソール起動方法」をご参照ください。

「現在の接続を切断する」チェックボックスの機能は以下の通りです。必要に応じて使い分けてください。

チェック有り：現在接続しているサーバとの通信を切断します。

チェック無し：現在接続しているサーバとの通信を切断しません。新しいリモートコンソールを起動しても現在のサーバ画面を表示することが可能です。

4.2 リモートコンソール起動方法

リモートコンソールは一度に複数起動することができます。一度に接続できるサーバ数の制限などは、「5章 詳細設定方法」をご参照ください。

1 つめのリモートコンソール起動方法

ログイン画面にて各項目を入力し[接続]ボタンをクリックしてください。（「4.1 アプリケーション起動方法」をご参照ください）

接続が正常に行われるとサーバブレード側の画面が表示され、画面右上に接続先のニックネーム/IP アドレスが約 10 秒間表示されます。また、コンソール端末のキーボード、マウスからサーバブレード画面の操作が可能となります。接続先情報の表示方法などを詳細に設定することが可能です。詳しくは「5章 詳細設定方法」を参照ください。



コンソール端末の画面にサーバブレードの画面が表示されない場合、コンソール端末とサーバブレードのネットワーク設定を確認してください。

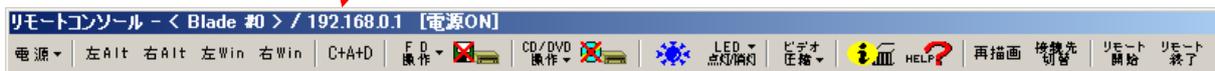
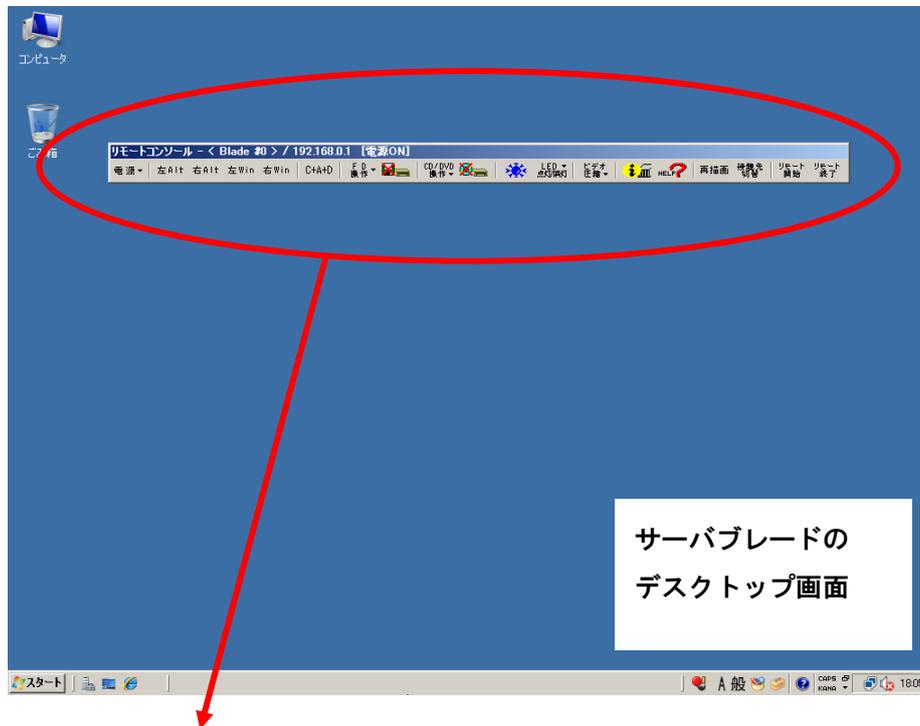
リモート操作を終了する場合は「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ、[リモート終了]ボタンをクリックしてください。または、「[Alt]+[E]」キーを押してリモート操作を終了します。



リモートコンソール使用時は、コンソール端末でのキーボード入力に制限があります。詳しくは「6章 ご注意」を参照してください。

ツールバー操作方法

「[Alt]+[G]」キーを押すとツールバーの表示/非表示が切り替えられます。ツールバーを表示しているときは、キーボード、マウスのリモート操作は出来ません。



ツールバー項目		説明
< Blade #0 > / 192.168.0.3 [電源ON]		タイトルバーに接続中のニックネーム/IPアドレスと電源ステータスを表示します。ニックネームの設定がない場合、IPアドレスのみの表示になります。
電源▼	電源オン	接続されているサーバブレードに対して、電源 ON を実行します。ボタンを押すと確認メッセージが表示されます。
	強制電源オフ	接続されているサーバブレードに対して、強制的に電源 OFF を実行します。ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。
	リセット	接続されているサーバブレードに対して、リセットを実行します。ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。
	NMI	接続されているサーバブレードに対して NMI を実行し、ダンプモードに移行します。障害時以外は使用しないでください。ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。
	左Alt	左[Alt]キーを使用します。1度クリックすると再度クリックするまで[Alt]キーが押された状態になります。
	右Alt	右[Alt]キーを使用します。1度クリックすると再度クリックするまで[Alt]キーが押された状態になります。
	左Win	左[Windows]キーを使用します。1度クリックすると再度クリックするまで[Windows]キーが押された状態になります。
	右Win	右[Windows]キーを使用します。1度クリックすると再度クリックするまで[Windows]キーが押された状態になります。

ツールバー項目		説明
C+A+D		[Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを入力します。ボタンを押すと確認メッセージが表示されます。
FD 操作	FD選択	リモートFDとして使用するコンソール端末のFDドライブまたはイメージファイルを選択し、リモートFDを開始します。
	FD終了	リモートFDを終了します。
		リモートFDドライブの状態を表します。
CD/DVD 操作	CD/DVD選択	リモートCD/DVDとして使用するコンソール端末のCD/DVDドライブまたはイメージファイルを選択し、リモートCD/DVDを開始します。
	CD/DVD終了	リモートCD/DVDを終了します。
		リモートCD/DVDドライブの状態を表します。
		サーバブレード識別ランプの状態（点灯/消灯）を表示します。
LED 点灯/消灯	点灯	サーバブレード識別ランプを点灯します。
	消灯	サーバブレード識別ランプを消灯します。
ビデオ 圧縮	圧縮する	ビデオデータの圧縮を有効にし、ネットワーク負荷を低減します。
	圧縮しない	ビデオデータの圧縮を無効にします。
		サーバブレードの装置情報/リモートコンソールの機能情報を表示します。
		リモートコンソールで支援しているショートカットキー一覧を表示します。
再描画		コンソール端末の画面表示を更新します。
接続先 切替		ログイン画面を表示します。
リモート 開始		リモートコンソールを開始します。 キーボード、マウス操作が可能になります。
リモート 終了		リモートコンソールを終了します。



リモートコンソールによる電源操作はサーバブレードに対して行われます。HVMが動作するサーバブレードに対する電源操作は、そのHVMが管理するすべてのLPARに対して影響が及びます。

そのため、サーバブレードのOSモードがHVMモードの場合はリモートコンソールによる電源操作を無効にしており、下記の操作を実施することはできません。

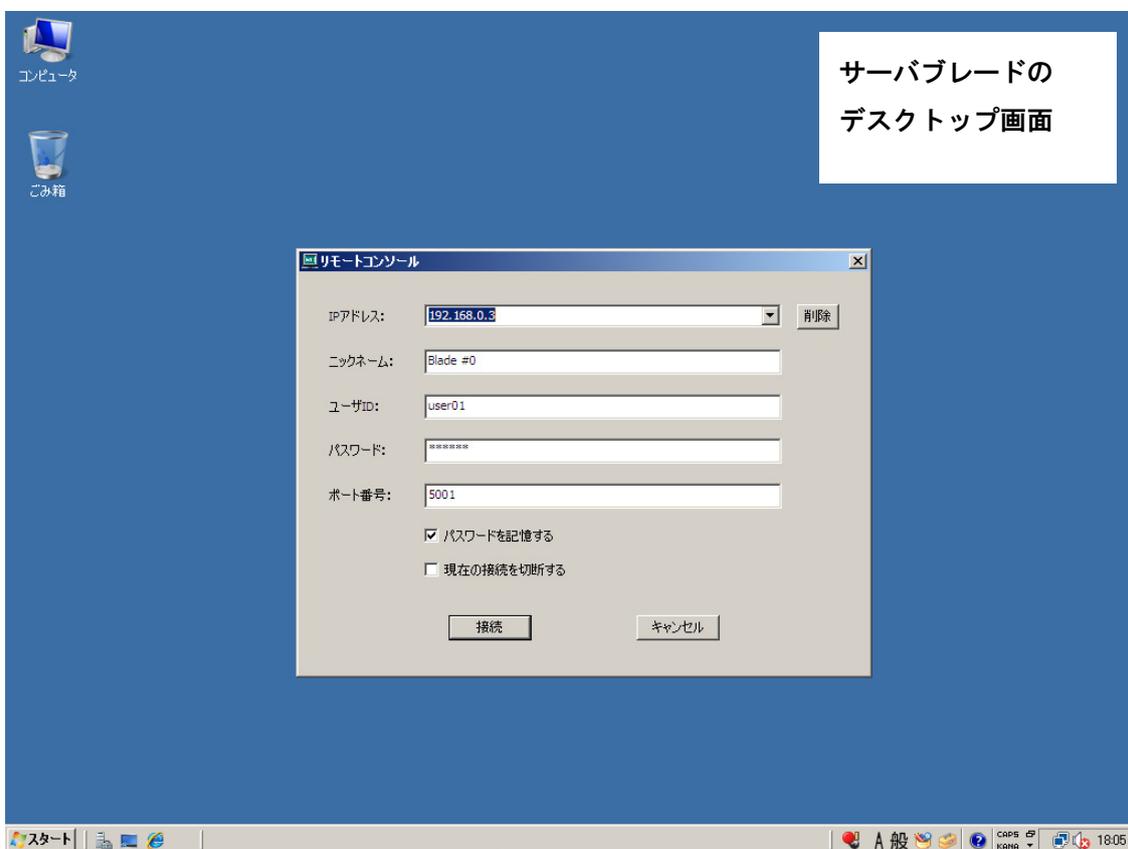
電源オン、強制電源オフ、リセット、NMI

これらの操作は無効となります。また、無効である旨のメッセージは表示されません。

OSモードがHVMモードの場合、サーバブレードの電源操作はサーバブレードのWebコンソールにより実施して下さい。詳細は「ユーザズガイド」の「サーバブレード設定の詳細」をご参照下さい。

複数台へのリモートコンソール接続方法

サーバに接続した状態で「[Alt]+[D]」キーを押すか、「[Alt]+[G]」キーを押し、[接続先切替]ボタンをクリックすると、ログイン画面が表示されます。



ログイン画面にて各項目を入力し[接続]ボタンをクリックしてください。(「4.1 アプリケーション起動方法」をご参照ください)

複数のリモートコンソールを起動した場合、画面の切替は「[Alt]+[Tab]」キーまたは、「[Alt]+[Esc]」キーで行ってください。

4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法

リモートコンソールを使用するときは、サーバブレード側のディスプレイ設定を変更する必要があります。本節では、HVM を使用しない場合の設定方法を OS 毎に説明します。HVM を使用する場合の設定方法については、「ユーザズガイド」の「HVM について」を参照ください。

サポートする解像度および色数

リモートコンソールでは、以下に示すサーバブレードの画面解像度、色数の組み合わせをサポートします。

サーバ OS	解像度	色数
Windows	640 x 480 (VGA モード)	8 ビット
	800 x 600	16 ビット
		32 ビット
	1024 x 768 (推奨)	16 ビット (推奨)
		32 ビット
1280 x 1024	16 ビット	
Linux	640 x 480	16 ビット
		32 ビット
	800 x 600	16 ビット
		32 ビット
	1024 x 768 (推奨)	16 ビット (推奨)
		32 ビット
	1280 x 1024	16 ビット

上記以外の解像度、色数の組み合わせはサポートされません。使用された場合、画面が表示されなかったり、画面が乱れたりする場合があります。

Windows のディスプレイ設定方法

サーバブレード側の OS が Windows の場合、専用 VGA ドライバの使用を推奨します。また、ディスプレイ設定のリフレッシュレートを 60Hz、色数を 16 ビットに設定することを推奨します。以下の手順でドライバのインストールおよび設定を行ってください。

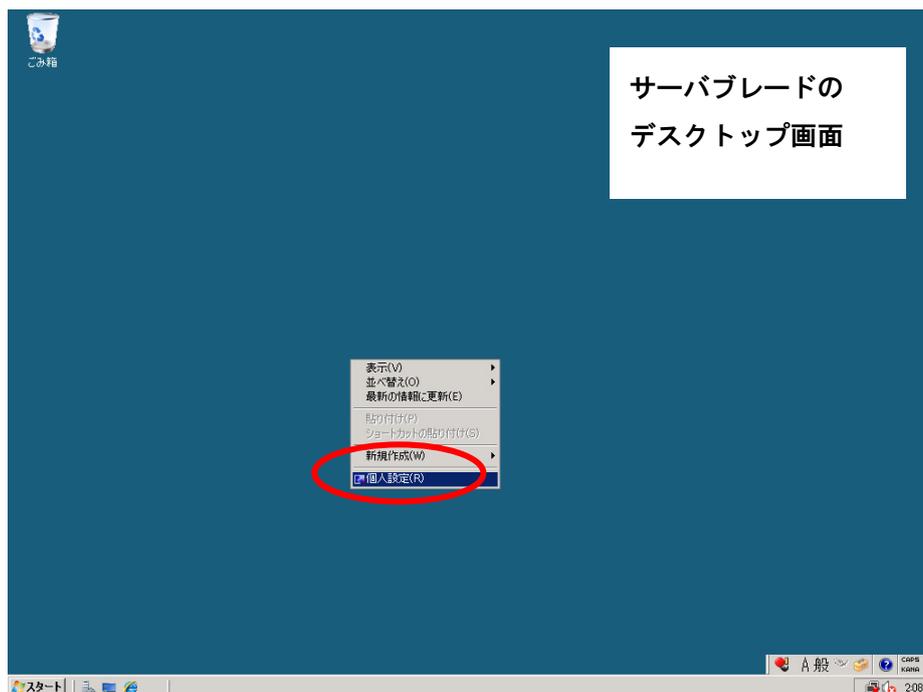
制限 専用 VGA ドライバをインストールする場合、マウスモードを「ABSOLUTE」に設定してください。マウスモードが「RELATIVE」の場合、マウスカーソルが表示されない場合があります。

制限 専用 VGA ドライバを使用する場合、色数を「高（24 ビット）」に設定することはできません。

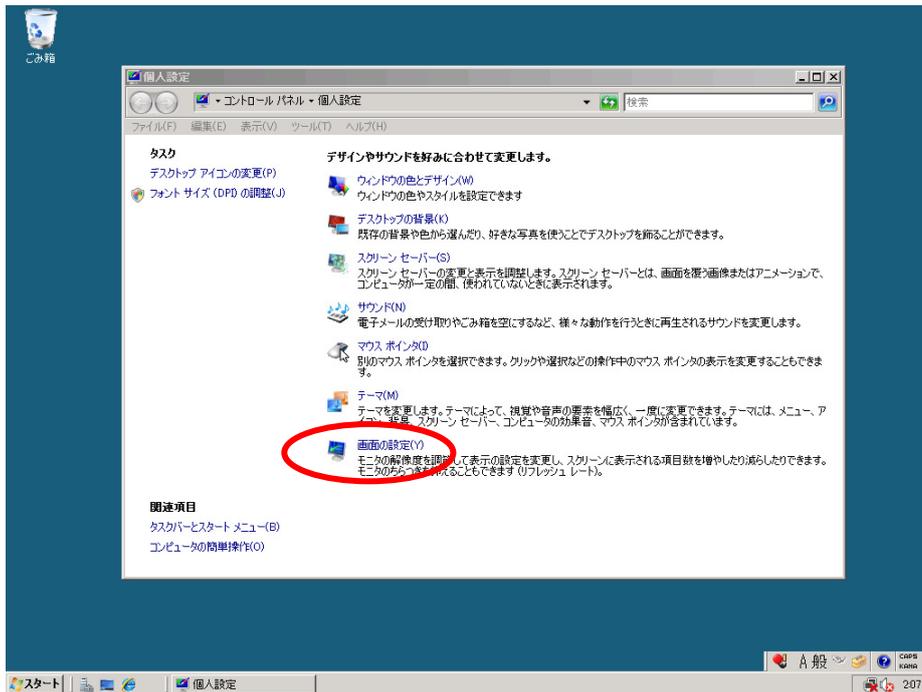
サーバブレード側の OS が Windows Server 2008 の場合

以下の手順で専用ドライバがインストールされているか確認してください。

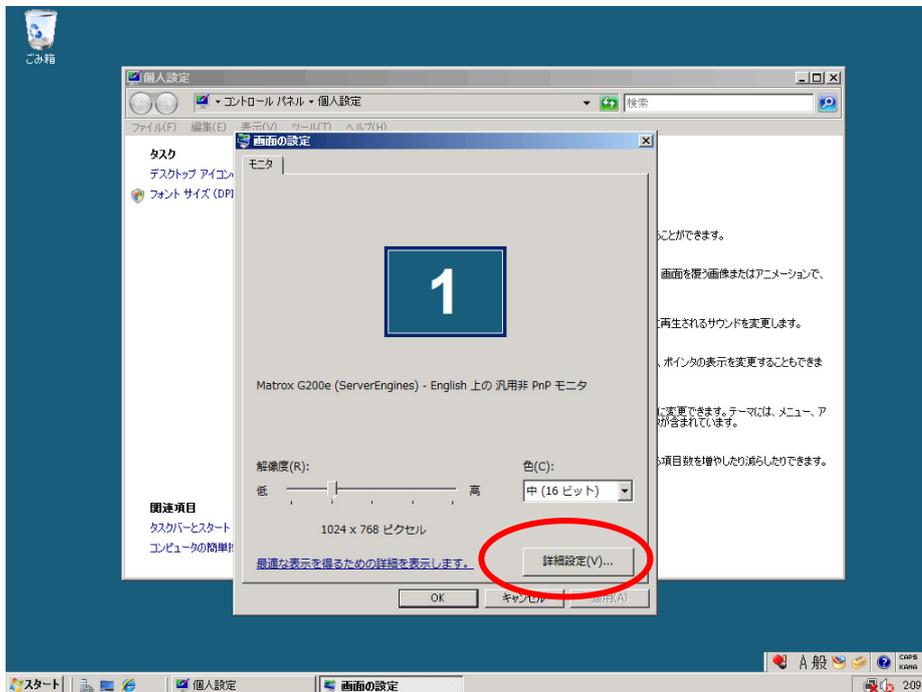
画面上でマウスの右ボタンをクリックし、「個人設定」を選択します。



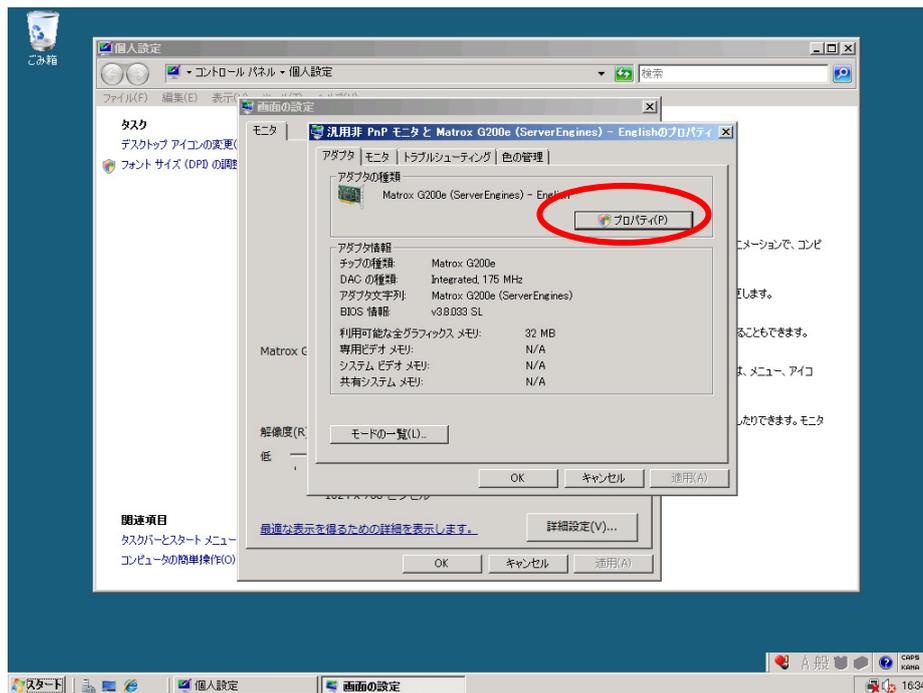
「個人設定」の「画面の設定」をクリックします。



「画面の設定」の「詳細設定」をクリックします。

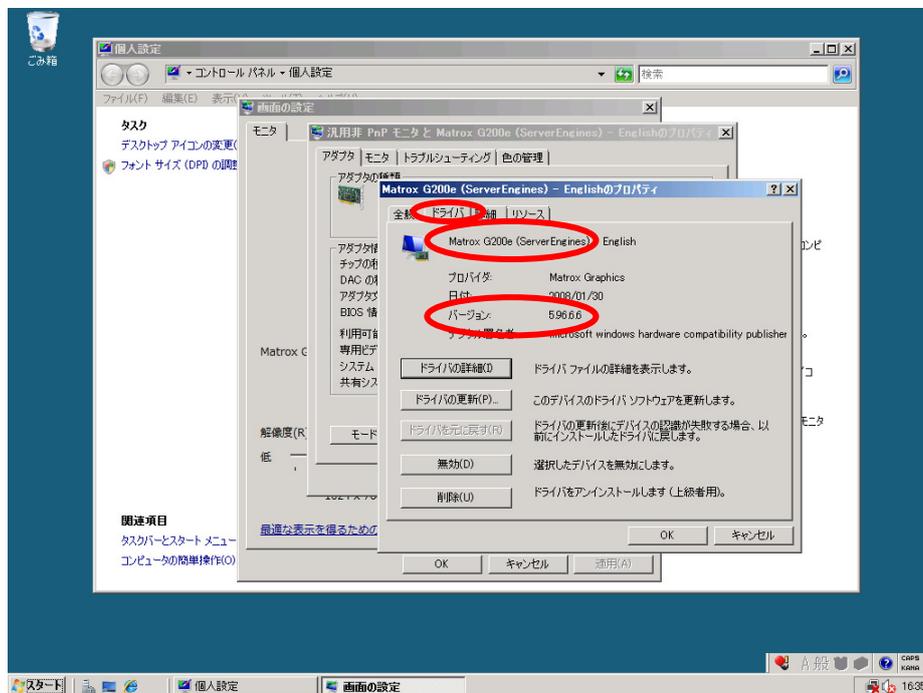


表示された画面の「プロパティ」ボタンをクリックします。



表示された画面の「ドライバ」タブをクリックします。

「Matrox G200e (ServerEngines)」と表示されていれば、専用ドライバがインストールされています。なお、本画面にてドライバのバージョンを確認することができます。

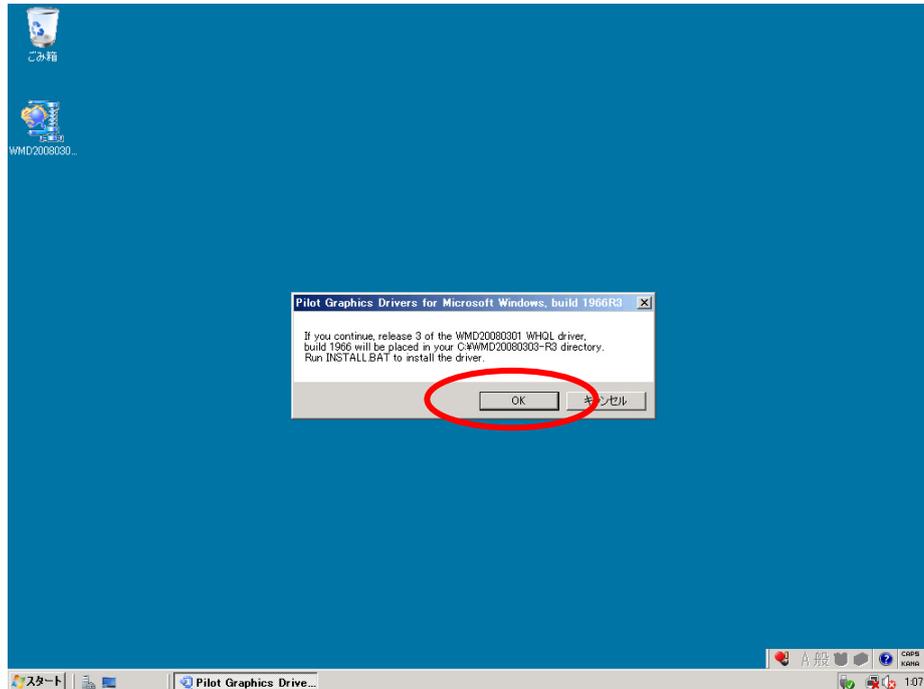


専用ドライバがインストールされていない場合、以下の手順でインストールしてください。

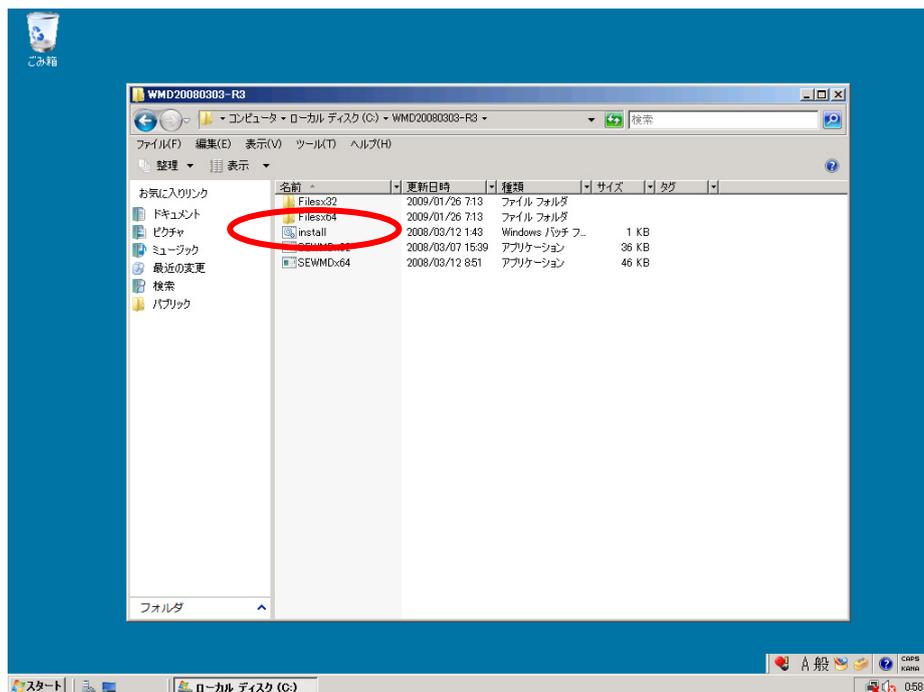
最新のドライバは、

「BladeSymphony ホームページ (<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/index.html>)」からダウンロードできます。以下、ドライバとして WMD20080303.WHQL.exe を使用する場合の手順を示します。

WMD20080303.WHQL.exe を実行し、「OK」をクリックしてドライバのファイルを展開します。ファイルは C:¥WMD20080303-R3 に展開されます。



フォルダ C:¥WMD20080303-R3 を開き、install.bat をクリックして実行します。



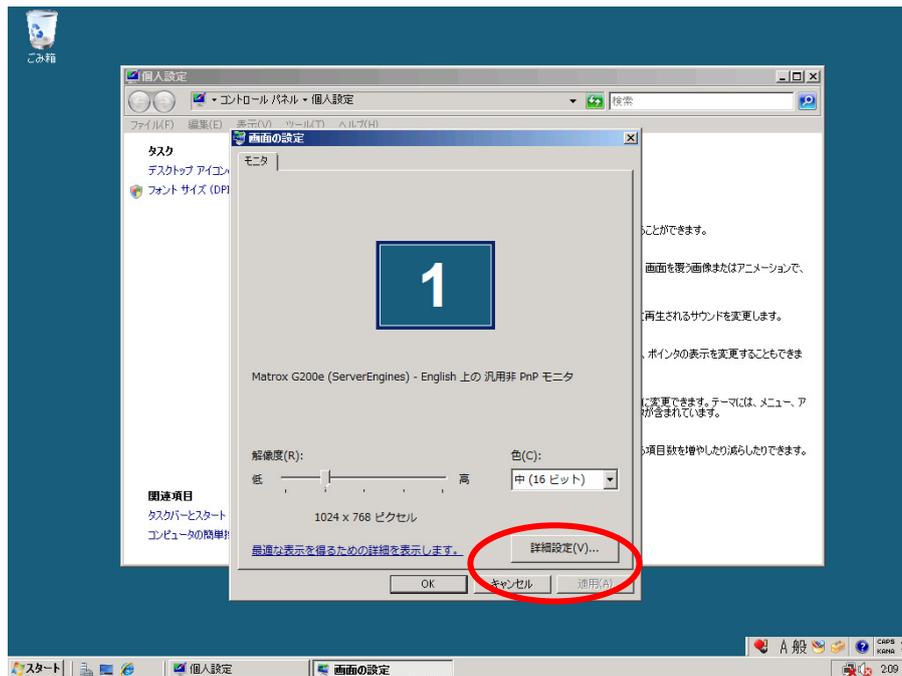
以上でドライバのインストールは終了です。

Windows Server 2008 を再起動し、インストールしたドライバを有効にしてください。

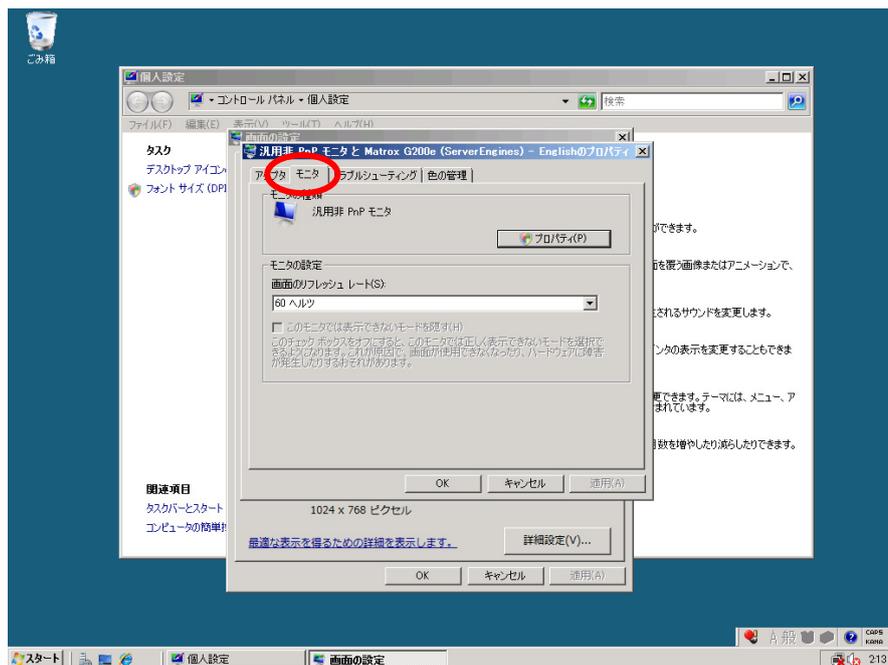
補足 ドライバのアンインストールは「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」で行うことができます。

ディスプレイ設定のリフレッシュレートは 60Hz を推奨します。以下の手順で設定してください。

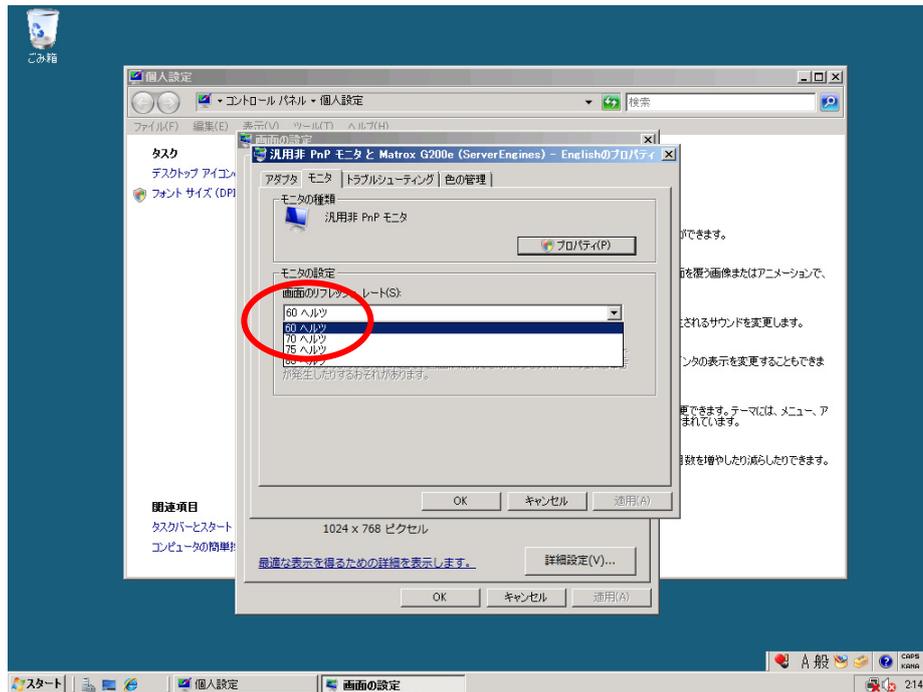
画面上でマウスの右ボタンをクリックし、「個人設定」を選択します。「個人設定」の「画面の設定」をクリックすると、以下の画面が表示されます。「画面の設定」の「詳細設定」をクリックします。



表示された画面の「モニタ」タブをクリックします。

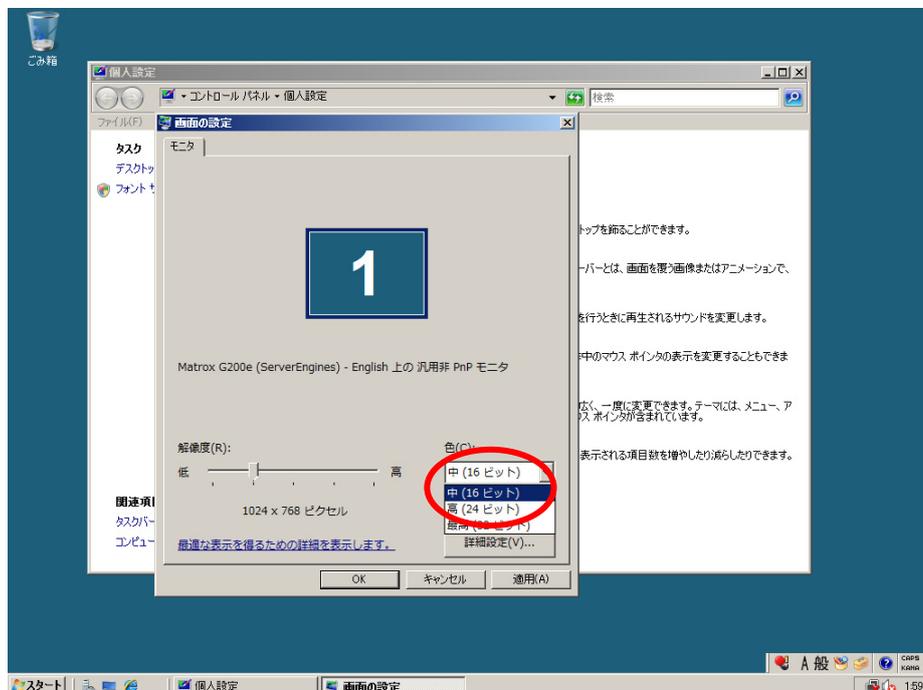


画面のリフレッシュレートから「60 ヘルツ」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
設定変更を確認するメッセージが表示された場合は[はい]をクリックしてください。



色数は 16 ビットに設定することを推奨します。以下の手順で設定してください。

「画面の設定」の「色」を「中 (16 ビット)」に設定し、[OK]ボタンをクリックします。



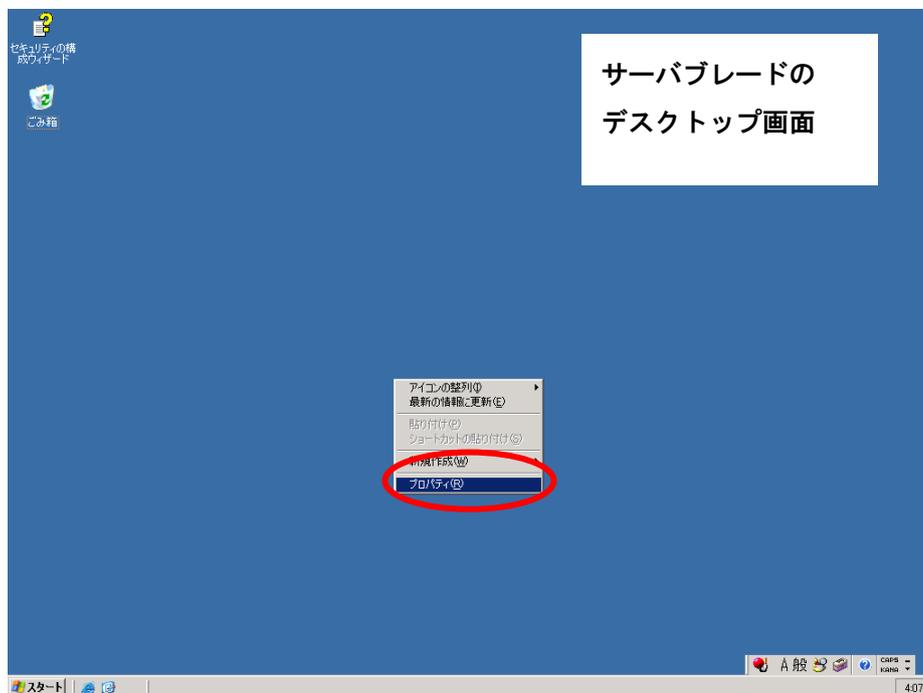
確認のダイアログが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

以上で、Windows Server 2008 のディスプレイ設定は終了です。

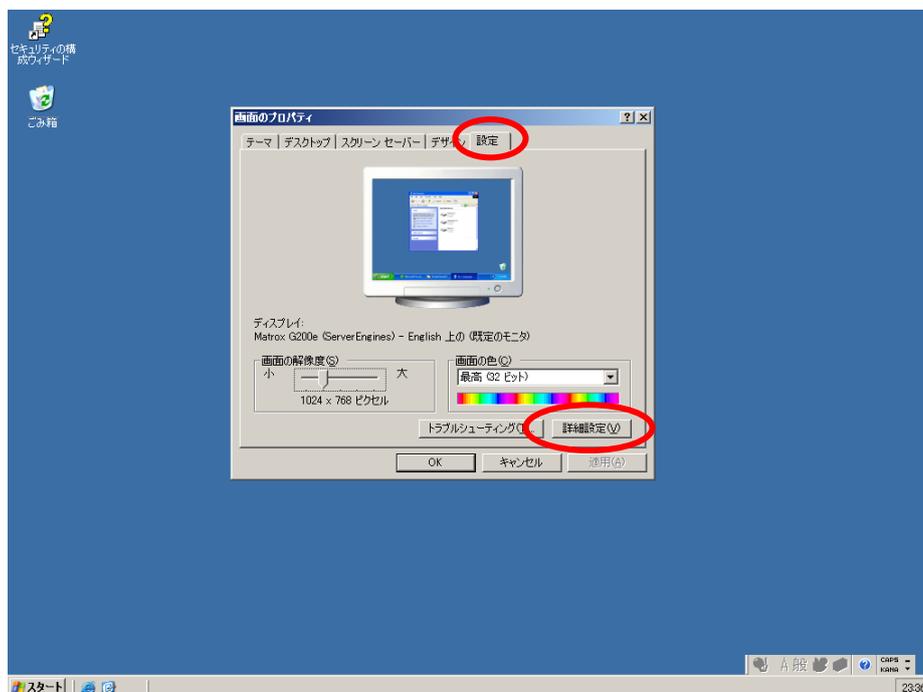
サーバブレード側の OS が Windows Server 2003 の場合

以下の手順で専用ドライバがインストールされているか確認してください。

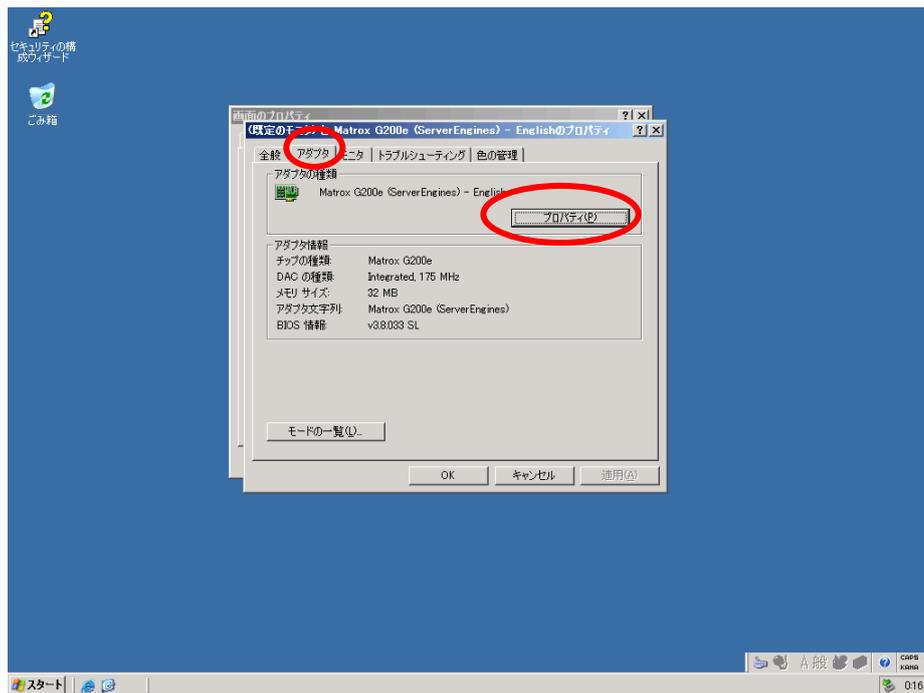
画面上でマウスの右ボタンをクリックし、「プロパティ」を選択します。



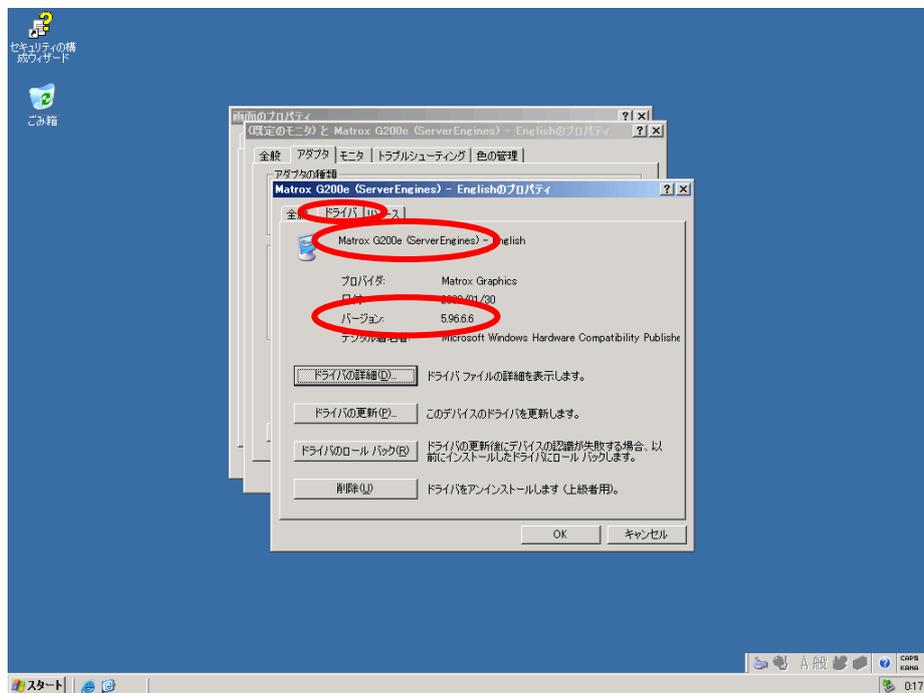
画面のプロパティの「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。



表示された画面の「アダプタ」タブをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。



表示された画面の「ドライバ」タブをクリックします。
「Matrox G200e (ServerEngines)」と表示されていれば、専用ドライバがインストールされています。
なお、本画面にてドライバのバージョンを確認することができます。

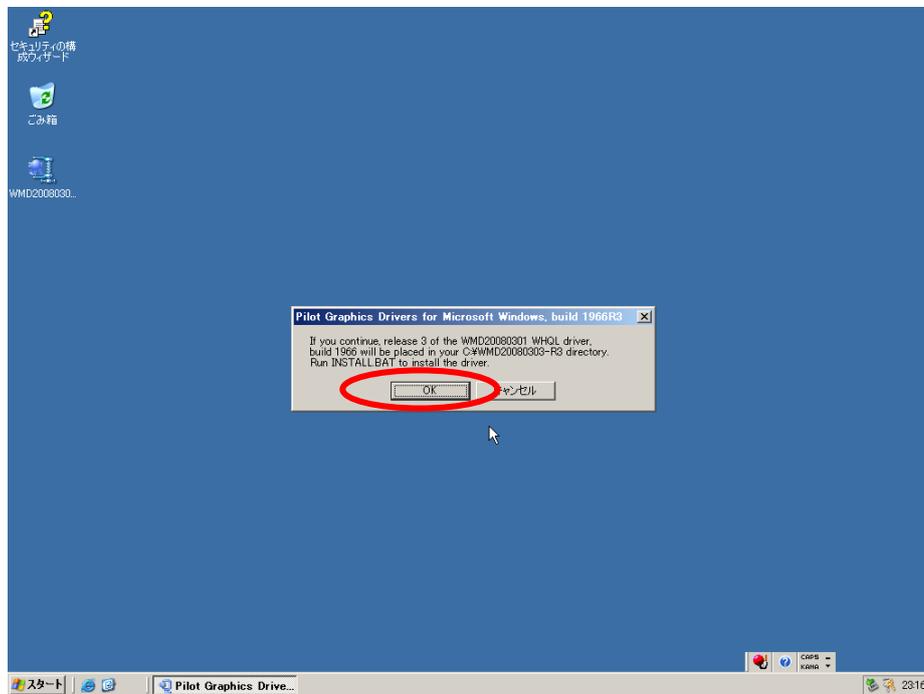


専用ドライバがインストールされていない場合、以下の手順でインストールしてください。

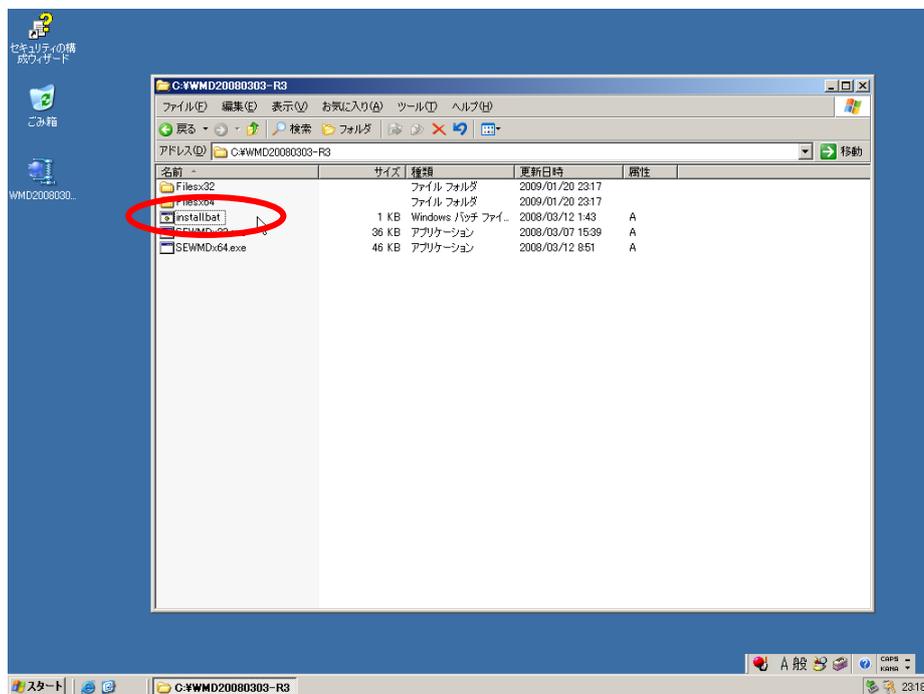
最新のドライバは、

「BladeSymphony ホームページ (<http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/index.html>)」からダウンロードできます。以下、ドライバとして WMD20080303.WHQL.exe を使用する手順を示します。

WMD20080303.WHQL.exe を実行し、「OK」をクリックしてドライバのファイルを展開します。ファイルは C:\WMD20080303-R3 に展開されます。



フォルダ C:\WMD20080303-R3 を開き、install.bat をクリックして実行します。



以上でドライバのインストールは終了です。Windows Server 2003 を再起動し、ドライバを有効にしてください。

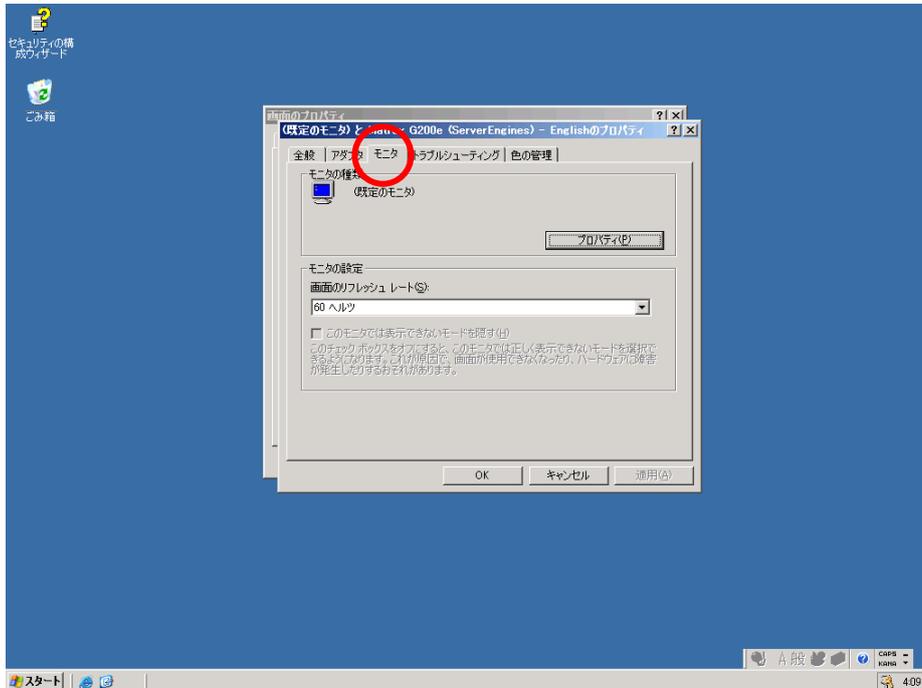


ドライバのアンインストールは「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」で行うことができます。

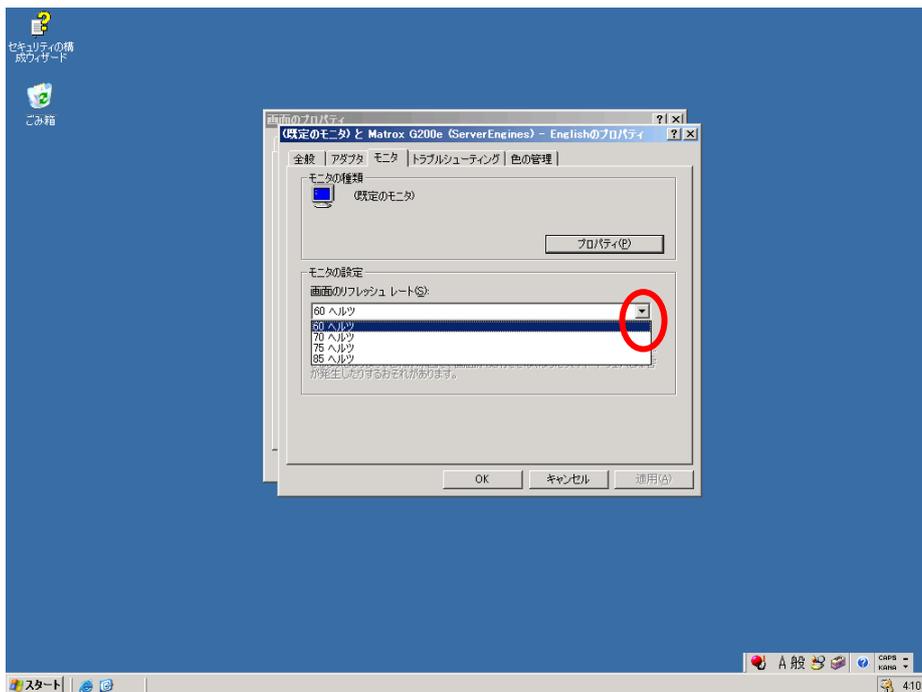
ディスプレイ設定のリフレッシュレートは 60Hz を推奨します。以下の手順で設定してください。

画面上でマウスの右ボタンをクリックし、「プロパティ」を選択します。「画面のプロパティ」の「設定」タブをクリックし、[詳細設定]をクリックします。

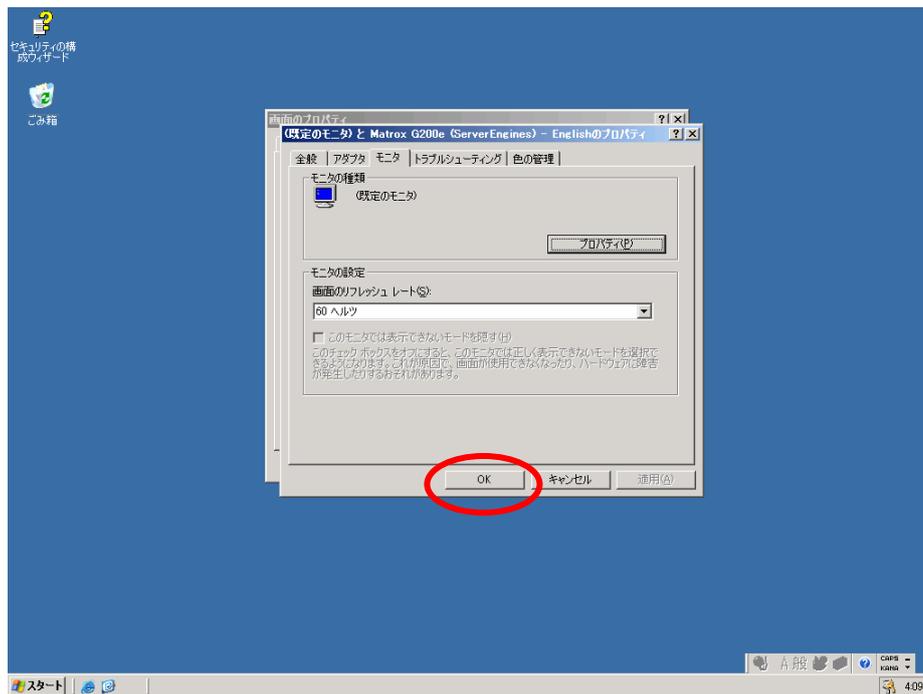
表示された画面の「モニタ」タブをクリックします。



画面のリフレッシュレートから「60 ヘルツ」を選択し、[適用]ボタンをクリックします。

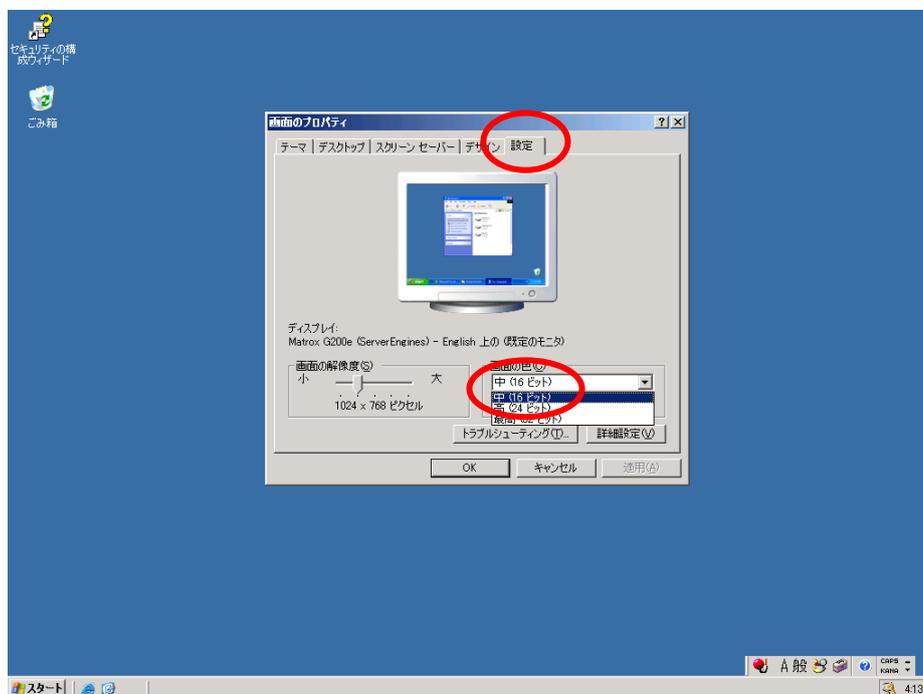


確認のダイアログが表示された場合、[はい]をクリックします。
設定が「60 ヘルツ」になったことを確認できたら[OK]をクリックしプロパティを閉じてください。



色数は 16 ビットに設定することを推奨します。以下の手順で設定してください。

画面のプロパティの「設定」タブをクリックし、「色」を「中 (16 ビット)」に設定して[OK]ボタンをクリックします。

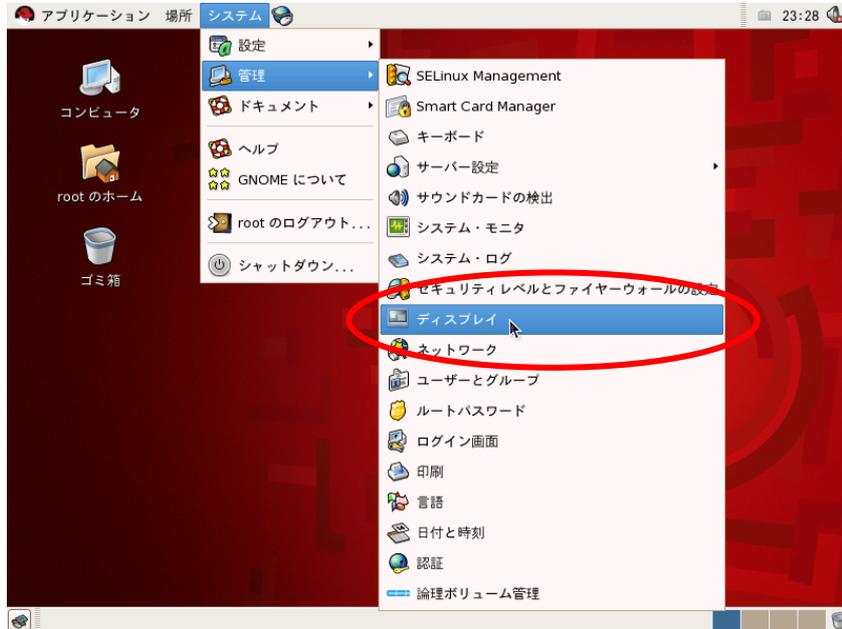


確認のダイアログが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
以上で Windows Server 2003 のディスプレイ設定は終了です。

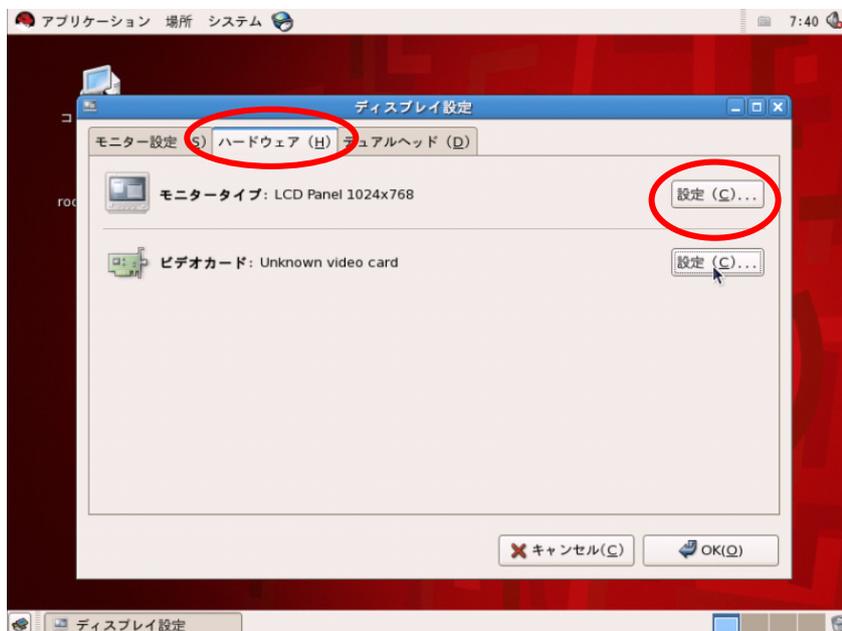
Linux のディスプレイ設定方法

サーバブレード側の OS が Linux の場合、モニタータイプ、ビデオカードタイプ及び解像度を設定する必要があります。以下に Red Hat Enterprise Linux 5 での設定方法を示します。

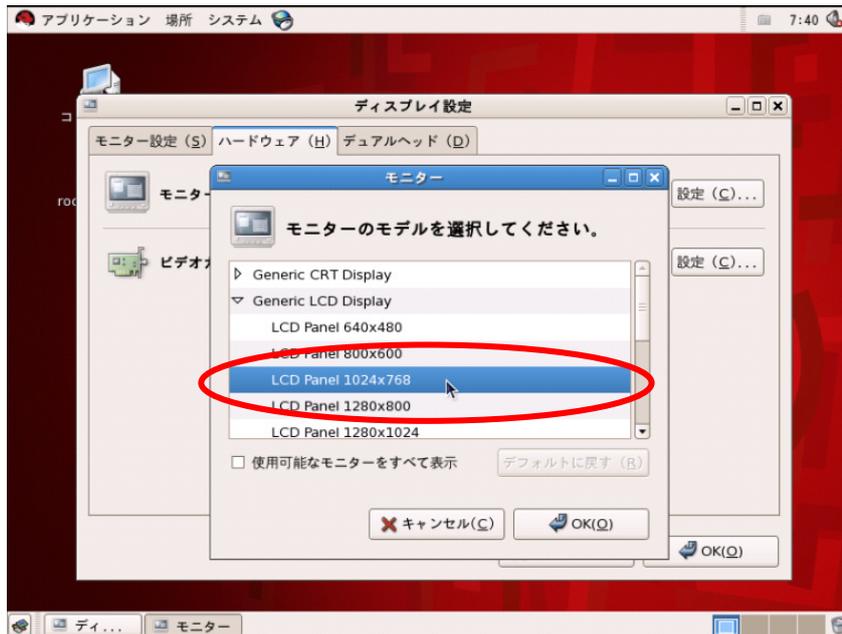
メニューより、[システム]—[管理]—[ディスプレイ]と選択します。



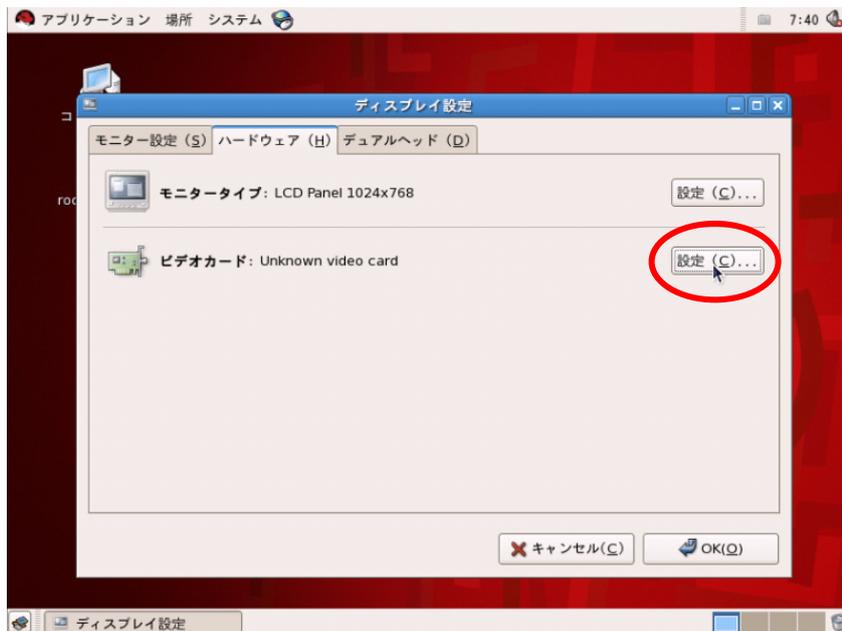
ディスプレイ設定の「ハードウェア」タブでモニタータイプの設定をクリックします。



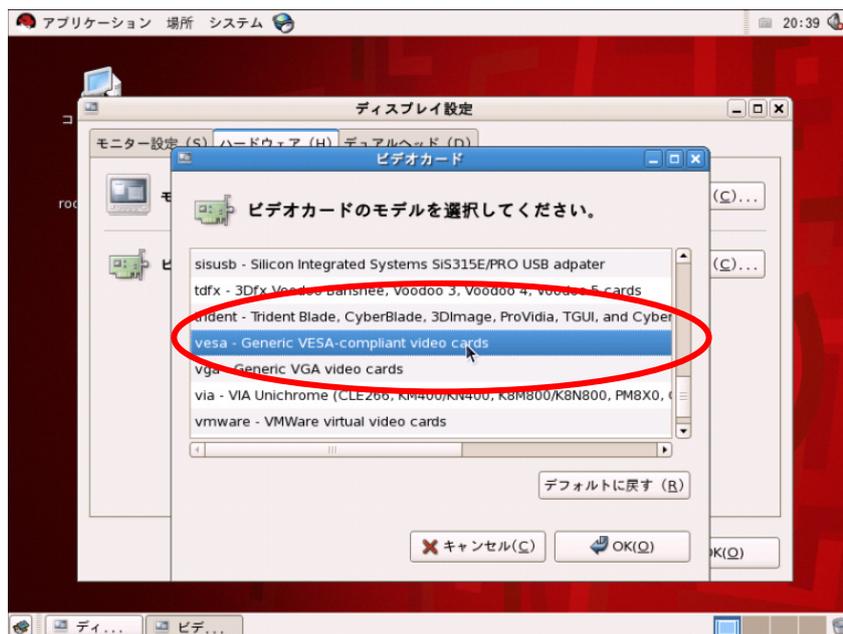
モニターのモデルに「Generic LCD Display」－「LCD Panel 1024 x 768」を選択して[OK]をクリックします。



ディスプレイ設定の「ハードウェア」タブでビデオカードの設定をクリックします。



ビデオカードのモデルに「vesa - Generic VESA – compliant video cards」を選択して[OK]をクリックします。

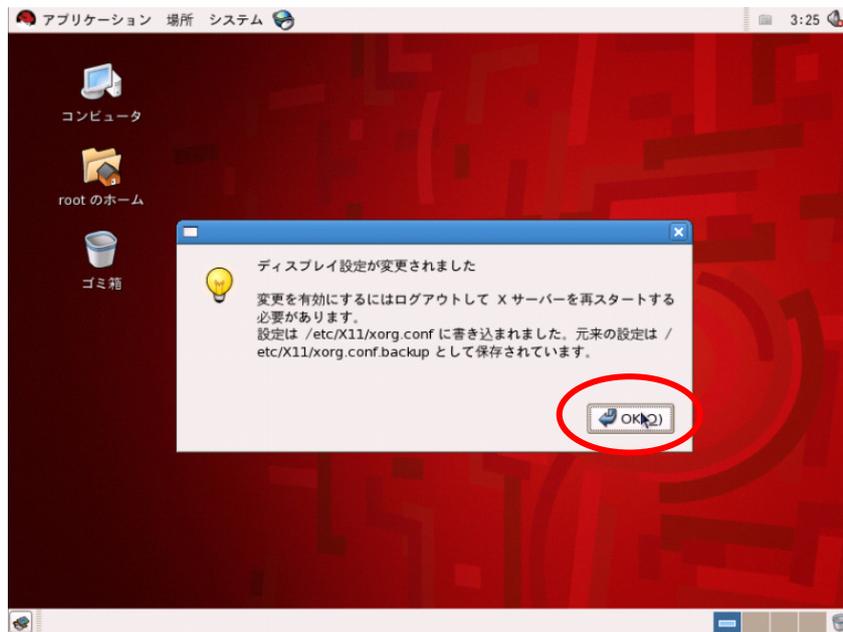


制限 上記設定を行った後、ディスプレイ設定の「ハードウェア」タブに表示される「ビデオカード：」が「Unknown video card」となることがあります。色数と解像度が反映されて正しく画面が表示されていれば、ビデオカード設定は正しく行われていますので問題ありません。

ディスプレイ設定の「モニター設定」タブで解像度を「1024 x 768」、色の深さを「数千の色」に設定して[OK]をクリックします。



ディスプレイ設定の[OK]をクリックするとダイアログが表示されるので[OK]をクリックします。



以上で Linux のディスプレイ設定は終了です。
解像度の設定を反映させるため、X サーバを再起動させてください。



GUI の「システム→設定→解像度の設定」により設定を行うと、解像度、色数の設定が正常に反映されない場合や、解像度変更後に画面が乱れる場合があります。

GUI が使用できない場合の設定方法

X Window System が起動しないなどの理由で GUI による設定ができない場合は、エディタで /etc/X11/xorg.conf を開き、以下の設定を行ってください。

- (1) /etc/X11/xorg.conf の「Section “Device”」—「Driver」が「vesa」であることを確認する。「vesa」以外の場合は、「vesa」に変更してください。

「Section “Device”」の設定例：

```
Section "Device"
    Identifier "Videocard0"
    Driver     "vesa"
EndSection
```

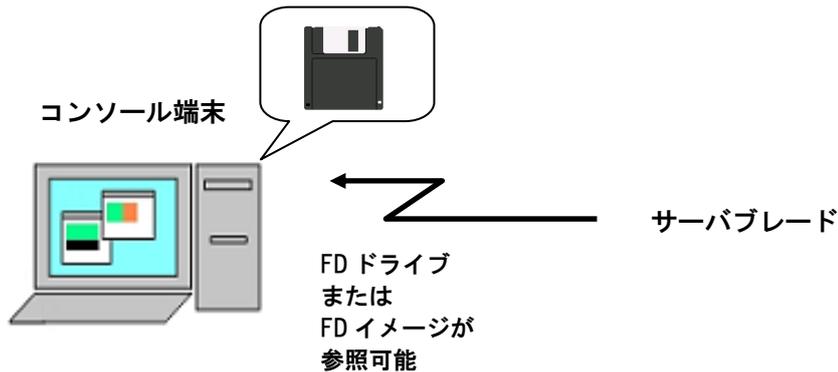
- (2) /etc/X11/xorg.conf の「Section “Screen”」—「SubSection “Display”」—「Modes」の先頭を「"1024x768"」とする。「Modes」行が無い場合、新たに作成してください。「Section “Screen”」—「DefaultDepth」および「Section “Screen”」—「SubSection “Display”」—「Depth」は「16」に設定することを推奨します。

「Section “Screen”」の設定例：

```
Section "Screen"
    Identifier "Screen0"
    Device     "Videocard0"
    DefaultDepth 16
    SubSection "Display"
        Viewport 0 0
        Depth 16
        Modes "1024x768"
    EndSubSection
EndSection
```

4.4 リモートFD使用方法

リモート FD 機能とは、コンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブとサーバブレードを接続し参照する機能、およびサーバブレードからコンソール端末の FD イメージファイルを参照する機能です。リモート FD 機能では、1.44MB フォーマットされた FD メディアを使用できます。
ここではリモート FD の使用方法を説明します。



制限 1 台のサーバブレードからは、1 台の FD ドライブまたは 1 つの FD イメージしか接続することはできません。

制限 リモート FD およびリモート CD/DVD は、サーバから USB デバイスとして認識されます。USB デバイスには、リモート FD とリモート CD/DVD の両方が搭載されています。

リモート FD、リモート CD/DVD のいずれかの使用を開始するとサーバに USB デバイスが取り付けられ、両方の使用を終了すると USB デバイスが取り外されます。

制限 リモート FD を使用して FD メディア、FD イメージファイルをフォーマットすることはできません。フォーマットにはコンソール端末の FD ドライブをご使用下さい。

補足 BS2000 では、リモート FD ドライバのインストールは必要ありません。

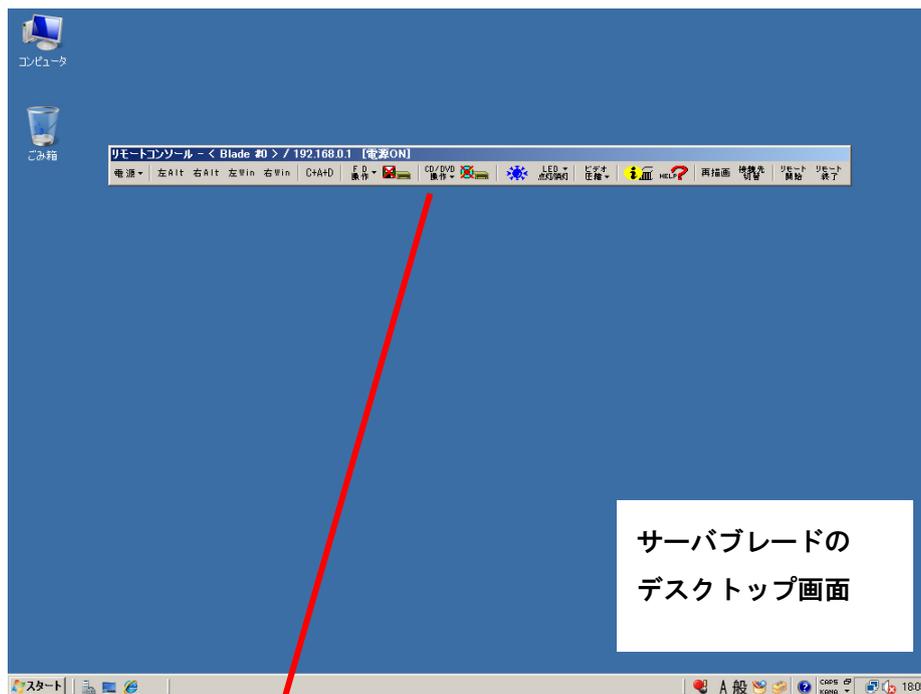
リモート FD 機能で、コンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブを使用する場合と、コンソール端末の FD イメージを使用する場合の使用方法を説明します。

コンソール端末のFDドライブを使用する場合

リモートFD機能でコンソール端末に搭載または接続されているFDドライブを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

…
補足 他のアプリケーションがFDドライブを使用しているとリモートFDを開始できません。
FDドライブを開いているアプリケーションがある場合、それらを終了してください。

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[FD操作]ボタンをクリックします。



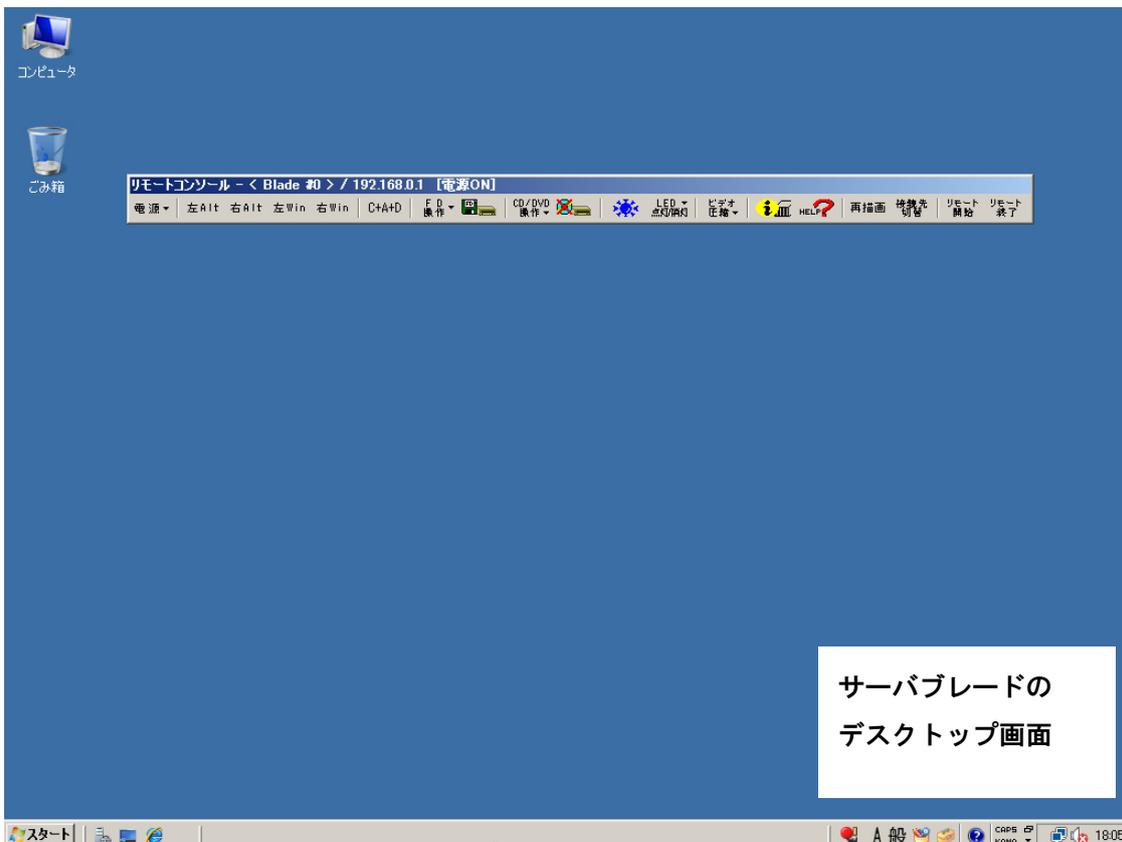
[FD操作]のプルダウンメニューが表示されますので、[FD選択]を選択します。



ドライブ/イメージ選択画面が表示されますので、「FD ドライブ」を選択し、コンソール端末で使用しているFD ドライブを選択して[OK]ボタンをクリックしてください。



コンソール端末に搭載または接続されているFDドライブがリモートFDとしてサーバブレードに接続されます。メディアをドライブに挿入して使用してください。



FD イメージを使用する場合

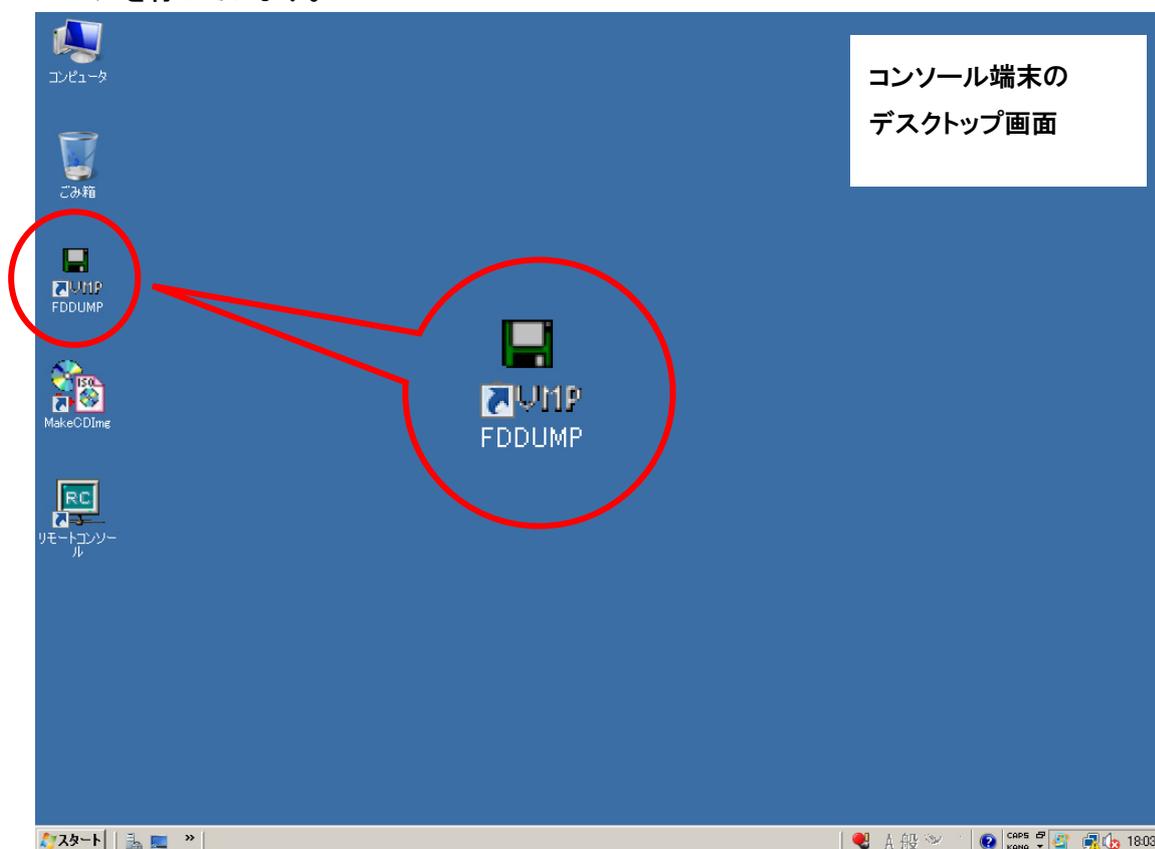
リモートFD機能でコンソール端末のFDイメージを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

FDのイメージ化

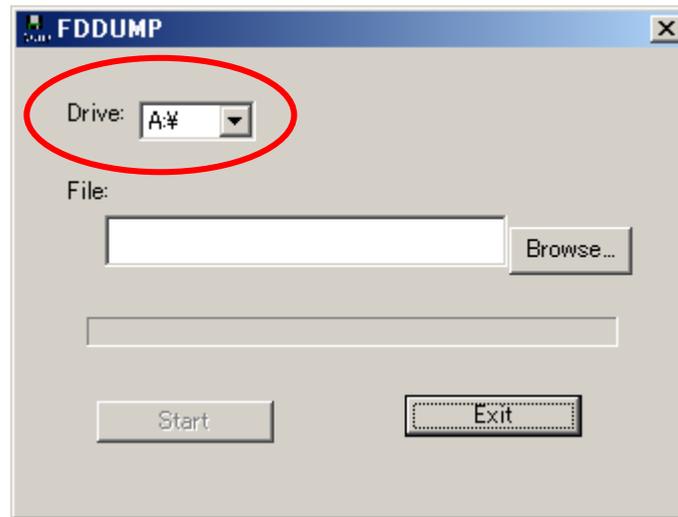
リモートFD機能でコンソール端末のFDイメージを使用するためには、事前にFDの内容をイメージ化する必要があります。

FDの内容をイメージ化する方法は以下の通りです。

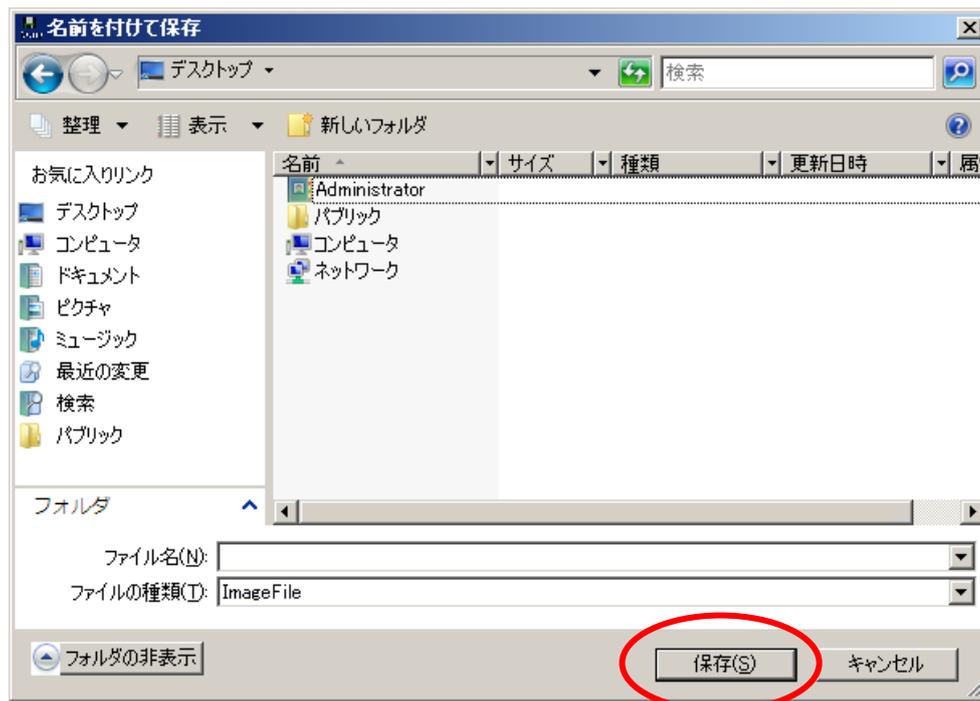
コンソール端末側のデスクトップで「FDDUMP」のアイコンをダブルクリックします。「FDDUMP」はリモートコンソールアプリケーションのインストール時に同時にインストールを行っています。



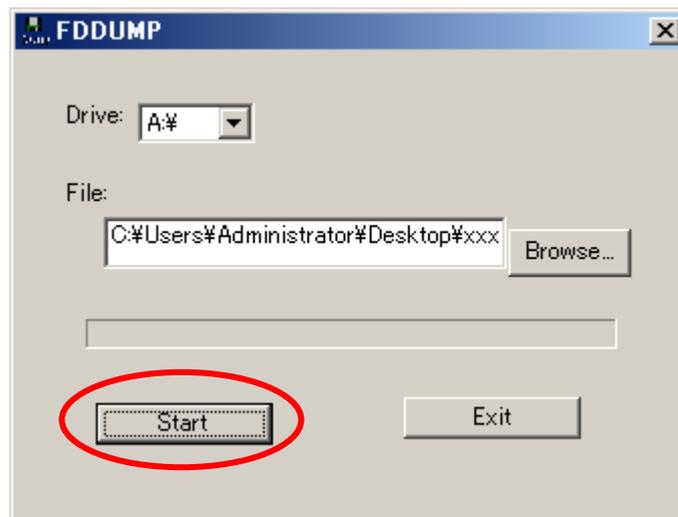
アイコンをクリックすると以下の画面が表示されます。イメージ化したい FD をコンソール端末に挿入し、FD を挿入したドライブを選択します。



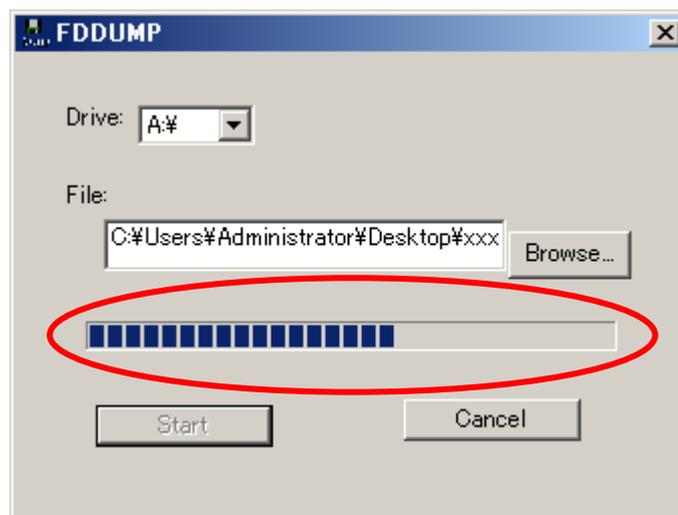
次に[Browse]をクリックします。以下の画面が表示されるのでイメージ化されたファイルを保存する場所を選択し、ファイル名を入力します。ファイル名を入力した後、[保存]をクリックします。



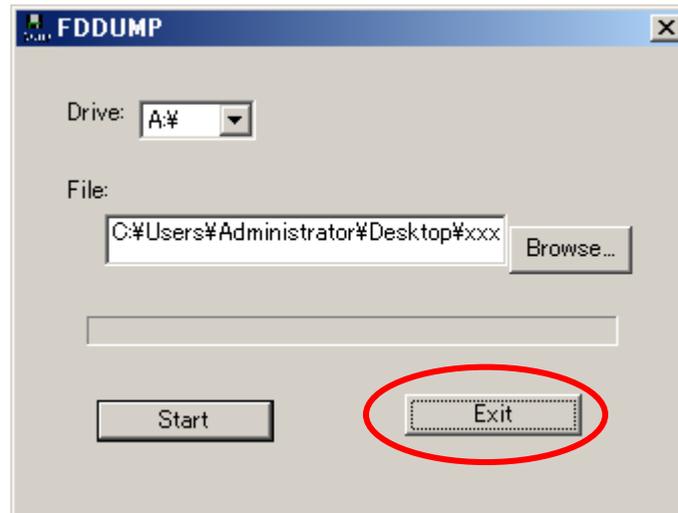
保存する場所を決めたら[Start]をクリックします。[Start]をクリックすると FD のイメージ化が開始されます。



[Start]ボタンをクリックすると、以下の画面のように FD のイメージ化の進行状況が表示されます。進行状況が最後まで表示されると FD のイメージ化は終了です。指定した保存先にイメージファイルが作成されています。



FD のイメージ化が終了した後は、[Exit]をクリックし FDDUMP を終了してください。



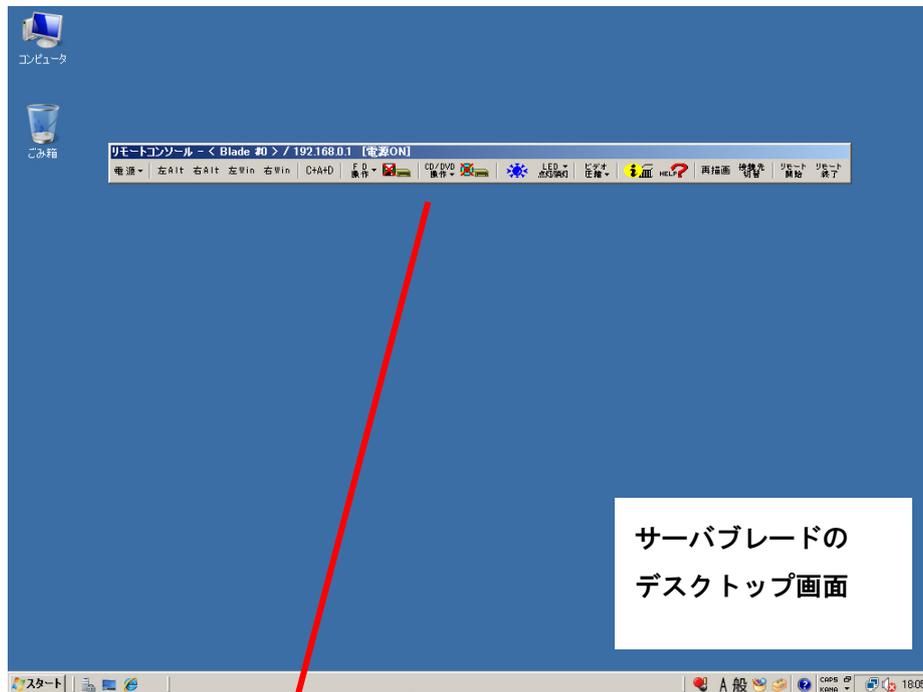
FD イメージファイルについての注意事項

以下の点に注意して、FD イメージファイルを使用してください。

- (1) OS インストールメディアなど、ライセンス契約があるメディアのイメージファイルは、メディアのライセンス契約に準じます。ライセンス契約に違反しないよう注意して使用してください。
- (2) FDDUMP で作成したイメージファイルは、リモートコンソールアプリケーションのリモート FD 機能でのみ使用することが可能です。他の目的で使用し問題が発生した場合、弊社は一切の責務および賠償責任を負いません。

FD イメージを使用する場合のリモートコンソールアプリケーションの操作方法は以下の通りです。

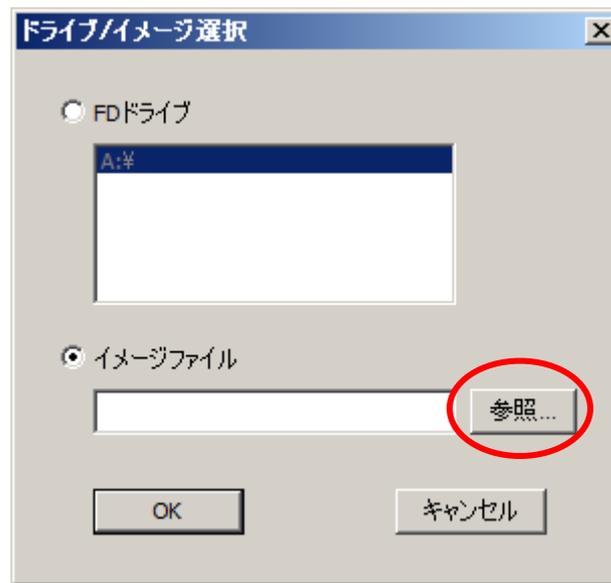
「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[FD 操作]ボタンをクリックします。



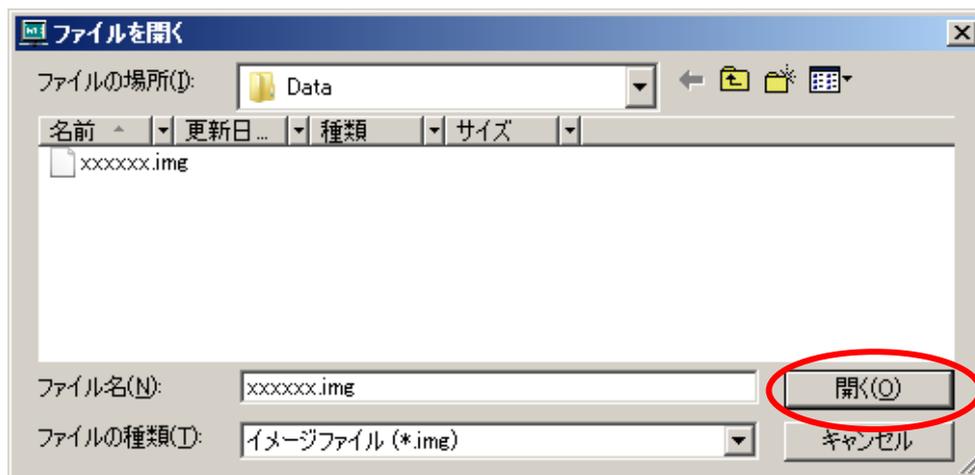
[FD 操作]のプルダウンメニューが表示されますので、[FD 選択]を選択します。



ドライブ/イメージ選択画面が表示されますので、「イメージファイル」を選択し、[参照]をクリックしてください。

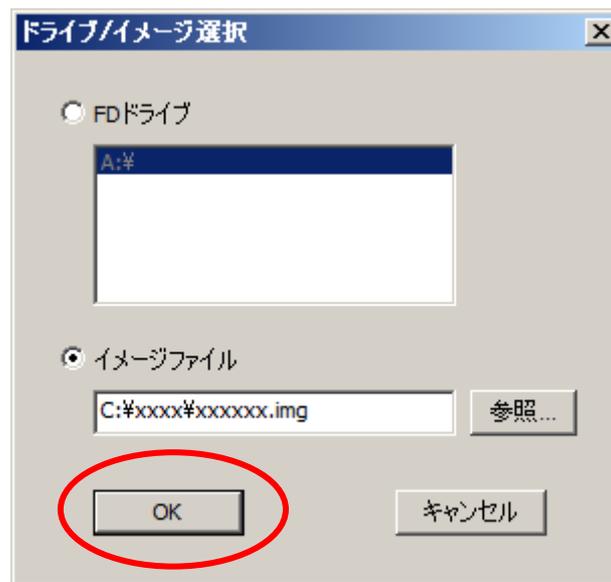


イメージ化したファイルを選択し[開く]をクリックしてください。



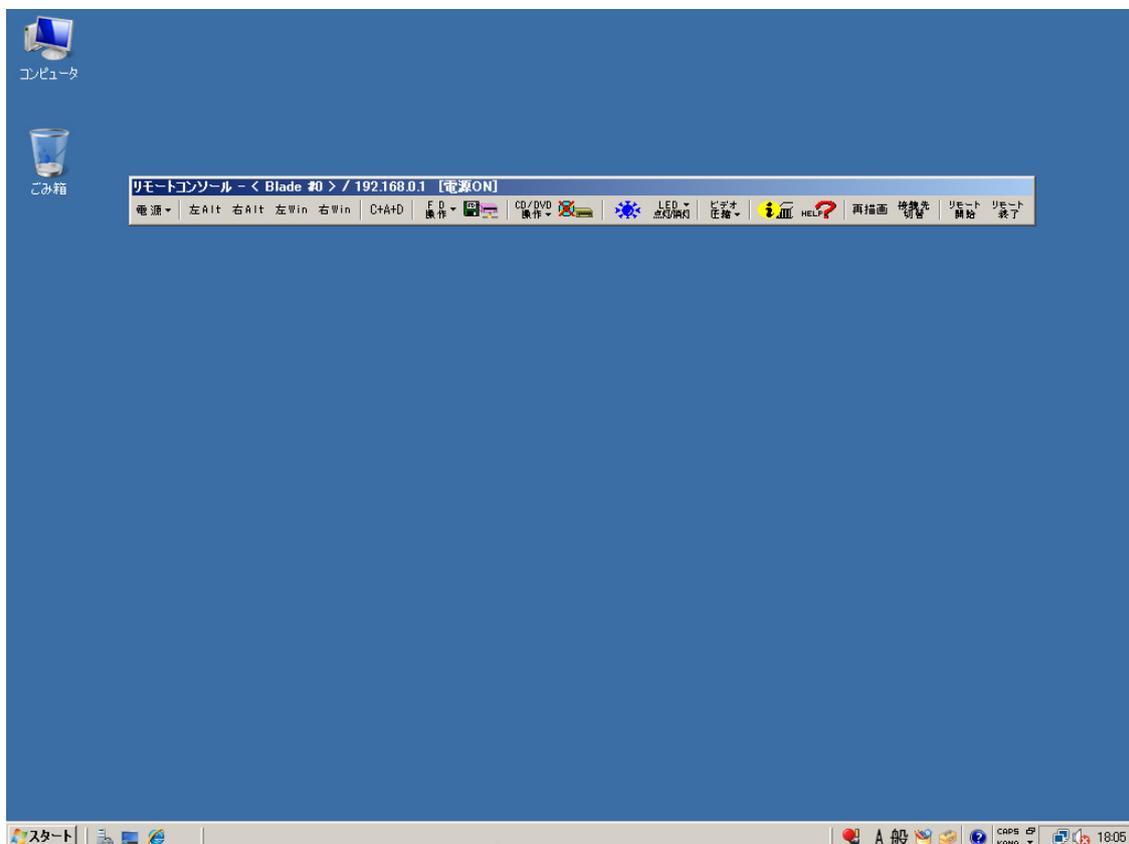
制限 イメージファイルは「FDDUMP」で作成したファイルを使用してください。他のプログラムで作成したイメージファイルを選択した場合、正しく動作しない可能性があります。

選択したイメージファイルの保存場所が表示されたら、[OK]をクリックします。



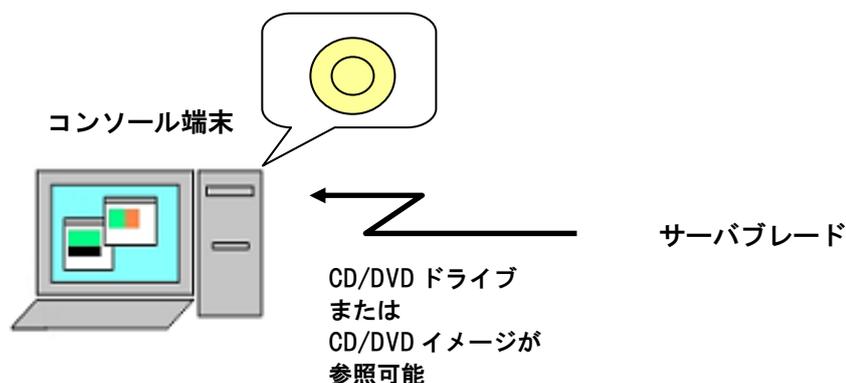
コンソール端末のFDイメージがリモートFDとしてサーバブレードに接続されます。

FDイメージファイルは複数のサーバから同時に参照することも可能です。複数のサーバから同時に参照するには、コンソール端末のOSでFDイメージファイルを「読み取り専用」に設定する必要があります。



4.5 リモートCD/DVD使用方法

リモート CD/DVD 機能とは、コンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブとサーバブレードを接続し参照する機能、またはサーバブレードからコンソール端末の CD/DVD イメージを参照する機能です。ここではリモート CD/DVD の使用方法を説明します。



制限 1台のサーバブレードからは、1台のCD/DVDドライブまたは1つのCD/DVDイメージしか接続することはできません。

制限 リモートFDおよびリモートCD/DVDは、サーバからUSBデバイスとして認識されます。USBデバイスには、リモートFDとリモートCD/DVDの両方が搭載されています。リモートFDとリモートCD/DVDのいずれかの使用を開始するとサーバにUSBデバイスが取り付けられ、両方の使用を終了するとUSBデバイスが取り外されます。

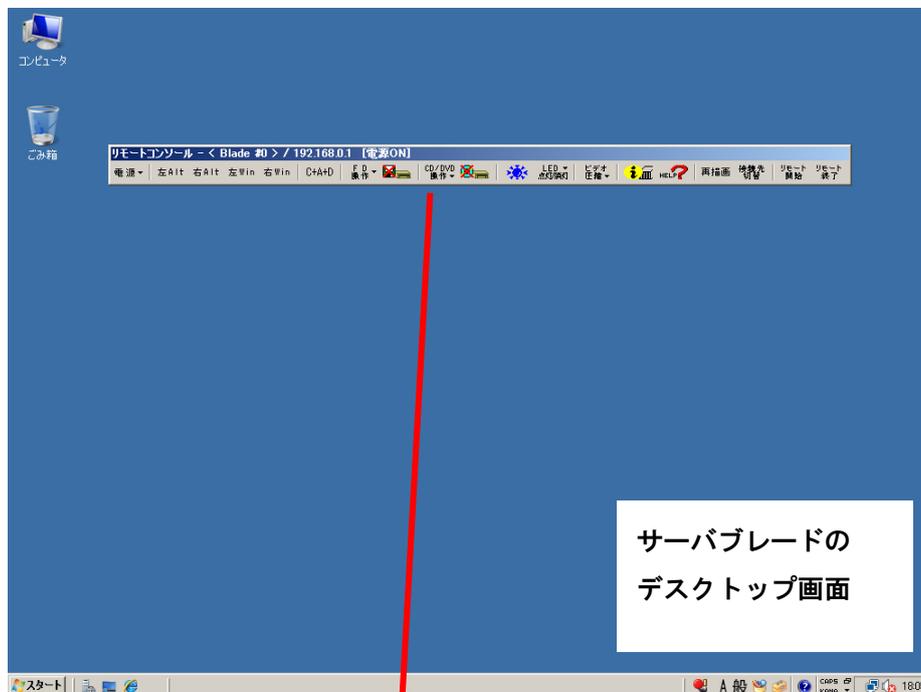
制限 リモートCD/DVDをご使用になる際は、レジストリまたはコントロールパネルの設定変更が必要になります。設定変更後、コンソール端末の再起動が必要な場合があります。設定の方法については、「2.2 動作環境・制限事項」の「リモートCD/DVD使用時のコンソール端末側の設定について」をご参照ください。

リモートCD/DVD機能に、コンソール端末に搭載または接続されているCD/DVDドライブを使用する場合と、コンソール端末のCD/DVDイメージを使用する場合の使用方法を説明します。

コンソール端末の CD/DVD ドライブを使用する場合

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

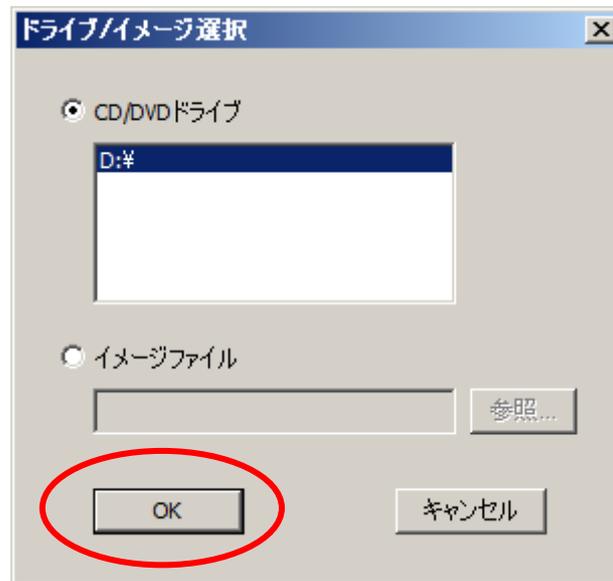
「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[CD/DVD 操作]ボタンをクリックします。



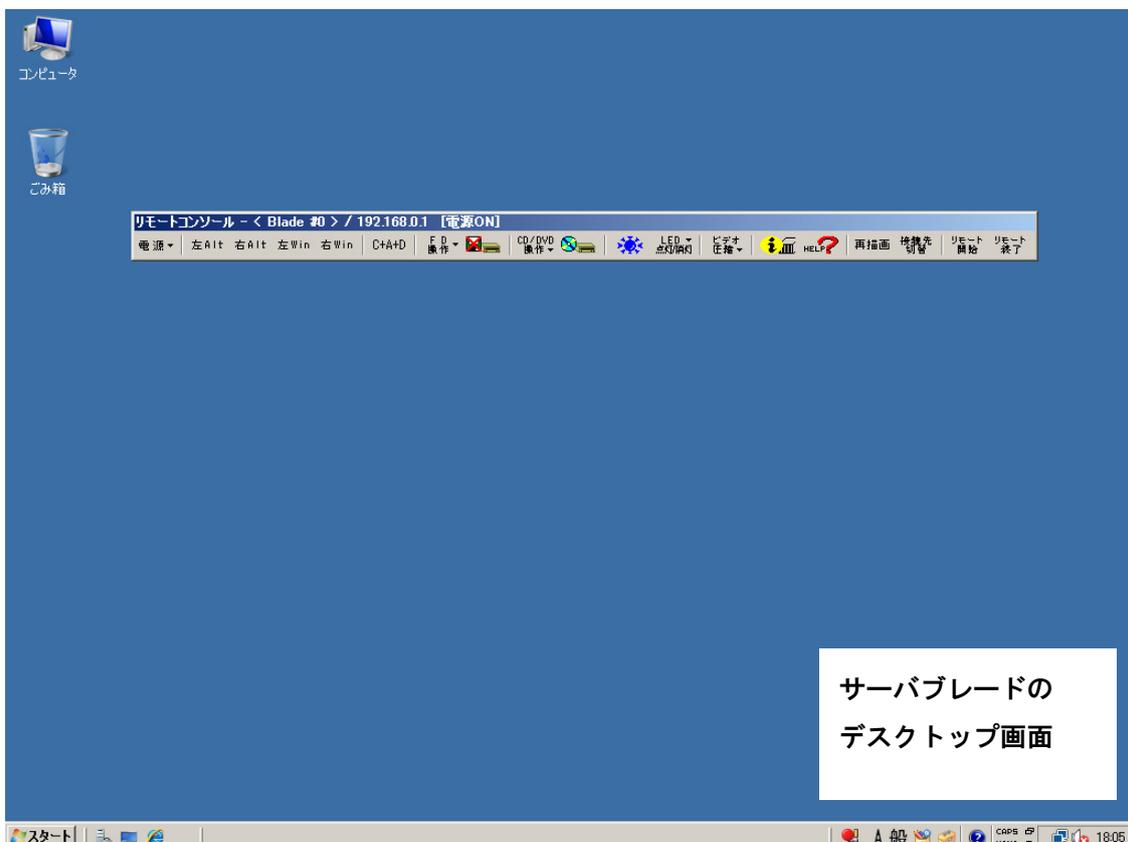
[CD/DVD 操作]のプルダウンメニューが表示されますので、[CD/DVD 選択]を選択します。



ドライブ/イメージ選択画面が表示されますので、「CD/DVD ドライブ」を選択し、コンソール端末で使用している CD/DVD ドライブを選択して[OK]ボタンをクリックしてください。



コンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブがリモート CD/DVD としてサーバブレードに接続されます。メディアをドライブに挿入して使用してください。



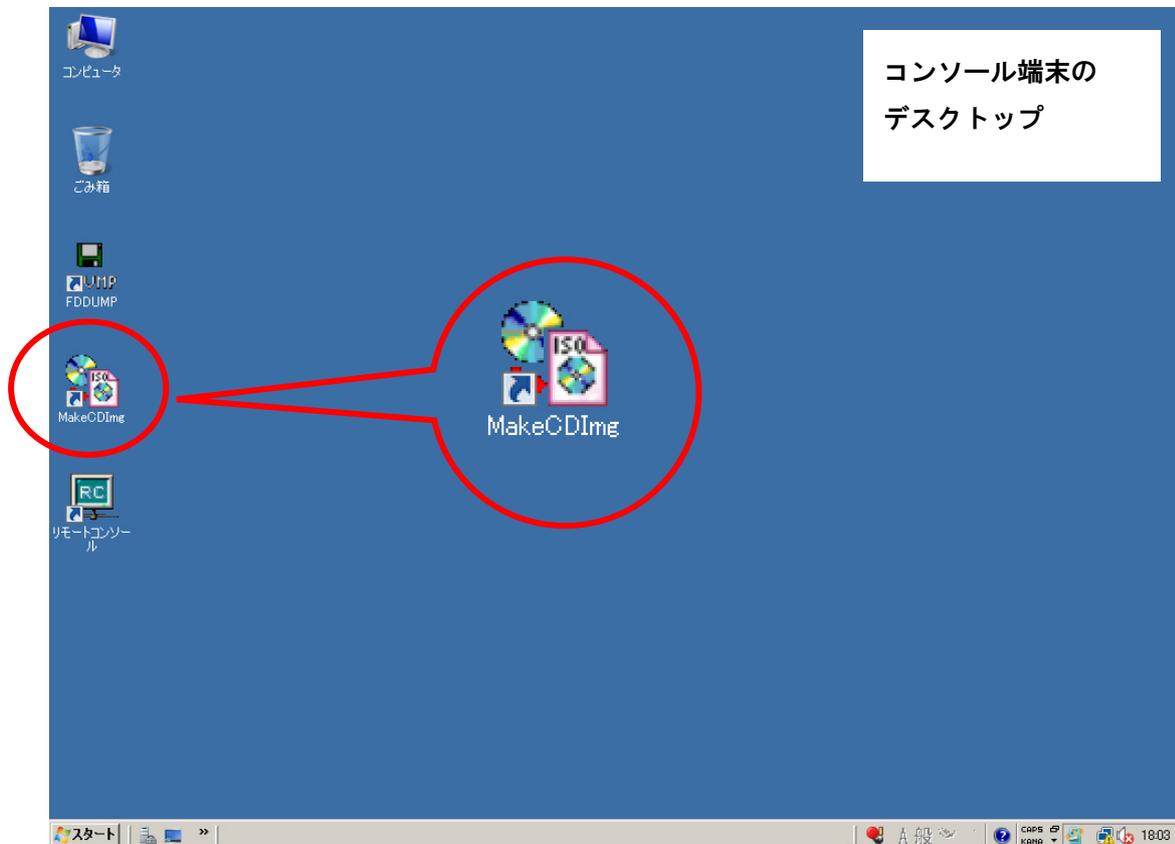
CD/DVD イメージを使用する場合

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD イメージを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

CD/DVD のイメージ化

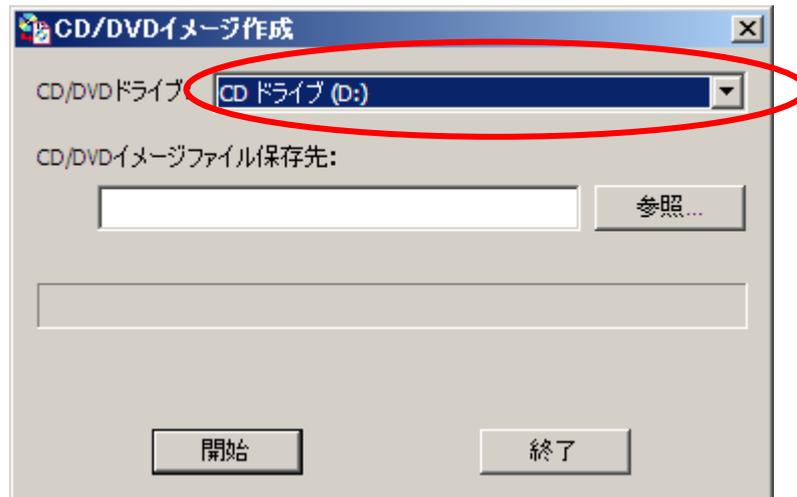
リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD イメージを使用するためには、事前に CD/DVD の内容をイメージ化する必要があります。
CD/DVD の内容をイメージ化する方法は以下の通りです。

コンソール端末側のデスクトップで「MakeCDImg」のアイコンをダブルクリックします。
「MakeCDImg」はリモートコンソールアプリケーションのインストール時に同時にインストールを行っています。

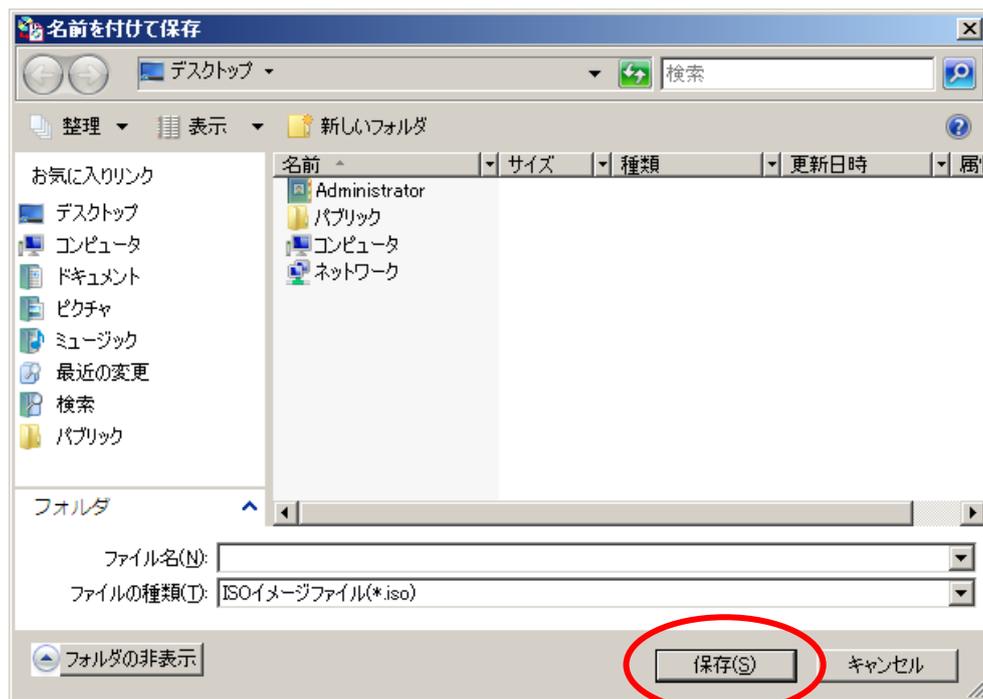


Windows 2000 で MakeCDImg を使用する場合、サービスパック 3 以上がインストールされている必要があります。

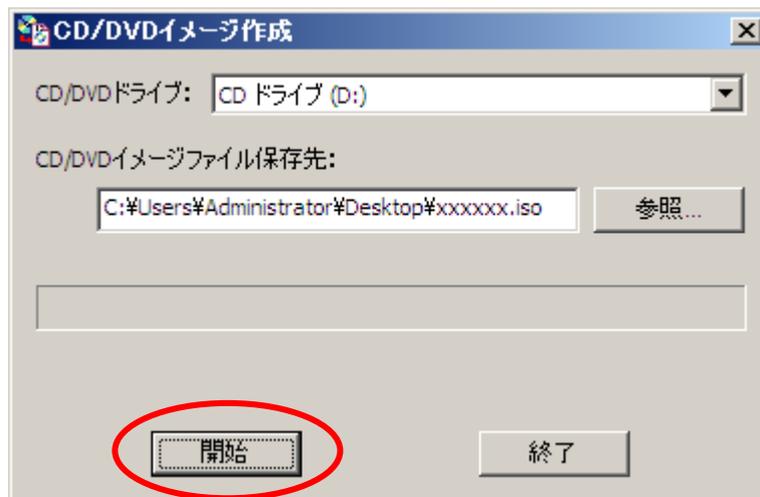
アイコンをクリックすると以下の画面が表示されます。イメージ化したい CD/DVD をコンソール端末に挿入し、CD/DVD を挿入したドライブを選択します。



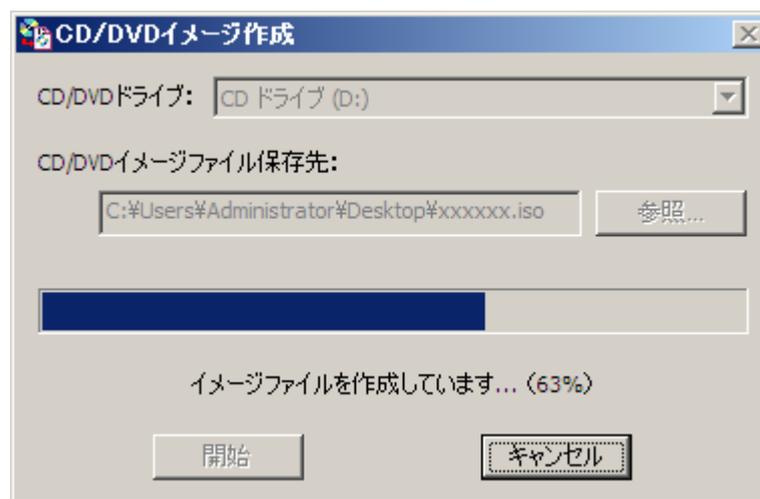
次に[参照]をクリックします。以下の画面が表示されるのでイメージ化されたファイルを保存する場所を選択し、ファイル名を入力します。ファイル名を入力した後、[保存]をクリックします。



保存する場所を決めたら[開始]をクリックします。[開始]をクリックするとメディアチェックを行った後に、CD/DVD のイメージ化が開始されます。



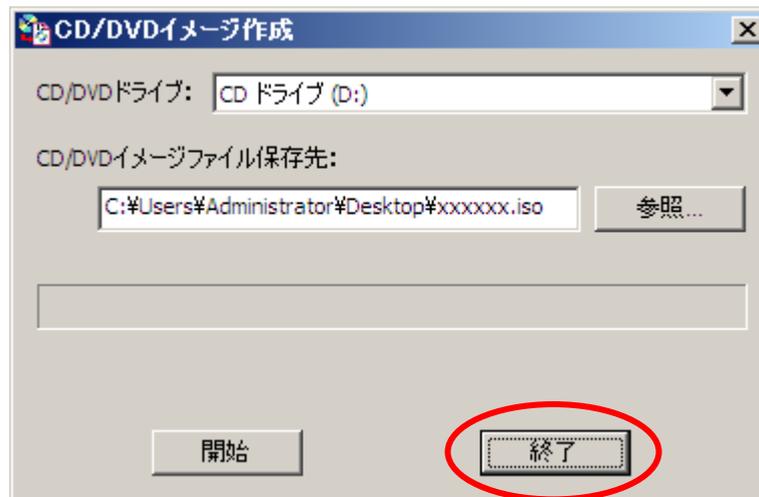
[開始]をクリックすると、以下の画面のように CD/DVD のイメージ化の進行状況が表示されます。



以下のメッセージが表示されると CD/DVD のイメージ化は終了です。メッセージの[OK]をクリックしてください。指定した保存先にイメージファイルが作成されています。



CD/DVD イメージ化が終了した後は、[終了]をクリックし MakeCDImg.exe を終了してください。



イメージ化に使用する CD/DVD メディアについての注意事項

イメージファイル作成に使用する CD/DVD メディアは以下の条件を満たす必要があります。

- ・ ISO9660 ファイルシステムでフォーマットしたメディアであること
- ・ マルチセッションのメディアでないこと

上記の条件を満たしている場合でも、メディアに特殊なプロテクトがかかっている場合やメディアと CD/DVD ドライブの相性が悪い場合などはイメージファイルを作成することは出来ません。

特に、「ディスクアットワンス」方式以外の書込み方法で作成した CD/DVD は、イメージファイルの作成に失敗する場合があります。

イメージファイルが作成出来ない場合は、「コンソール端末の CD/DVD ドライブを使用」する方法でリモート CD/DVD 機能を使用してください。

CD/DVD イメージファイルについての注意事項

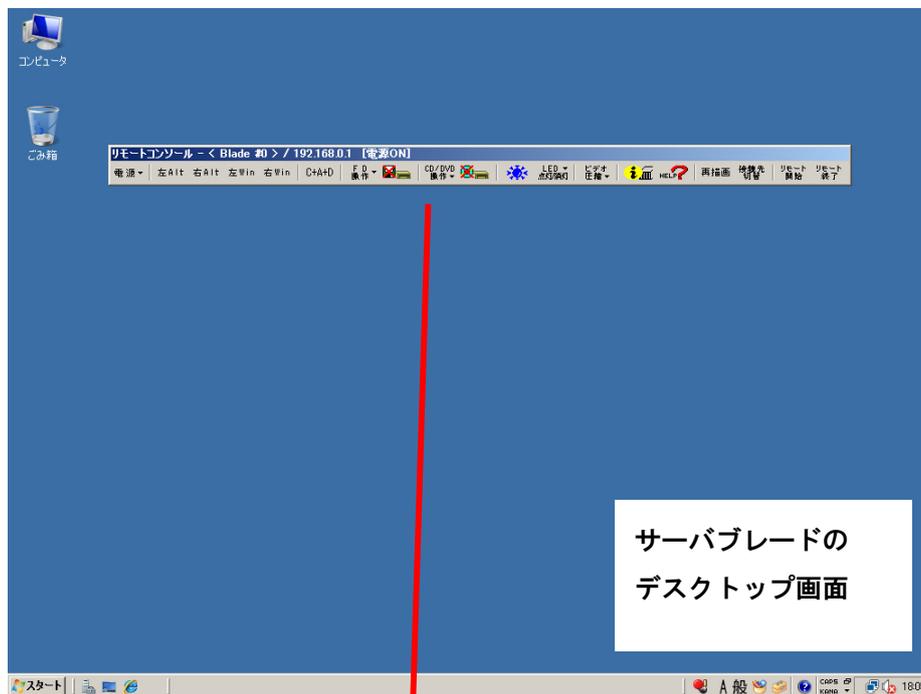
以下の点に注意して、CD/DVD イメージファイルを使用してください。

(1) OS インストールメディアなど、ライセンス契約があるメディアのイメージファイルは、メディアのライセンス契約に準じます。ライセンス契約に違反しないよう注意して使用してください。

(2) MakeCDImg で作成したイメージファイルは、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD/DVD 機能でのみ使用することが可能です。他の目的で使用し問題が発生した場合、弊社は一切の責務および賠償責任を負いません。

CD/DVD イメージを使用する場合のリモートコンソールアプリケーションの操作方法は以下の通りです。

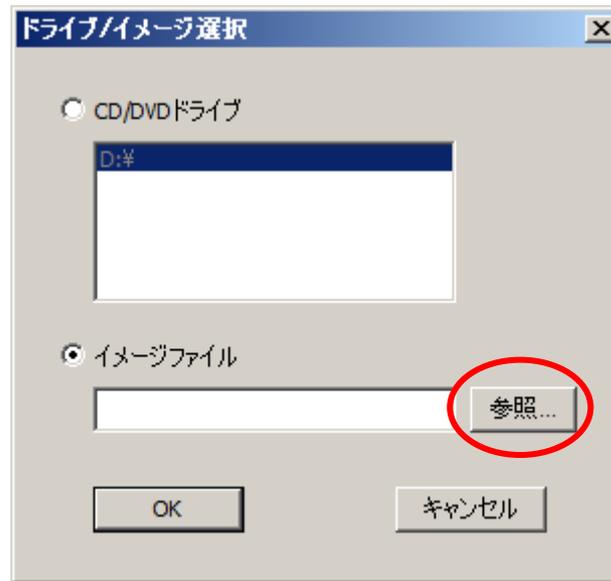
「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[CD/DVD 操作]ボタンをクリックします。



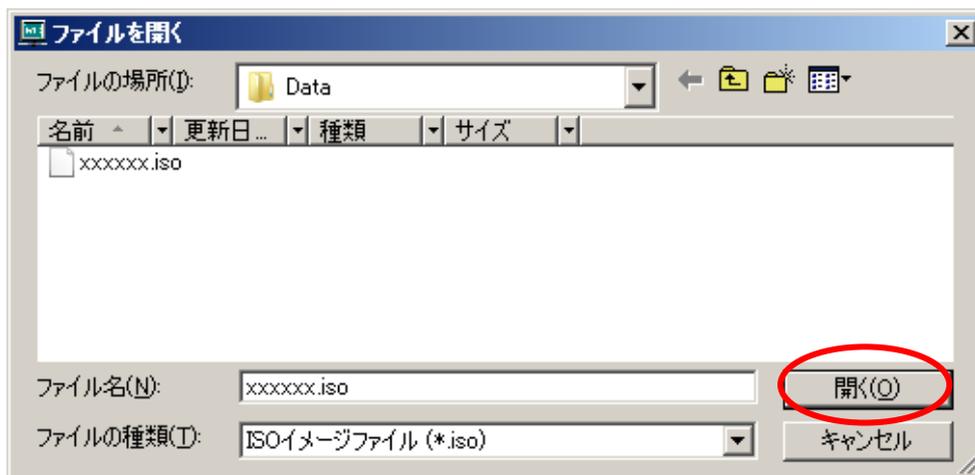
[CD/DVD 操作]のプルダウンメニューが表示されますので、[CD/DVD 選択]を選択します。



ドライブ/イメージ選択画面が表示されますので、「イメージファイル」を選択し、[参照]をクリックしてください。

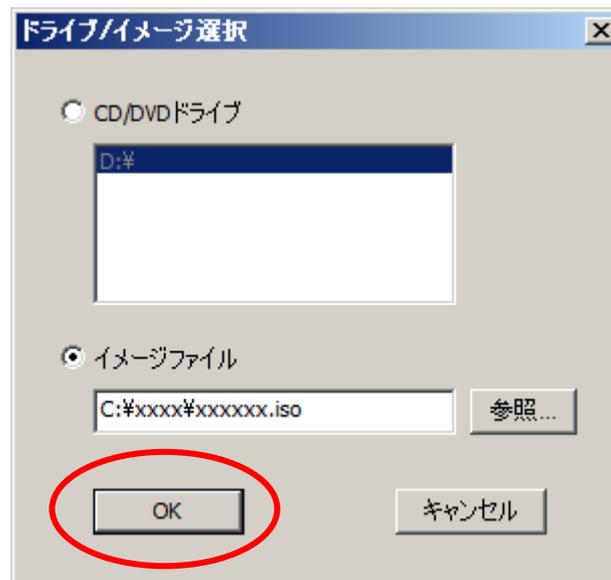


イメージ化したファイルを選択し[開く]をクリックしてください。



制限 イメージファイルは「MakeCDImg」で作成したファイルを使用してください。他のプログラムで作成した iso イメージファイルを選択した場合、正しく動作しない可能性があります。

選択したイメージファイルの保存場所が表示されたら、[OK]をクリックします。



コンソール端末の CD/DVD イメージがリモート CD/DVD としてサーバブレードに接続されます。



...
補足 イメージファイルを用いてリモート CD/DVD を使用している時に再度 CD/DVD イメージファイルの選択を行うと、メディアが入替えられた状態になります。

4.6 サーバブレード識別ランプ操作方法

リモートコンソールを接続しているサーバブレードを識別するために、接続しているサーバブレードの識別ランプ（Location ID LED）を点灯することができます。

サーバブレード識別ランプの操作方法

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させます。



サーバブレード識別ランプの状態表示



サーバブレード識別ランプ（Location ID LED）の現在の状態を表示します。ツールバーの表示と、サーバブレード識別ランプの状態は次の通りです。

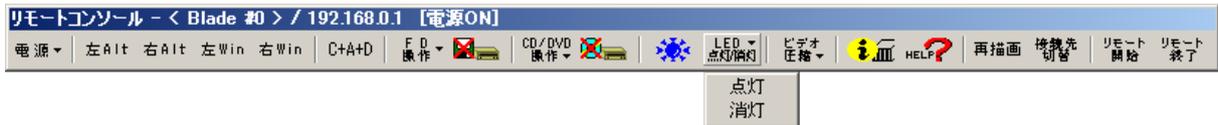
ツールバー表示	サーバブレード識別ランプの状態
	サーバブレード識別ランプは点灯しています。
	サーバブレード識別ランプは消灯しています。

サーバブレード識別ランプの操作

ツールバーを表示させ[LED 点灯/消灯]ボタンをクリックします。



[LED 点灯/消灯]のプルダウンメニューが表示されますので、操作を選択しクリックします。



操作方法は以下の通りです。

操作	サーバブレード識別ランプの動作
点灯	サーバブレード識別ランプを点灯します。
消灯	サーバブレード識別ランプを消灯します。



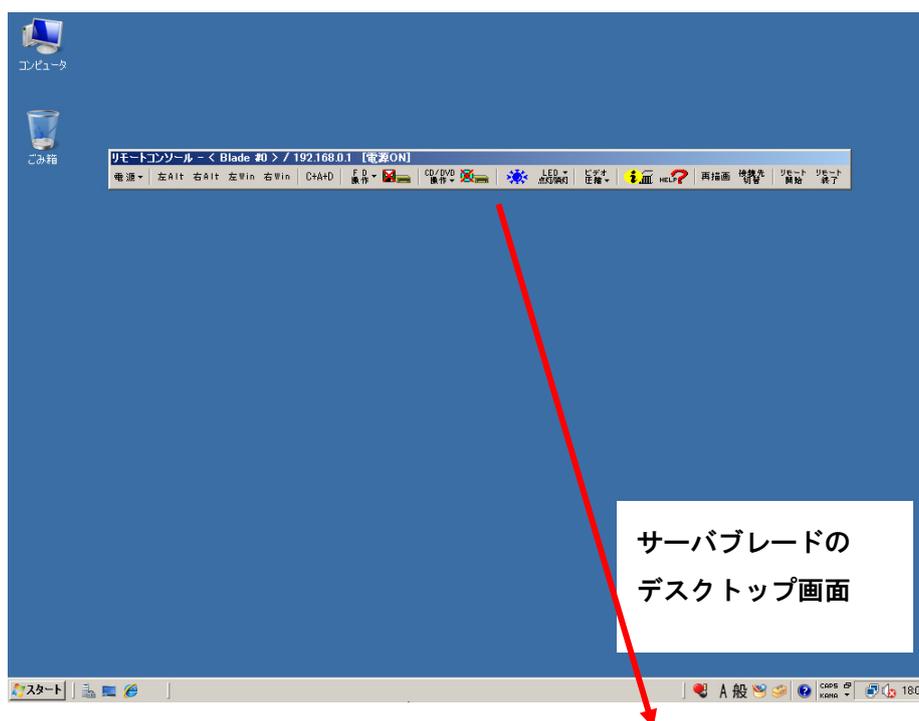
識別ランプ (Location ID LED) は、リモートコンソールアプリケーション以外からも操作を行います。そのため、操作のタイミングによっては設定が反映されないこともあります。

4.7 ビデオデータ圧縮使用方法

サーバブレード画面のビデオデータを圧縮してコンソール端末に送信することで、リモートコンソール使用時のネットワーク負荷を軽減することができます。ここではビデオデータ圧縮の使用方法を説明します。

ビデオデータ圧縮の使用方法

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[ビデオ圧縮]をクリックします。



[ビデオ圧縮]のプルダウンメニューが表示されます。ビデオデータ圧縮を使用する場合は「圧縮する」を、使用しない場合は「圧縮しない」をクリックします。デフォルトの設定値は「圧縮する」になっています。



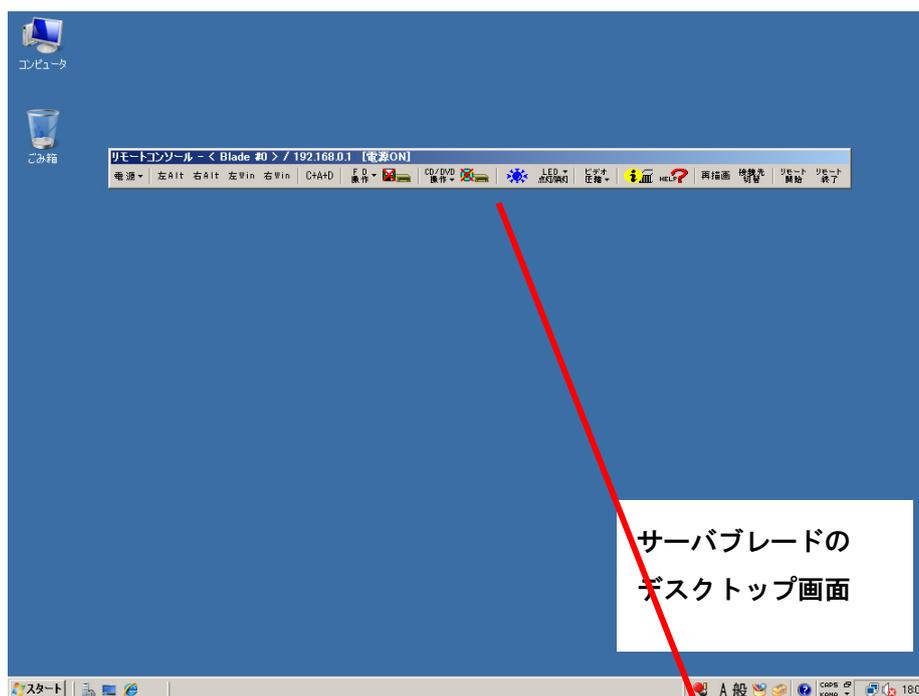
…
補足 操作を行ってから実際に設定が変更されるまでに時間がかかる場合があります。

4.8 サーバブレード情報表示方法

リモートコンソールで接続しているサーバブレードの装置情報と、リモートコンソールでサポートしている機能の情報を表示することができます。

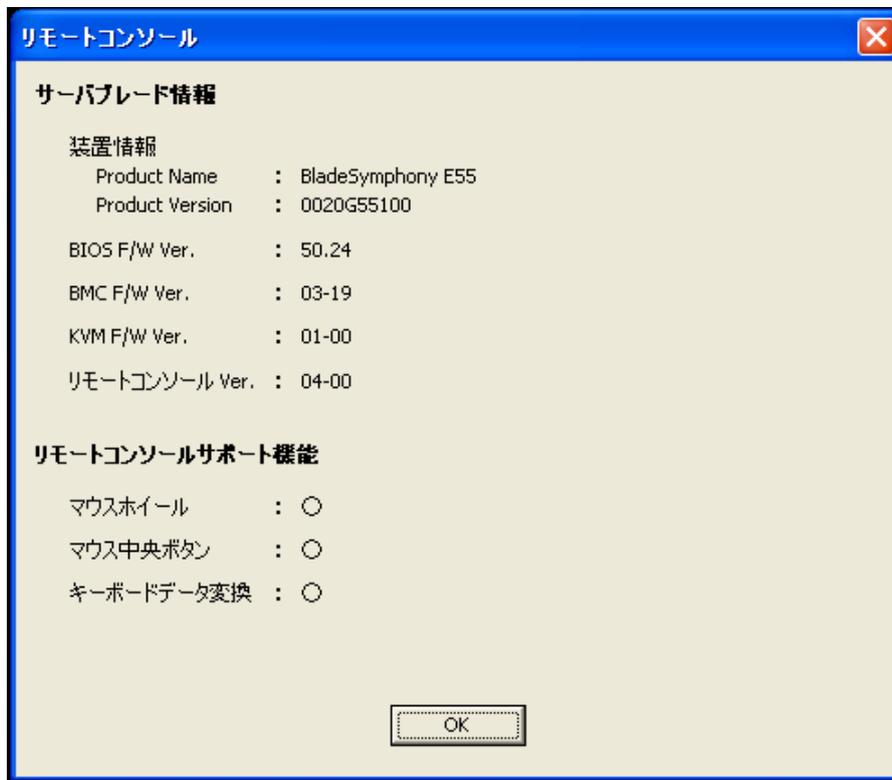
サーバブレード情報の表示方法

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[サーバ情報]ボタンをクリックします。



[サーバ情報]ボタンをクリックすると、サーバブレード情報ダイアログを表示し、サーバブレード情報の収集を行います。サーバブレード情報の収集は時間がかかる場合があります。サーバブレード情報の表示をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

サーバブレード情報の収集が終わると、サーバブレードの装置情報、リモートコンソールの機能情報が表示されます。



サーバブレード情報ダイアログは、リモートコンソールのサポート機能も表示されます。それぞれの機能について、サポートされている場合は「○」、未サポートの場合「×」が表示されます。

項目	機能
マウスホイール	マウスのホイール機能を使用することができます。
マウス中央ボタン	マウスの中央ボタン機能を使用することができます。
キーボードデータ変換	キーボードデータを変換してサーバへ送信します。

4.9 マウスモード設定方法

リモートコンソールは、以下の2つのマウスモードをサポートします。

- (1) ABSOLUTE モード：コンソール端末の OS が表示するマウスカーソルを用いてマウス操作を行うモードです。
- (2) RELATIVE モード：サーバブレード画面のマウスカーソルを用いてマウス操作を行うモードです。

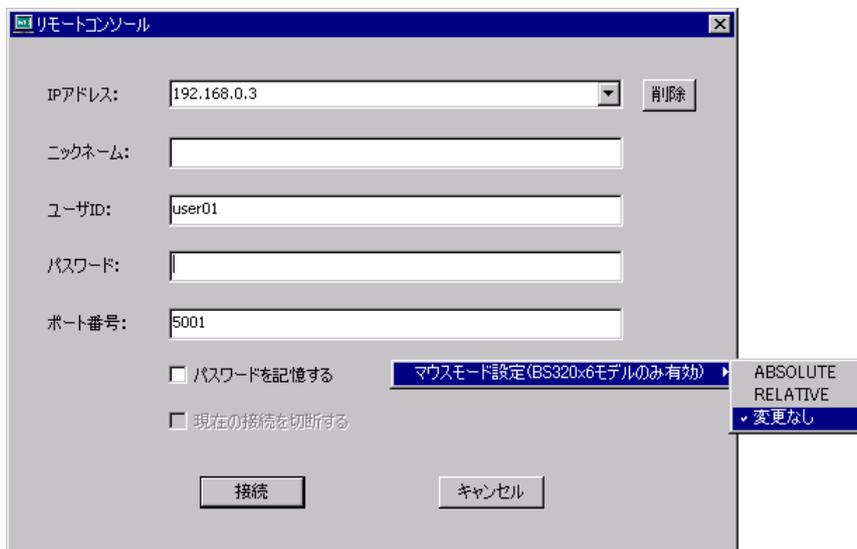
マウスを正常に動作させるには、サーバブレード OS の種類に応じたマウスモードを設定する必要があります。

サーバブレード OS が Windows の場合、ABSOLUTE モードに設定してください。
サーバブレード OS が Linux の場合、RELATIVE モードに設定してください。

マウスモードの設定方法

マウスモードの設定は、サーバブレードの Web コンソールにより行います。詳細は「ユーザズガイド」の「サーバブレード設定の詳細」を参照ください。

 ログイン画面でマウスの右ボタンをクリックすると、「マウスモード設定 (BS320x6 モデルのみ有効)」というポップアップメニューが表示されますが、このメニューから BS2000 のマウスモードを変更することは出来ません。

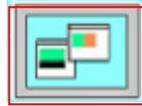
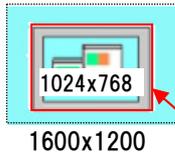


4.10 画面表示範囲の変更方法

サーバブレード側画面の解像度を1024×768以上に選択した場合は、コンソール端末側では画面の中の1024×768分だけ表示されます。画面右および画面下にスクロールバーが表示され、スクロールバーの操作によりサーバブレード側画面の表示範囲を変更することができます。

サーバブレード側

コンソール端末側



表示範囲

コンソール端末には1024x768分だけ表示されます。画面は画面右および画面下のスクロールバーの操作によりスクロールします。

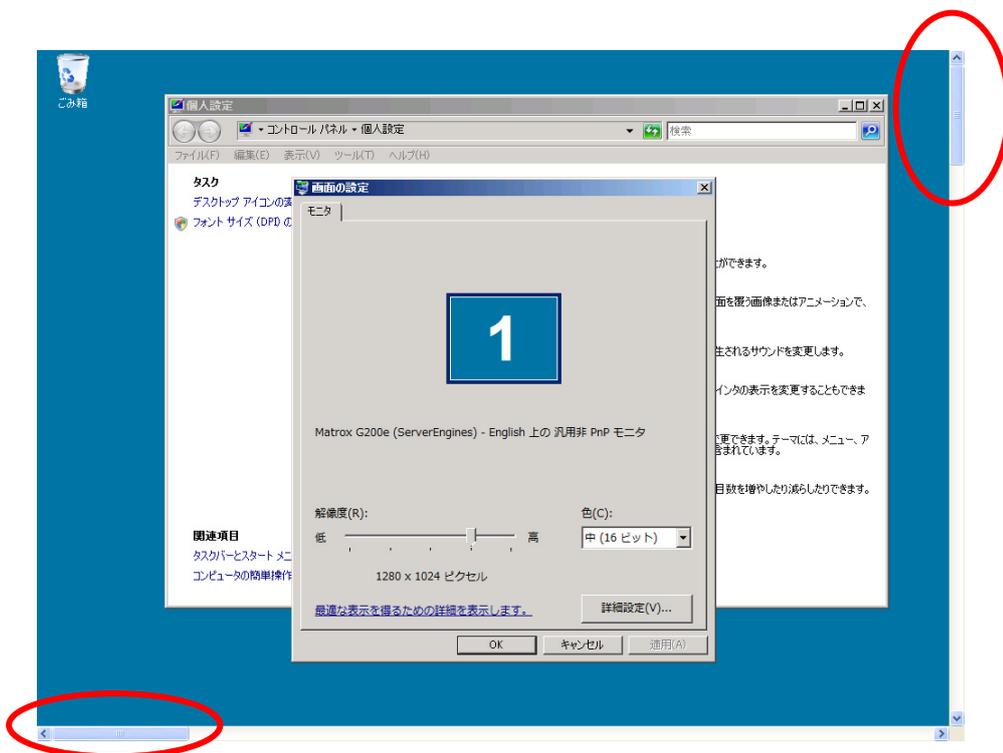
スクロールバーの操作方法

マウスモードが RELATIVE モードの場合

[Alt]+[F]キーを入力し、コンソール端末のマウスカーソルを表示させます。

...
補足 コンソール端末のマウスカーソルが表示された状態では、サーバブレード画面のキーボード、マウス操作は行えません。

コンソール端末のマウスカーソルをスクロールバーに移動し、バーの位置を変更することでサーバブレード画面をスクロールさせることができます。



サーバブレード画面のキーボード、マウス操作を行うには、もう一度[Alt]+[F]キーを入力し、コンソール端末のマウスカーソルを非表示にします。

マウスモードが ABSOLUTE モードの場合

マウスカーソルをスクロールバーに移動し、バーの位置を変更します。[Alt]+[F]キーの入力は必要ありません。

5

詳細設定方法

この章では、リモートコンソールアプリケーションの設定を変更する方法について説明します。

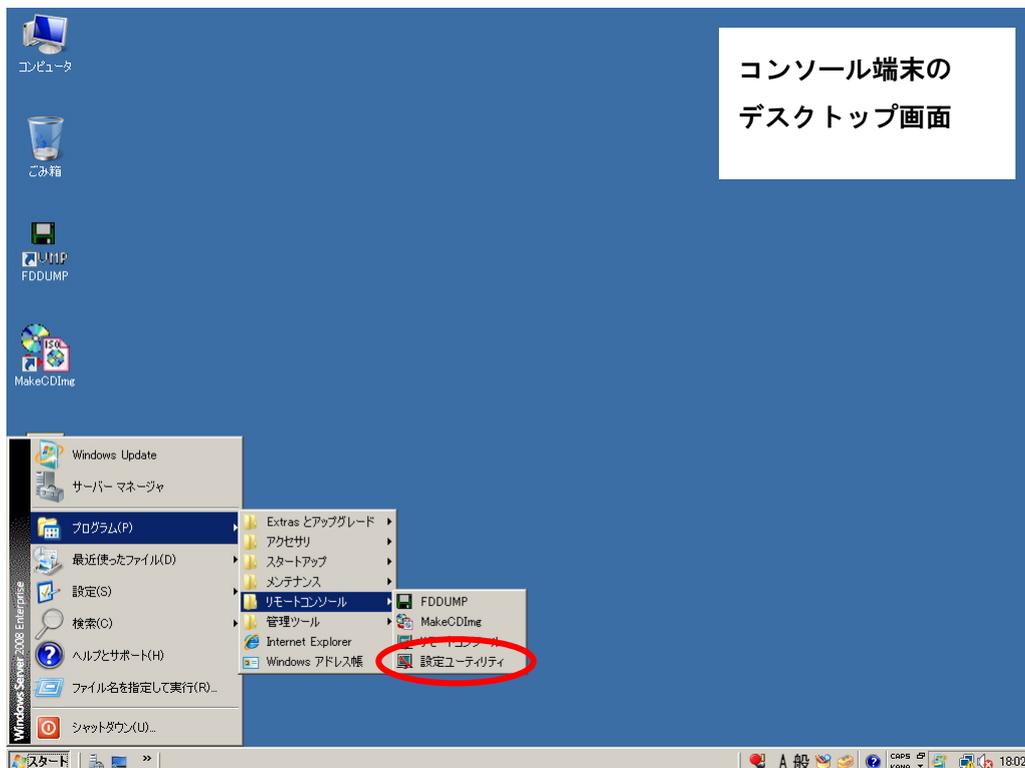
5.1 設定ユーティリティ起動方法

リモートコンソールアプリケーションの設定を変更することが可能です。設定変更出来る機能は以下の通りです。

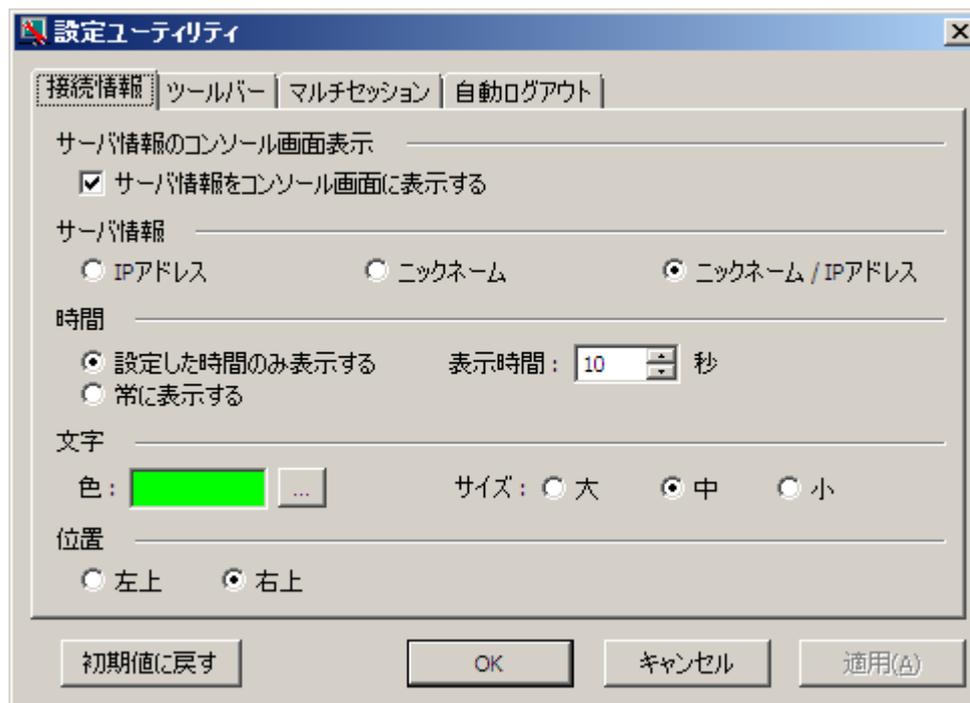
- ・ 接続先サーバ情報（ニックネーム、IP アドレス）をコンソール画面に表示する機能
- ・ 表示するサーバ情報の文字（サイズ、色、位置、表示時間）の設定
- ・ サーバ接続直後のキーボード、マウス操作を可能にする機能
- ・ マルチセッションできるサーバ数を制限する機能
- ・ キーボード、マウス操作が一定時間以上なかった時、自動的にログアウトする機能

設定ユーティリティ起動方法

リモートコンソールアプリケーションの設定は、設定ユーティリティで変更できます。
[スタート]—[すべてのプログラム]—[リモートコンソール]から、「設定ユーティリティ」を起動してください。



「設定ユーティリティ」を起動すると下記画面が表示されます。



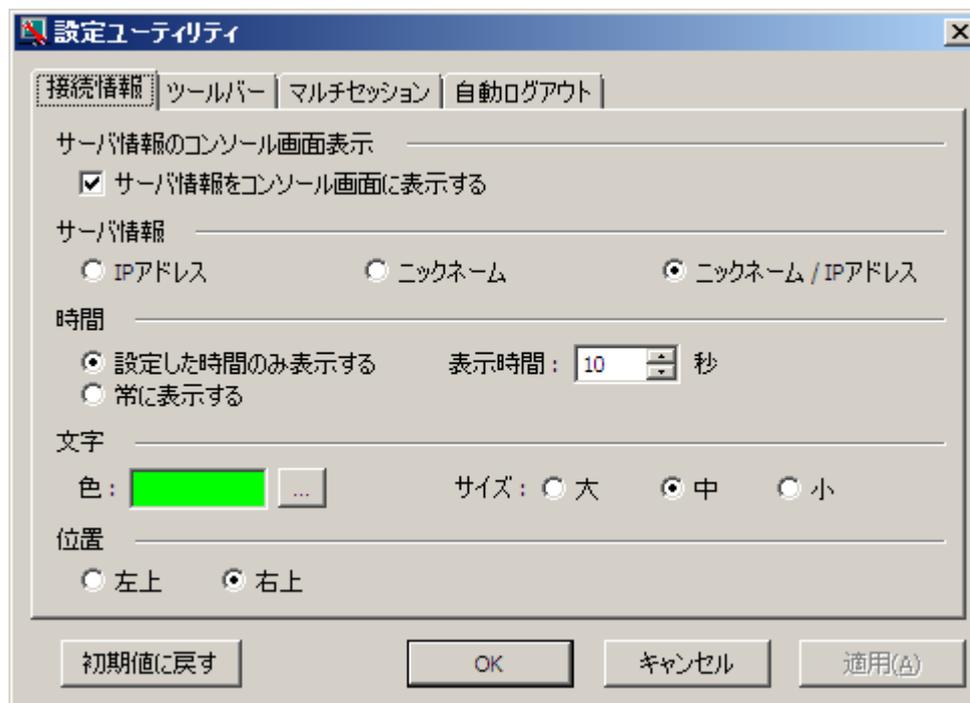
各項目を設定して、[OK]ボタンまたは[適用]ボタンをクリックすると設定が有効になります。設定変更を反映させたくない場合は[キャンセル]ボタンをクリックして、設定ユーティリティを終了させてください。

[初期値に戻す]ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージの[OK]ボタンをクリックし、[適用]または[OK]ボタンをクリックするとすべての設定値が初期値に戻ります。各項目の初期設定については「5.6 初期値一覧」をご参照ください。

5.2 サーバ情報表示

接続先のサーバ情報（ニックネーム、IP アドレス）をコンソール画面に表示させる機能について詳細に設定できます。

「設定ユーティリティ」を起動し、「接続情報」タブをクリックしてください。



それぞれの設定項目について説明します。

サーバ情報のコンソール画面表示

コンソール画面に、接続先サーバ情報（ニックネーム、IP アドレス）を表示するかどうかを設定します。

設定	機能
チェックあり	サーバ情報をコンソール画面に表示します。
チェックなし	サーバ情報をコンソール画面に表示しません。

「チェックあり」の場合、以下の設定が可能になります。

サーバ情報

コンソール画面に表示するサーバ情報を設定します。以下の3つより選択してください。

設定	機能
[IP アドレス]	コンソール画面に IP アドレスのみ表示します。 ニックネームを入力しても画面に表示されません。
[ニックネーム]	コンソール画面にニックネームのみ表示します。 IP アドレスは表示されません。
[ニックネーム/ IP アドレス]	コンソール画面にニックネームと IP アドレスの両方を 表示します。

時間

コンソール画面に、サーバ情報を表示する時間を設定します。

設定	機能
[設定した時間のみ表示]	サーバに接続してから設定した時間だけ、サーバ情報を コンソール画面に表示します。
表示時間	表示時間は 1~300 秒まで設定できます。
[常に表示する]	サーバ情報をコンソール画面に常に表示します。 設定時間を経過してもサーバ情報は消えません。

文字

コンソール画面に表示するサーバ情報の文字の色、大きさを設定します。

設定	機能
色	コンソール画面に表示する文字の色を設定します。
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> ... ボタン </div>	文字の色を変更したい場合はダイアログより選択してください。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>色の設定</p> <p>基本色(B):</p> <p>作成した色(C):</p> <p>色の作成(D) >></p> <p>OK キャンセル</p> </div>
サイズ	コンソール画面に表示する文字の大きさを設定します。 [大]、[中]、[小]の3つより選択してください。
	[大]
	[中]
	[小]

位置

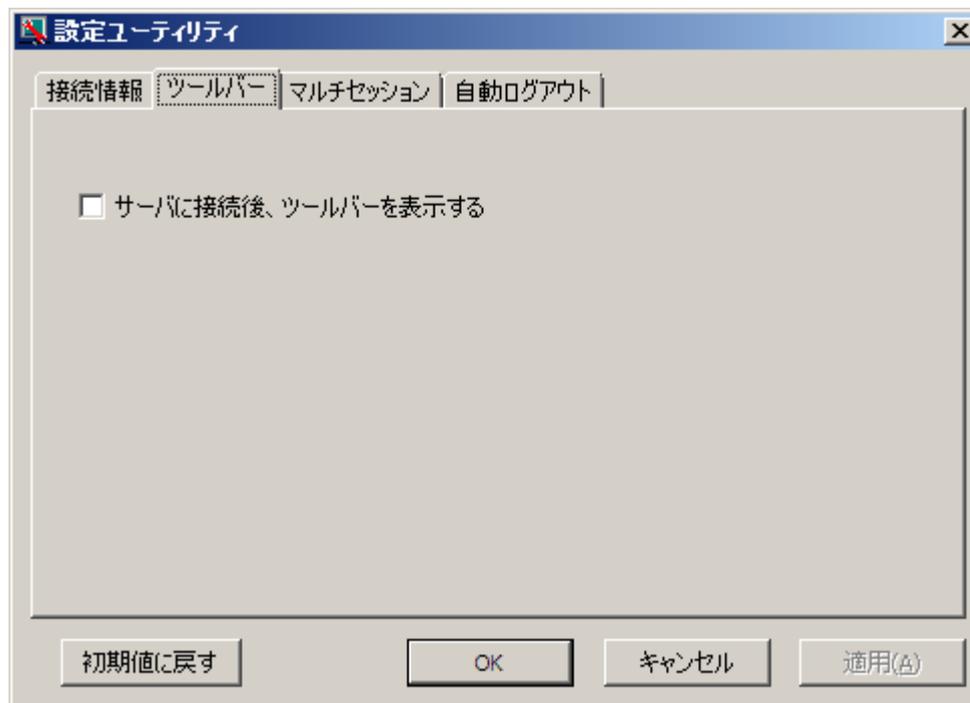
コンソール画面に表示する文字の位置を設定します。

設定	機能
[左上]	コンソール画面の左上にサーバ接続情報の文字を表示します。
[右上]	コンソール画面の右上にサーバ接続情報の文字を表示します。

5.3 ツールバー

サーバに接続した直後のキーボード、マウス操作について設定します。

「設定ユーティリティ」を起動し、「ツールバー」タブをクリックしてください。



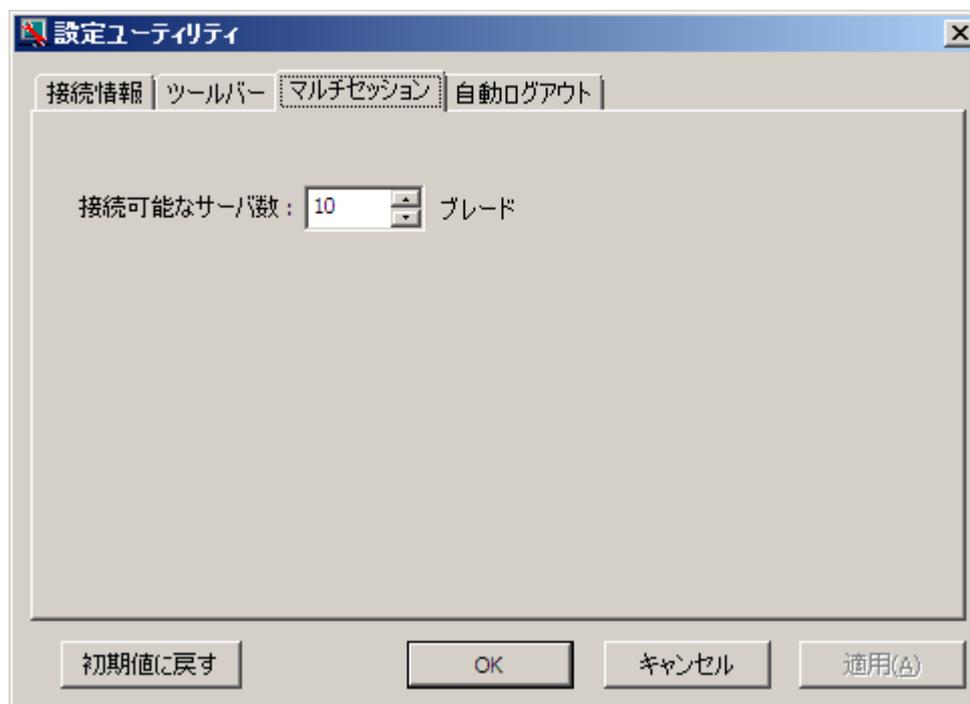
サーバに接続した時に、ツールバーを表示させるかどうかを設定します。
ツールバーが表示されている間は、キーボード、マウス操作ができません。

設定	機能
チェックなし	サーバに接続後、ツールバーを表示しません。 接続直後からキーボード、マウス操作が可能となります。
チェックあり	サーバに接続後、ツールバーを表示します。 接続直後はキーボード、マウス操作ができません。

5.4 セッション数制限

マルチセッション可能なサーバの数を制限します。

「設定ユーティリティ」を起動し、「マルチセッション」タブをクリックしてください。



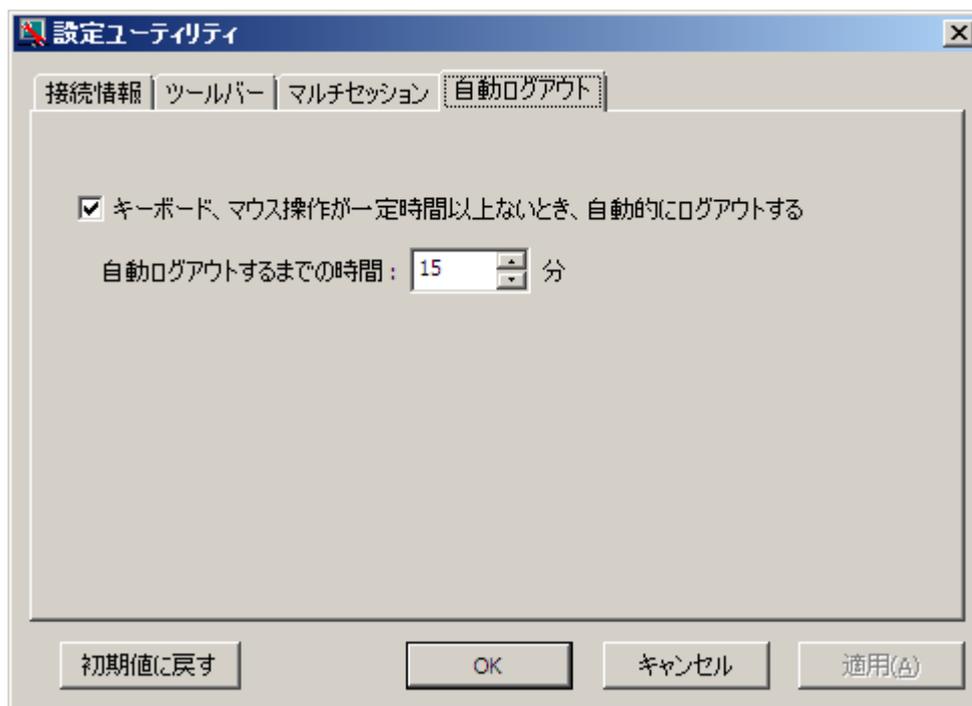
接続可能なサーバ数は「1～99」ブレードとなっています。

なお、数多くのブレードに接続した場合、画面表示の乱れやリモート操作が遅くなる可能性がありますので、「10 ブレード」以下の設定を推奨します。

5.5 ログアウト時間

接続したサーバでキーボード、マウスの操作が一定時間以上なかった場合、自動的にログアウトする機能について設定します。

「設定ユーティリティ」を起動し、「自動ログアウト」タブをクリックしてください。



設定	機能
チェックあり	キーボード、マウス操作が設定した時間以上なかった場合自動的にログアウトします。
自動ログアウトするまでの時間	1～300分までの設定が可能です。
チェックなし	キーボード、マウス操作がない場合でも、自動的にログアウトしません。

... リモート FD、リモート CD/DVD を使用している場合は、設定時間以上キーボード、マウス操作がなくても自動ログアウトしません。
補足

5.6 初期値一覧

「設定ユーティリティ」の初期設定は以下の通りです。

「接続情報」タブ

項番	設定項目		初期値
1	サーバ情報を コンソール画面に 表示	サーバ情報をコンソール 画面に 表示する	チェックあり
2	サーバ情報		ニックネーム/IP アドレス
3	時間	設定時間のみ表示	チェックあり
		表示時間	10 秒
4	文字	色	黄緑 ■
		サイズ	中
5	位置		右上

「ツールバー」タブ

項番	設定項目	初期値
1	サーバに接続後、ツールバーを表示する。	チェックなし

「マルチセッション」タブ

項番	設定項目	初期値
1	接続可能なサーバ数	10 ブレード

「自動ログアウト」タブ

項番	設定項目	初期値
1	キーボード、マウス操作が一定時間以上ないとき、 自動的にログアウトする	チェックあり
	自動ログアウトするまでの時間	15 分

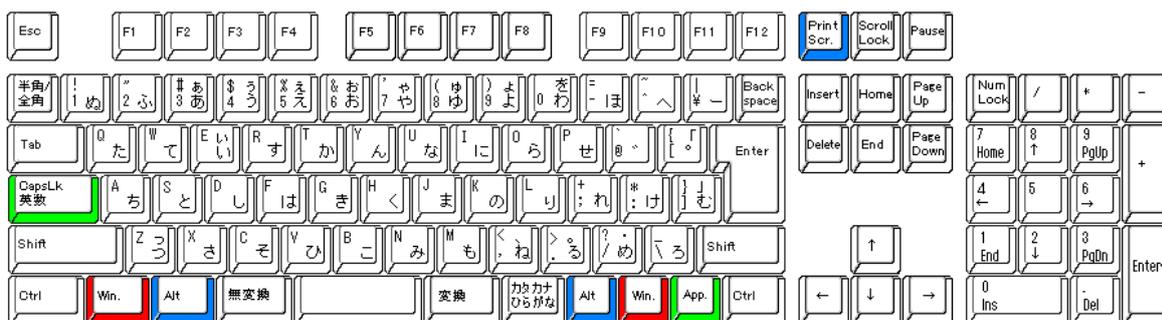
6

ご注意

この章では、リモートコンソールをご使用いただく際に注意していただきたいことを説明します。

6.1 キーボード入力制限に関して

リモートコンソールは、コンソール端末からのキーボード入力をそのままサーバブレードへ伝送する機能があります。但し、いくつかのキーに対して制限事項があります。リモートコンソールを運用するにあたり、制限キーを使用する場合はご注意ください。下図に 109 キーボードに対する制限キーを示します。



-  . . . サーバブレード側に作用せず、コンソール端末側に作用するキー
-  . . . サーバブレード側で、本来のキーとして作用しないキー
-  . . . 使用禁止キー

各制限キーの制限事項内容、および代替入力方法について下記に記します。

制限キー	制限事項	代替入力方法・対策
[Caps Lock]キー	コンソール端末から[Caps Lock]キー単独での使用はできません。 [Shift]キー+[Caps Lock]キーの時のみ有効に動作します。	IME ツールバーを直接マウスにて変更して代行して下さい。
左[Alt]キー 右[Alt]キー	コンソール端末から左右どちらかの[Alt]キーを使用すると、コンソール端末側にのみ[Alt]キーの動作影響を与えます。サーバブレード側へ[Alt]キー動作は伝わりません。 両[Alt]キーはリモートコンソールのショートカットキーとして使用します。	「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ「右 Alt」、「左 Alt」ボタンをクリックしてください。 または「右 Alt」([Alt]+[M]キー)、「左 Alt」([Alt]+[Z]キー)のショートカットキーを押してください。
左[Windows]キー 右[Windows]キー	両キーとも使用できません。 コンソール端末から左右[Windows]キーどちらかを使用すると、コンソール端末側は[Windows]キーを押した時のスタートメニューが開き、サーバブレード側は[Windows]キーが押されたままの状態になります。	「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ「右 Win」、「左 Win」ボタンをクリックしてください。 または「右 Win」([Alt]+[N]キー)、「左 Win」([Alt]+[X]キー)のショートカットキーを押してください。
[App.]キー	コンソール端末から使用するとサーバブレード側に動作が伝わりません。	マウスの右ボタンをクリックしてください。



[PrintScreen]キーを押した場合は、コンソール端末側とサーバブレード側でそれぞれの画面が同時にキャプチャされます。

6.2 ショートカットキー

コンソール端末の利便性を上げるため、以下のショートカットキーを設けています。
ショートカットキーは全て[Alt]キーとの組み合わせになります。

キー入力	内容
[Alt]キー+[Z]キー	左[Alt]キーを押下します。再度入力するまで[Alt]キーが押された状態になります。
[Alt]キー+[M]キー	右[Alt]キーを押下します。再度入力するまで[Alt]キーが押された状態になります。
[Alt]キー+[X]キー	左[Windows]キーを押下します。再度入力するまで[Windows]キーが押された状態になります。
[Alt]キー+[N]キー	右[Windows]キーを押下します。再度入力するまで[Windows]キーが押された状態になります。
[Alt]キー+[L]キー	左[Ctrl]+左[Alt]+[Del]キーを入力します。ボタンを押すと確認メッセージが表示されます。
[Alt]キー+[F]キー	マウスモードが RELATIVE モードの場合に、画面表示範囲変更のためのマウスカーソルの表示/非表示の切り替えを行います。
[Alt]キー+[T]キー	リモートFDの接続先を選択し、リモートFDを開始します。
[Alt]キー+[C]キー	リモートFDを終了します。
[Alt]キー+[U]キー	リモートCD/DVDの接続先を選択し、リモートCDを開始します。
[Alt]キー+[B]キー	リモートCD/DVDを終了します。
[Alt]キー+[S]キー	サーバブレード識別ランプの点灯/消灯の切替を行います。
[Alt]キー+[D]キー	ログイン画面を表示します。もう一度選択するとキャンセルされます。
[Alt]キー+[G]キー	ツールバーの表示/非表示の切替を行います。 ツールバーを表示している時は、キーボード、マウス操作はできません。
[Alt]キー+[E]キー	リモートコンソールアプリケーションを終了します。

6.3 メッセージについて

リモートコンソールの状態と、各状態でのリモートコンソールの処理は以下の通りです。

項番	状態	リモートコンソールの処理
1	画像信号なし	黒い画面に「画像信号がきていません。」というメッセージを表示します。画像信号が回復した時、メッセージは自動で消えます。
2	ネットワーク切断	現状の画面を表示したまま「サーバとの通信が切断されました。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとアプリケーションを終了します。
3	ユーザID 不正 または パスワード 不正	「ユーザID またはパスワードが違います。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。
4	ユーザ権限不足（リモートコンソールの使用を許可されていないユーザによる接続）	「ユーザにリモートコンソールを使用する権限がありません。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。
5	二重接続 (同一サーバブレードへの二重接続)	「既にリモートコンソールが実行中のサーバです。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。
6	ネットワーク接続不正 または IP アドレス、ポート番号不正	「サーバに接続できません。IP アドレス、ポート番号を確認してください。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。

7

Q&A

この章では、簡単なトラブルが発生した場合の対処方法を説明します。

項番	問題点	対処方法
1	ユーザ登録が行えない。	ユーザ ID、パスワードの設定は 1 文字以上、32 文字以下である必要があります。
2	サーバブレードにログインできない。	LAN ケーブルの接続を確認してください。 サーバブレードに設定されているユーザ ID、パスワードを確認してください。 ネットワークの設定 (IP アドレス、サブネットマスクなど) を確認してください。 コンソール端末からの接続が制限されていないことを確認してください。(「3.4 リモートコンソール設定」をご参照ください。)
3	リモートコンソールを使用したときのマウス動作、画面描写が遅い。	リモートコンソール使用時のマウス動作、描写速度は通常のサーバ画面での動作より遅くなります。画面の更新が遅い場合は、ツールバーの「再描画」ボタンを押すと、画面が更新されます。
4	リモートコンソールから、キーボードまたはマウスの操作が行えない。	ツールバーの両[Alt]キー、両[Windows]キーが押された状態になっていないことを確認して下さい。 ネットワーク環境 (ファイアウォールなど) を確認してください。 一度リモートコンソールを終了し、再度リモートコンソールを起動して下さい。それでも回復しない場合は、コンソール端末のキーボードで左右[Alt]キー、左右[Ctrl]キー、左右[Shift]キーを 1 回ずつ入力してください。
5	サーバブレード OS が Windows の場合にマウスカーソルが表示されない。	サーバブレード OS が Windows の場合、マウスモードを「ABSOLUTEモード」に設定する必要があります。(「4.9 マウスモード設定方法」をご参照ください。)
6	サーバブレード OS が Linux の場合にマウスの動作がおかしい。	サーバブレード OS が Linux の場合、マウスモードを「RELATIVEモード」に設定する必要があります。(「4.9 マウスモード設定方法」をご参照ください。)
7	デバイスマネージャにて、HID マウスデバイス、または HID キーボードデバイスに ! 記号が表示される。	リモートコンソールアプリケーションを終了し、システムシャットダウンの後、BMC の再起動を行ってください。

項番	問題点	対処方法
8	「既にリモートコンソールが実行中のサーバです。」のメッセージが出る。	1つのサーバブレードに同時に2つ以上のリモートコンソールを接続できません。
9	「サーバに接続できません」のメッセージが出る。	アクセスするサーバブレードの IP アドレス、ポート番号を確認してください。または、ネットワーク環境を確認してください。
10	コンソール端末から [Caps Lock] がかけられない。	[Caps Lock] 単体の Key 操作は無効となっています。 [Shift]+[Caps Lock] キーの操作は有効となります。
11	リモートコンソールに接続できない。	リモートコンソールに接続できない状態になった場合は、一度リモートコンソールを終了し、再度接続を試みてください。再接続が出来ない場合は、「7.1 リモートコンソールに接続できない場合の手順」を実行してください。 コンソール端末からの接続が制限されていないことを確認してください。（「3.4 リモートコンソール設定」を参照ください。）
12	アプリケーションのバージョンを確認したい。	「7.2 アプリケーションのバージョン確認方法」の手順で確認してください。
13	リモートコンソールのファームウェアバージョンを確認したい。	リモートコンソールのファームウェアバージョンの確認はサーバブレードの Web コンソールにより行うことができます。詳細は「ユーザズガイド」の「サーバブレード設定の詳細」を参照ください。
14	サーバブレード側画面の一部しか表示されない。	サーバブレード側画面の表示解像度がコンソール端末より大きい場合、画面の一部しか表示されません。コンソール端末のマウスカースルで画面右、画面下のスクロールバーを操作することにより、画面の表示範囲を変更できます。 （「4.10 画面表示範囲の変更方法」をご参照ください。）
15	スクロールバーの操作ができない。	マウスモードがRELATIVEモードの場合、[Alt]+[F]キーによりコンソール端末側マウスカースルが表示され、スクロールバーの操作が可能になります。（「4.10 画面表示範囲の変更方法」を参照ください。）
16	Red Hat Linux で解像度、色数の切り替えが正しく行われたい。	Red Hat Linux の GUI の「システム→設定→解像度の設定」により設定を行うと、解像度、色数の設定が正常に反映されなかったり、解像度変更後に画面が乱れたりする場合があります。 （「4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法」の「Linuxのディスプレイ設定方法」を参照ください。）

項番	問題点	対処方法
17	Red Hat Linux 使用時にサーバブレード画面の更新が行われず、古い画像が残ったままになる。	/etc/X11/xorg.conf の「Section "Screen"」－「DefaultDepth」および「Section "Screen"」－「SubSection "Display"」－「Depth」が「16」に設定されていない場合、古い画像が残る場合があります。 これらの設定を「16」にしてください。設定方法は「4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法の「Linuxのディスプレイ設定方法」「GUIが使用できない場合の設定方法」を参照ください。
18	Linux で 800x600 までの解像度しか設定できない。	モニタータイプが正しく設定されていない場合、800x600 より大きな解像度に設定できない場合があります。「4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法」の「Linuxのディスプレイ設定方法」に従い設定を行ってください。
19	Windows で色数を「高(24 ビット)」とすると画面表示が行われない。	1024x768 以下の解像度の場合、使用可能な色数は「中(16 ビット)」および「最高(32 ビット)」となります。 1024x768 より大きい解像度の場合、「中(16 ビット)」のみのサポートとなります。 上記の色数をお使い下さい。
20	Red Hat オリジナル CD を使用してインストールを行った時、インストーラの画面が表示されない。または、画面の一部しか表示されずインストールの操作ができない。	「7.4 Red HatオリジナルCDを使用してのインストール」を確認してください。
21	Windows 2003 Server インストール中に、キーボード、マウス入力ができなくなる。	以下の Windows インストーラの不具合が原因である可能性があります。 http://support.microsoft.com/kb/827052/en-us ロゴ認証取得していないドライバをインストールした場合に、この不具合が発生する可能性があります。 ロゴ認証取得したドライバをご使用ください。
22	リモートコンソールアプリケーション実行時に、「STOP:0x000000EA」のコードでコンソール端末の Windows が青画面になる。	コンソール端末の VGA ドライバの不具合が原因である可能性があります。コンソール端末の VGA ドライバを最新のものにアップデートしてください。
23	「サーバとの接続がタイムアウトしました」というメッセージが表示され、リモートコンソールが終了する。	ネットワーク障害により、サーバブレードとの通信が途切れた可能性があります。1分ほど待ち、「7.1 リモートコンソールに接続できない場合の手順」を実行してください。
24	リモートFD機能でFDドライブを選択できない。	FD ドライブを開いているアプリケーションがある場合、リモートFDを開始できません。FDドライブを使用しているアプリケーションを終了してください。
25	FD イメージファイルを複数のサーバで共有できない。	FD イメージファイルを複数のサーバで同時に使用するには、FD イメージファイルを「読み取り専用」に設定する必要があります。

項番	問題点	対処方法
26	Linux 使用時に、リモート FD への書き込みが FD メディア/FD イメージファイルに即座に反映されない。	書き込んだ内容が FD メディア/FD イメージファイルに反映されるまで時間がかかる場合があります。リモート FD をアンマウントするか、「sync」コマンドを実行することにより内容を反映させることができます。
27	サーバブレードの EFI(BIOS)または OS が、リモート FD、リモート CD/DVD を認識しない。	ツールバーのアイコン表示でリモート FD、リモート CD/DVD が開始されていることを確認してください。リモート FD、リモート CD/DVD が開始された状態でサーバブレードに認識されない場合、「7.5 リモート FD、リモート CD/DVD が使用できない場合の復旧方法」に記載の手順を実行してください。
28	リモート FD、リモート CD/DVD の接続が切れ、使用不可となる。	「7.5 リモート FD、リモート CD/DVD が使用できない場合の復旧方法」に記載の手順を実行してください。
29	OS インストールにおけるインストールメディアの入れ替え時に入れ替え後のメディアが認識されない場合がある。	メディアの入れ替え後すぐにインストールを続行すると、メディアが OS インストーラに認識されない場合があります。物理ドライブを使用する場合は、入れ替え後、物理ドライブが Ready 状態になった後にインストールを続行してください。イメージファイルを使用する場合は、入れ替え後、5 秒ほど待ってからインストールを続行してください。
30	CD/DVD イメージファイルを使用して VMware をインストールすると、CD/DVD イメージファイルの切り替え時にインストーラがハングアップする。	以下のいずれかの方法で本現象を回避できます。 (1) VMware のインストール開始前にリモート FD を接続し、リモート FD を接続したままインストールを行う。 (2) CD/DVD イメージファイルの切り替え時にツールバーの「CD/DVD 終了」を選択せず、「CD/DVD 選択」を選択してイメージファイルを切り替える。
31	リモート FD またはリモート CD/DVD を接続した状態で VMware を起動できない。	VMware の起動はリモート FD、リモート CD/DVD を接続していない状態で行ってください。
32	Red Hat Linux で X Window System が起動しない。	「4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法」の「Linux のディスプレイ設定方法」「GUI が使用できない場合の設定方法」に従い設定を行ってください。
33	リモート FD、リモート CD/DVD を開始できない。	リモートコンソールアプリケーションは、リモート FD、リモート CD/DVD のためにそれぞれサーバブレードの 4995、4997 番ポートと通信します。ご使用の LAN 環境でこれらのポートを使用した通信が可能になっている必要があります。
34	コンソール端末の OS が Windows Server 2008 または Windows Server 2008 R2 のときリモート FD、リモート CD/DVD および FDDUMP を使用できない。	ビルトインユーザ以外のユーザでリモート FD、リモート CD/DVD、FDDUMP を使用した場合に本現象が発生する場合があります。リモートコンソールアプリケーションおよび FDDUMP を起動する際に、コンテキストメニューの「管理者として実行」を選択して起動することで本現象を回避できます。

7.1 リモートコンソールに接続できない場合の手順

リモートコンソールに接続できない状態になった場合は、手順 1 にて再度接続を実施してください。手順 1 で接続を復帰できない場合は、手順 2 を実施してください。

手順 1

- (1) 「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[リモート終了]ボタンでリモートコンソールアプリケーションを終了します。
- (2) デスクトップ上にあるリモートコンソールのショートカットをダブルクリックしてリモートコンソールを再度起動します。
「4 章 使用方法」をご参照ください。

手順 2

- (1) 「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[リモート終了]ボタンでリモートコンソールアプリケーションを終了します。
- (2) システムコンソールに接続し、[PC コマンド]-[P.Power Control]-[R.Restart]によりサーバブレードの BMC を再起動します。サーバブレード BMC の再起動には数分かかります。システムコンソールの使用方法については、「ユーザズガイド」の「マネジメントモジュールの設定」を参照ください。
- (3) デスクトップ上にあるリモートコンソールのショートカットをダブルクリックしてリモートコンソールを再度起動します。「4 章 使用方法」をご参照ください。

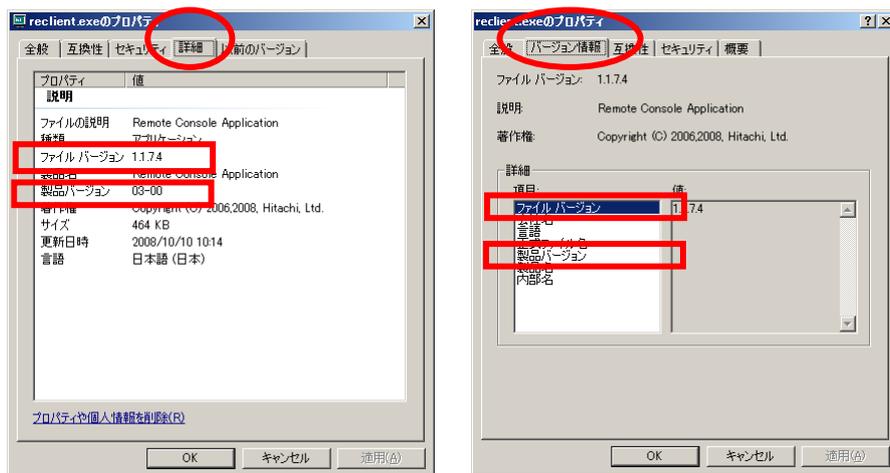
7.2 アプリケーションのバージョン確認方法

リモートコンソールは、リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)とサーバブレード内にあるリモートコンソールのファームウェアが通信することによって実現しています。ここでは、アプリケーションのバージョンを確認する方法について説明します。

リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)、FD イメージ変換ツール(FDDUMP.exe)、CD/DVD イメージ変換ツール(MakeCDImg.exe)および設定ユーティリティ(reutil.exe)のバージョン確認は、以下の手順で実施してください。

(1) リモートコンソールアプリケーション (reclient.exe) のバージョン確認

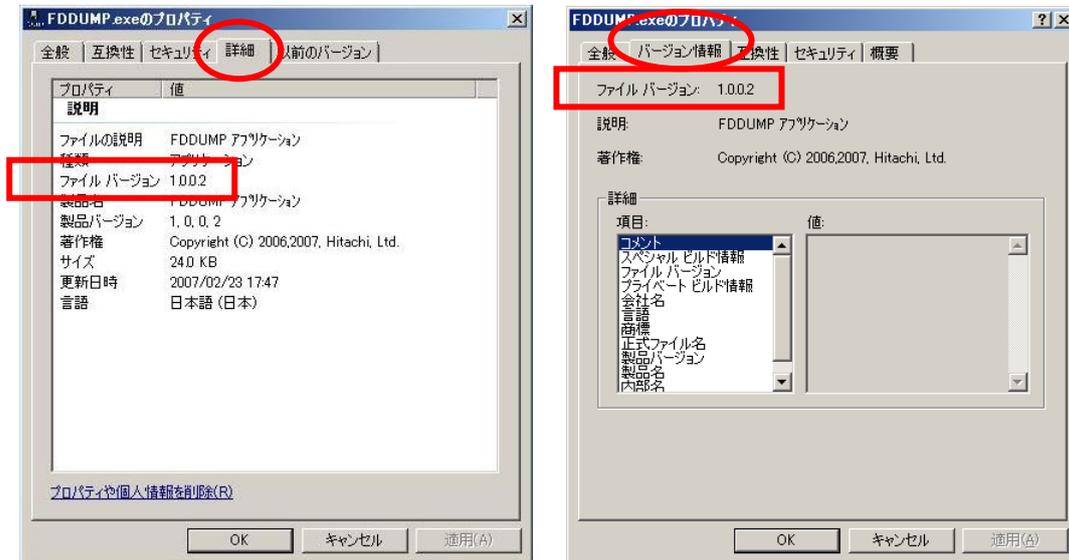
1. リモートコンソールインストール先¥bin フォルダにある「reclient.exe」のプロパティを開きます。
2. コンソール PC が Windows Server 2012 / 2008 R2 / 2008 / 8 / 7 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
3. 各タブに表示されている「ファイルバージョン」および「製品バージョン」を確認してください。



製品バージョンを確認するには、詳細項目の「製品バージョン」を選択してください。

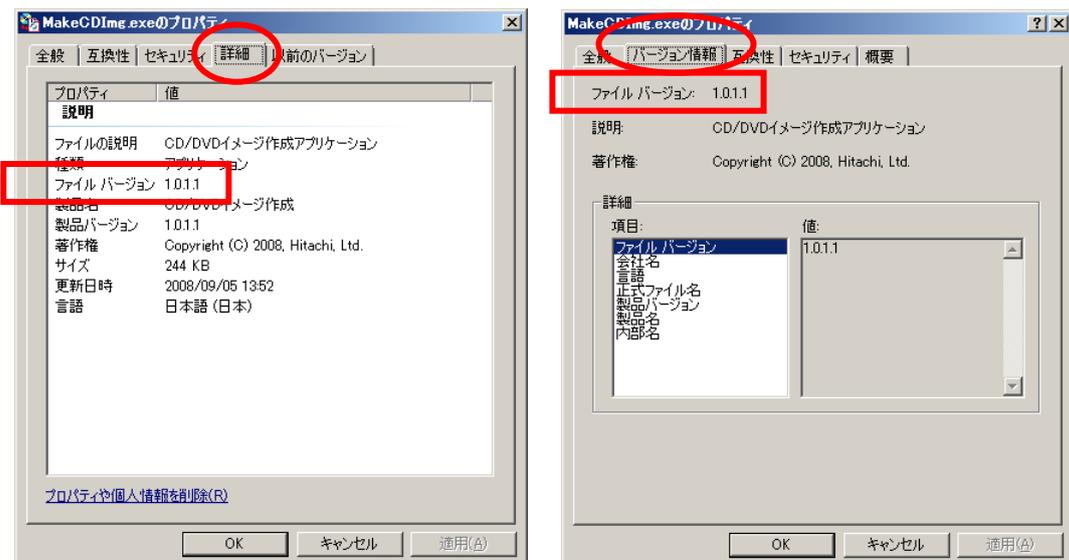
(2) FD イメージ変換ツール (FDDUMP.exe) のバージョン確認

1. リモートコンソールインストール先¥bin フォルダにある「FDDUMP.exe」のプロパティを開きます。
2. コンソール PC が Windows Server 2012 / 2008 R2 / 2008 / 8 / 7 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
3. 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



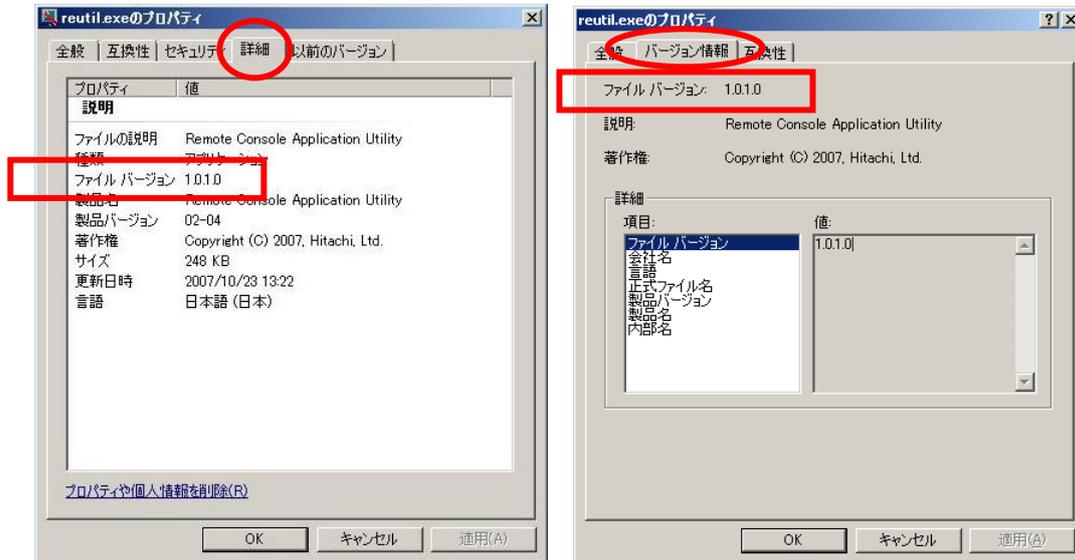
(3) CD/DVD イメージ変換ツール (MakeCDImg.exe) のバージョン確認

1. リモートコンソールインストール先¥bin フォルダにある「MakeCDImg.exe」のプロパティを開きます。
2. コンソール PC が Windows Server 2012 / 2008 R2 / 2008 / 8 / 7 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
3. 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



(4) 設定ユーティリティ (reutil.exe) のバージョン確認

1. リモートコンソールインストール先¥bin フォルダにある「reutil.exe」のプロパティを開きます。
2. コンソール PC が Windows Server 2012 / 2008 R2 / 2008 / 8 / 7 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
3. 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



7.3 リモートコンソールのファームウェアバージョン確認方法

リモートコンソールは、リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)とサーバブレード内にあるリモートコンソールのファームウェアが通信することによって実現しています。

リモートコンソールのファームウェアバージョン確認は、サーバブレードの Web コンソールから行うことができます。詳細は「ユーザズガイド」の「サーバブレード設定の詳細」を参照ください。

7.4 Red HatオリジナルCDを使用するのインストール

Red HatオリジナルCDを使用してインストールを行う場合は、下記事項を実施してください。

インストール時

(1) Red Hat Enterprise Linux 5.4 以降をインストールする場合は、以下のオプションでインストーラを起動してください。

```
boot: linux dd vesa
```

(2) インストール後の最初の OS 起動時に、サーバ側解像度がコンソール端末の解像度より大きくなる場合があります。その場合、画面右および画面下のスクロールバーを操作してサーバ画面をスクロールさせ、必要な操作を行ってください。マウスモードが「RELATIVE」の場合、スクロールバーの操作は[Alt]+[F]キーにより可能になります。詳細は「4.10 画面表示範囲の変更方法」を参照ください。



インストール後

「4.3 サーバブレードディスプレイ設定方法」の「Linuxのディスプレイ設定方法」に従い設定を行ってください。

7.5 リモートFD、リモートCD/DVDが 使用できない場合の復旧方法

リモート FD、リモート CD/DVD がサーバブレードの EFI(BIOS)や OS に認識されない場合、あるいはリモート FD、リモート CD/DVD の接続が切れ使用できなくなった場合は、以下の手順を実行してください。

手順 1 (ネットワーク確認)

ネットワーク障害により、コンソール端末とサーバブレードの間の TCP 接続が維持できない場合、リモート FD、リモート CD/DVD が切断されたり使用不可となったりする場合があります。

ネットワーク障害の有無を確認してください。ネットワーク障害でない場合、手順 2 を実行してください。

手順 2 (リモート FD、リモート CD/DVD 再接続)

- (1) 「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ、[FD 操作]-[FD 終了]および [CD/DVD 操作]-[CD/DVD 終了]を実行してリモート FD、リモート CD/DVD を終了させます。
- (2) 1 分間待った後、ツールバーの[FD 操作]-[FD 選択]および[CD/DVD 操作]-[CD/DVD 選択]により、リモート FD、リモート CD/DVD を再度開始します。

手順 2 により回復しない場合、手順 3 を実行してください。

手順 3 (サーバブレード BMC 再起動)

- (1) ツールバーの[リモート終了]ボタンでリモートコンソールアプリケーションを終了します。
- (2) システムコンソールに接続し、[PC コマンド]-[P.Power Control]-[R.Restart]によりサーバブレードの BMC を再起動します。サーバブレード BMC の再起動には数分かかります。システムコンソールの使用方法については、「ユーザズガイド」の「マネジメントモジュールの設定」を参照ください。

手順 3 により回復しない場合、手順 4 を実行してください。サーバブレードの電源を OFF にできない場合は、お買い求め先か保守員にご連絡ください。

手順 4 (サーバブレード電源 OFF/ON)

- (1) OS のシャットダウン操作により、サーバブレードの電源を OFF にします。OS が起動していない場合は、ツールバーの[電源]-[強制電源オフ]によりサーバブレードの電源を OFF にしてください。
- (2) ツールバーの[リモート終了]ボタンでリモートコンソールアプリケーションを終了します。
- (3) デスクトップ上にあるリモートコンソールのショートカットをダブルクリックしてリモートコンソールを再度起動し、サーバブレードに接続します。
- (4) ツールバーの[FD 操作]-[FD 選択]および[CD/DVD 操作]-[CD/DVD 選択]により、リモート FD、リモート CD/DVD を開始します。
- (5) ツールバーの[電源]-[電源オン]により、サーバブレードの電源を ON にします。

手順 1 ~4 を実施しても問題が解消されない場合は、お買い求め先か保守員にご連絡ください。

BS2000 用
リモートコンソールアプリケーション
ユーザーズガイド
第 10 版 2013 年 6 月
無断転載を禁止します。

株式会社 日立製作所
IT プラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地

<http://www.hitachi.co.jp>